九州の風景街道

その1　総論

	人口	面積
福岡県	511万人	4987㎢
佐賀県	81万人	2441㎢
長崎県	133万人	4131㎢
熊本県	175万人	7409㎢
大分県	113万人	6341㎢
宮崎県	107万人	7735㎢
鹿児島県	160万人	9187㎢

計　人口　1,281 万人
　　面積　42,231 ㎢

2019/10 /1 現在

日本風景街道ガイドブック

歴史の足跡を残しつつ
暮らす九州

①-1　東シナ海に浮かぶ凱旋門岩（薩摩川内市下甑島）Q-⓮

①-2 砂防締切り堤防内のしまばら火張山公園と雲仙岳（島原市）Q-⓯

厳しくもさまざまな
大自然を舞台に

目次

一　魅惑の九州風景街道へようこそ　・・・・1

1　九州における風景街道とは
2　協議会と道守、道の駅が連携する九州の風景街道
3　七県7色に輝く九州の風景街道

二　九州の地域資源を探る　・・・・5

それぞれの風景街道めぐりに向けて

1　九州の地質は古生層、火山噴出、付加体の3構成
2　連なる山々、少ない平地、多島の九州
3　3タイプの気候の中、温帯・亜熱帯に跨る九州
4　国立・国定公園とジオパーク、ラムサール湿地など
5　九州の「棚田百選」と世界農業遺産
6　世界文化遺産と無形文化遺産

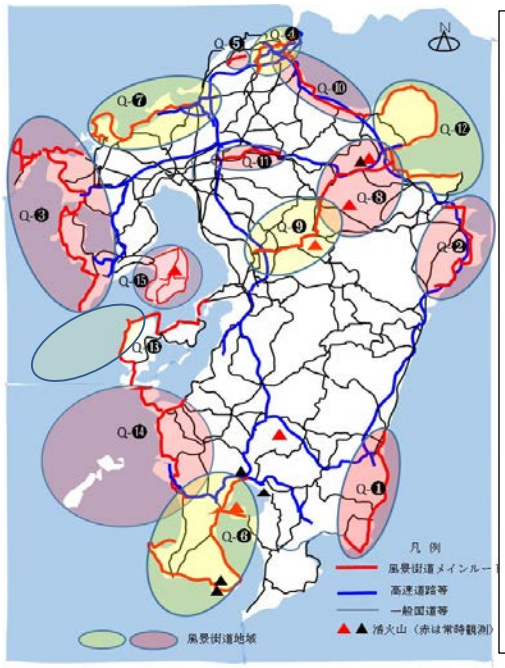
三　神話時代から長い歴史を刻む九州の風景街道地域・18

1　九国二島の古代から江戸期を経て現代の七県体制へ
2　わが国の歴史を物語る九州の風景街道

四　九州を周回する十五の風景街道とは　・・・27

豊かな自然と多彩な文化を訪ね行く

1　日出る温暖の太平洋沿岸を行く東九州
2　邪馬台国への道、玄海灘沿岸を進む九州北部
3　サンセットの半島・離島をドライブする西九州
4　山々を越え、ツーリズムを楽しむ九州横断



東九州(太平洋沿岸)　・・・・・29
Q-❶　日南海岸きらめきライン
Q-❷　日豊海岸シーニック・バイウェイ
Q-⓬　別府湾岸・国東半島海べの道
Q-❿　豊の国歴史ロマン街道
九州北部(玄界灘沿岸)　・・・・・34
Q-❹　北九州おもてなし“ゆっくりがいどう”
Q-❺　ちょっとよりみち唐津街道むなかた
Q-❼　玄海灘風景街道
西九州(東シナ海沿岸)　・・・・・39
Q-❸　ながさきサンセットロード
Q-⓯　島原半島うみやま街道
Q-⓭　あまくさ風景街道
Q-⓮　薩摩よりみち風景街道
Q-❻　かごしま風景街道
九州中央横断　・・・・46
Q-❽　九州横断の道やまなみハイウェイ
Q-❾　九州横断の道阿蘇くまもと路
Q-⓫　みどりの里・耳納風景街道

原爆、壊滅的な戦災、アジアの荒波をやっとに乗り越え復活

② 原爆犠牲者の冥福を祈る平和祈念像
（長崎市松山町）Q-❸

その上に構築された九州の風景街道を訪ね行く

③ 稲作の伝来、遣唐使、元寇、参勤交代と見続けた
歴史の証人・玄界灘と生の松原（福岡市西区）Q-❼

魅惑の九州風景街道へようこそ

古事記に、よく知られた国生みの神話がある。伊邪那岐（イザナギ）・伊邪那美（イザナミ）の二神が、わが国の島々を創成した話だ。矛で混沌をかき混ぜて淤能碁呂（オノゴロ）島をつくり、そこで大八島国が生まれた。その四つ目が筑紫島（つくしのしま）と称した九州本土。これに伊伎島（いきのしま。壱岐島）、津島（つしま。対馬）が続く。その後、６島が加わった。うち、女島（ひめじま。大分県国東半島の姫島）、知訶島（ちかのしま。五島列島）、両児島（ふたごのしま。長崎県五島市の男女群島）がまた九州の島々といわれている。

国生みの１４島のうち、実に４割の６つが九州関係とされる。大陸から分離したと思える前段の３島。その後も、噴火や地殻変動が続いて生まれた島々。その数が全体の相当を占めることから、国生み神話までが、多島・九州の地理的特徴をよく物語るといえよう。

九州の島々をまとめて単に「九州」と呼べば、それがいつ頃からか、どの範囲かは定かでない。古代の五畿七道に従うと、九州は「西海道」である。九つの国(州)に細分され、これに壱岐、対馬を加えて、「九国二島」とも称した。

鎌倉時代には、九州に鎮西探題が置かれた。このことから「鎮西（西方を鎮めるの意味）」と呼ぶこともある。そして明治の廃藩置県・府県合併の後、九国二島は７県に整理され、これに沖縄県を含めて、「九州」と呼んだ。

とはいえ、沖縄は、島津が支配する以前は九州とは別の「琉球王国」である。また、第二次太平洋戦争後しばらくはアメリカ合衆国の統治下にあった。そして現在、国の出先機関に関し沖縄開発庁が置かれ、九州地方整備局などとは別扱いである。これらから、沖縄を除いて九州、あるいは九州・沖縄地方と、沖縄を別にすることが多い。本文も沖縄以外の７県の総称に九州を用い、その主体である筑紫島を九州本土と呼ぶことにする。

ところで、神々が住む高天原から見渡すと、九州は、日本の中で最も西に位置している。多くの火山を抱え、地形・地質は大きな変化に富み、亜熱帯、温帯に跨る気候や植生をなすことから、豊かな自然に抱かれている。

一方で、地理的にアジア大陸に近いことから、旧石器時代の数万年以上も前から人々が住みつき、歴史を刻んできた。これらから、九州の地に様々な文明・文化が発達。それらは九州人にとってやっと手にした果実であり、誇りである。国内外の皆さんに是非見て戴きたいとの思いが強い。

図１　九州と古事記神話の国産みのイメージ図

つまり、九州巡りは、多様な地形・地質、自然、そしてそれらに九州人が刻んだ歴史の軌跡を訪ねることである。発達した九州固有の文明・文化を垣間見ることであり、同時に、場所ごとに様変わりする九州の風景を満喫し、暮らしや風習に触れ、楽しむことである。

九州風景街道は、このことを念頭にして構築された旅のスタイルだ。観光巡りだけでない。人の営みを含め、ありのままの九州を堪能し、交流を深め、その文化をより深く理解することを企図している。

しかし、その意義を生かすために、七県七色ともいわれる多彩な九州の何をどのように巡ればよいか明らかでなければならない。それらにどんな意味や面白さ、物語があるか、どんな演出やもてなしが期待できるかなどを事前に知ることが望ましい。

そこで、九州に設定された多くの風景街道について、本書ではその全体概要を紹介し、その上でルートごとのガイドブックを別途作成し届けるものである。九州を巡る前に、「読みんしゃい」だ。その上で、「来んしゃい、見んしゃい、楽しみんしゃい、人のくに、美のくに九州を」が、本ガイドブック・シリーズ作成の狙いである。

１　九州における風景街道とは

(1)　休暇街道とシーニック・バイウェイ

最近の国内外を問わない交流社会の拡大と経済発展から、私達は日常的に多忙な仕事、変化目まぐるしい生活の中にいる。それだけに時に心身を休める旅、普段接することのできない人々との触れ合い、好みを生かす旅を望むことも多い。くつろぎや心身を鍛え、人生の糧になる体験に目が向き、その一形態が各地を寄り道する旅で、これに先鞭をつけたのがドイツの**休暇街道**である。あるいは、車社会の中で大自然を回遊しつつ展開を図ったアメリカの**シーニック・バイウェイ**（以下ＳＢと略す）がある。

前者は観光街道とも呼ばれ、単に限られた観光地を巡るものでない。地方の優れた景色や自然に触れ、史跡、歴史、寺院、工芸品、由緒あるまちなどを巡るもので、各人思い思いの休暇を楽しみ、心身をリフレッシュする旅である。このため、回遊や寄り道の基本はドライブだが、それ以外にもバスや鉄道、サイクリング、ウォーキングなど、人が望むそれぞれの移動手段やその組み合わせを含む。だからこそ、世界から多くの人々が歳に関係なく引き寄せられ、リピーターも多い。著者もこれまで４度訪ねたが、それでも興味は尽きない。

休暇街道で最も古いものは南ドイツのアルペン街道である。いまから約９０年前の設定で、アルプス山脈を縫う４５０㎞のルートだ。以来、通商路や軍用路などの歴史街道を主にして多くの街道が整備された。特に、第２次大戦後の設定が多いが、国内だけでも１５０のコースを数え、中には隣国へと国境をまたぐものもある。

他方、米国のＳＢは、１９８９年制定のシーニック・バイウェイ法に基づいている。大自然の中で風光明媚な寄り道、脇道を巡る回廊の整備と活用である。

１９８０年代、アメリカで国内旅行が活発化し、幹線道路を突っ走って主要な観光地や都市を巡るだけが旅でないとした。景観、歴史、自然、文化、レクレーションおよび考古学に優れた地域を指定し、寄り道を整備し、地域振興を図ることを目的に新たな旅のスタイルが提案された。ルートの内容と重要さに応じて、国で２段階に分けて指定。加えて、州などの自治体の指定があり、全部で４タイプに及ぶおびただしい数のＳＢが構築されている。

バージニア州からノースカロライナ州に至るブルーリッジパークウェイ（延長７５５㎞）が最初の指定で、最上級のオールアメリカンロードである。広大な自然公園の中で、遠方の幾重にも重なる山々を眺めながら、緑豊かな森や静かな湖畔を満喫し、開拓者の街やアメリカンドリームの歴史と施設を訪ねるものである。年間２０００万人、九州全人口の１．５倍に達する来訪者があると聞く。

休暇街道とＳＢは、結果的に交流を目指し、類する旅の意味を持つ。しかし、強いていえば、そもそもの地域がもつ資源と導入の背景が異なる。前者は、自然以外の地域資源あふれる中に自然資源が並ぶ。一方、ＳＢは、自然あふれる中で、それ以外の地域資源を掘り起こし、それらにも目を向ける。この違いが旅のスタイルや地域資源の選択と整備のあり方を異にすることはいうまでもない。

そして足元をみると、わが国もまけていない。江戸時代から、伊勢参り、熊野詣、四国八十八箇所巡りなどがある。途次の町々に寄り道しての「やじさん、きたさん」の寺社詣だが、どちらかといえば休暇街道に近い。

これに対し、最近、アメリカのＳＢに類したものが自然の豊かさを背景に北海道で導入された。これを機に、わが国も全国、とりわけ地方でＳＢの構築を目指し、そうした街道づくりが広まり、それを**日本風景街道**と呼ぶ。

九州も、この動きの中、２００７年から２０１９年までに１５か所の風景街道が指定された（本章３節および四章）。それらをみると、**ＳＢ型**の先進事例北海道とは明らかに異なり、暮らしやまちの歴史、遺跡、文化等に重点を置くものが多い。これらから、九州は**休暇街道型の風景街道**が主であり、これに部分的にＳＢ型が含まれる。これは九州ならではの事情によるといえ、そうした観点で九州の風景街道とは何か、その基本は何かを考えよう。

（2）　九州の風景街道とは、その３つの構成要素とは

旅には、寺社参りなどの目的があるもの、目的なくさすらうものなどさまざまだ。そうした中で「九州の風景街道は何か」を理解するヒントは、皆さんも覚えがある次の二つの旅のスタイルにある。

一つは、高速道路を身近に利用し手軽に観光地巡りする時代とはいえ、時に一般道や街の道をのんびりとドライブする旅もあることだ。ビッグな観光地を、高速道路を活用して点から点へと突っ走るだけが旅ではない。むしろ高速道路の役割はサブである。それによって諸地域にアクセスし、暮らしの中の安らぎを求めるまち歩き、有名でなくても地域の資源や出来事に関心を抱く旅がある。癒しの旅、体験の旅、学習の旅なども。

いま一つは、外国人の入込み観光で、近年、クルーズ船でゆっくり時を楽しむ寄港観光が話題だが、その質の変化である。寄港地からすれば、当初は、ピストン型による魅惑の観光、土産物、観光産業の振興、にぎわいのイベント、グルメ志向の食文化などに強い関心があった。しかし、それを過ぎると、必ずしもビッグでないが、多彩な地域資源に興味を抱き、それを目的に寄り道する人々が増えている。かつての日本人の海外旅行からすると、その傾向はリピーターほど強く、今後の外国人観光客の重要なスタイルの一つになるだろう。

要するに、多くの人々がまとまって興味を持つ観光地、価値の高い観光スポットを主に回遊する旅に加え、その対極ともいえる個人が関心を抱いて地域の資源を対象にする旅があり、両者の間に様々な旅のスタイルが生まれている。こうした多彩な旅を突き詰めると、後述の「地域資源」、「来訪者」、「地域のもてなし」の３者を繋ぐ新たな旅の仕組みが考えられ、ゆとりや体験を楽しむローカルな旅も浮かび上がる（図２参照）。九州が目指す風景街道は、そうした多様な旅に応えることである。

むろん、この考えは休暇街道もＳＢも同じである。また、ＳＢの訳にわが国では単に風景街道としたに過ぎない。それにしても、九州では「風景」や「街道」の意味を幅広くとらえることが大切である。

古代、東海道、山陽道などと称し、「道」は道の意味にも、地方の意味にも用いた。九州を意味する西海道の道もしかりである。これから、移動に不可欠な道、路に加え、地域、地方、あるいはまちやむらの意味を込め、街（地域）と道（移動）を包括する「街道」と解釈ができ、造語とすることができる。一方、「風景」は、眼前の眺め、情景に限らない。地域の多彩な暮らしやイベント、文明・文化、物語を含み、奥深い内容を包括する。

この風景や街道の拡大解釈で、観光にとどまらない**「地域資源」**は何かと問われれば、地域で魅力ある風景を提供するにふさわしい事柄である。分かったようで分からない定義だが、**風景ポイント（スポット）**に関し、国内外で取り上げられている内容を可能な限り集めると、次の１０項目に纏められる。

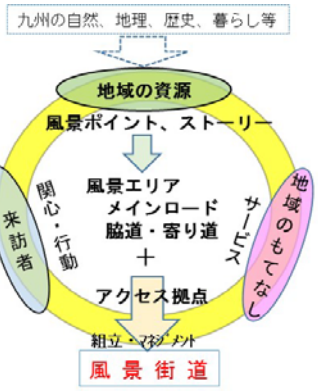


図２　九州風景街道の構成

寄り道　ロマンチック街道

休暇街道の中で日本人がよく訪れるのは「ロマンチック街道」。正式には「ローマへの巡礼の道」である。ロマンチックは情緒の意味でない。ドイツ南部のヴェルツブルクからアルプス越えのフュッセンまで、全長３６６㎞。１９５０年の指定だが、中世都市、美しい城、宗教建築、ワイン産地への寄り道がちりばめられている。

北から南へ向かえば、ヴュルツブルクの司教館・レジデンツがある。バロック風様式で世界遺産だ。また、中世の町並みがそのまま遺るローテンブルク・オブ・デア・タウバーは「ロマンチック街道の宝石」といわれている。

ロマンチック街道の中心都市アウクスブルクはドイツでも古いまちだ。紀元１５年にローマ人の手で建設された。また、多くの観光客を集めているのがシュヴァンガウのホーヘンシュヴァンガウ城、ノイシュヴァンシュタイン城の２つである。

ノイシュヴァンシュタイン城

自然・環境など

1 ありのままの自然と環境（海、山野、河川・湖沼、生物と自然現象、風景）

2 人が手を加えた自然（草原、牧場、棚田、温泉、植栽、庭園など）

遺跡・歴史遺産など

3 古代遺跡・遺構　**4** 歴史遺産、歴史街道

5 歴史的な町並みおよびまち、集落　**6** 信仰、神社仏閣（教会を含む）

文化など

7 文化、伝統芸能、祭り、風習　**8** 食文化、地場産品、伝統工芸

9 景観的、伝統的、郷土的に価値ある建造物　**10** その他（イベント、テーマパーク等）

大きくは自然、歴史、文化に3分される。九州固有の自然や地形・地質に限らず、長い間、九州の大地に刻み込まれてきた遺跡と歴史、暮らしがある。その物語や謂れ、文化、イベントなどのソフトがあり、人を介する地域資源相互の繋がりがある。旅の質の向上は、これらハード、ソフトの両面を含め、その何を風景ポイントにするか、どのように組み合わせるかがルートごとに問われる。

広域化・国際化する大交流時代、多文化共生の社会にあって、来訪者も、集団から個人への流れの中で、地域内、近隣、遠方と様々だ。ゆとり社会が問われる中、旅への関心は域内でも杓子定規に測れない。時を超える街歩き、分野を超える交流と理解が望まれる。最近の国外からの来訪者も、その広がりは一昔前と比較にならない。韓国、中国、台湾に加え、フィリピン、ベトナム、インドネシアなどのアジア諸地域、諸国からと拡大、さらに欧米も増え、多彩な価値観を持つ。

こうしたことから「**来訪者の関心と行動**」は、個人、個人で異なり、来訪の目的は、時代とともに変化している。自然の成り立ちや仕組みに興味を持つもの、地域の祭りや文化に関心を抱くものなど様々だ。同じまちや村を巡る旅も、最初と2度目では興味の対象が異なる。これらの意味で、受け入れるにしても、来訪者のニーズを常に把握し、風景ポイントの内容や旅のインセンティブを明らかにすることが大切である。通常の商品と同様に、風景ポイントについて常にマーケティングが必要であり、マーケティングなくして魅力の向上、時代に即したニーズの把握と掘り起こしはありえない。

3つ目の「**地域のもてなし**」は、来訪者が期待し満足するもてなしである。風景ポイントの整備と維持を図り、風景街道に関する情報発信やガイド、資料の提供がある。体験する、学習するなどの手伝いやお膳立てがある。地場産品の商品化による魅力の向上も考えられる。

以上の3つは、観光事業にない日常的な内容や個人活動、来訪者の評価意識を含むが、決して特別でない。周りをみて分かるように、お年寄りが、主婦や若者が、客を迎えるために日頃何気なく行っていることである。地域のなんでもない風景が、それを語ることで新鮮に映る。地域の暮らしや祭りがその意味を理解し、イベントに参加することで生涯忘れられない体験となる。心のこもったB級、C級の郷土料理や家庭の味が人によっては超A級グルメと受けとめられ、花植えや清掃が旅人の心を癒す。

九州の風景街道は、こうした様々な内容を地域ごとに取り出すものである(図2)。どんなに立派な風景ポイントも、来訪者の狙いと異なれば感動は小さい。何の説明もなくたどれば、旅の面白さは半減し、記憶から薄れやすい。地域の人々との触れ合いやもてなしがなければ旅の興味は満たされない。だからこその取り組みだ。その様は、托鉢して各地を流浪した山頭火でないが、〝分け入っても　分け入っても青い山〟であり、奥深いことだろう。

(3) 風景街道のエリアとルートについて

風景街道の具体化で、その内容、回遊や活動の範囲は空間、時間の上で無限でないが、その観点の一つに来訪者の視点がある。関心を持って連続的に巡る風景ポイントがつながり、限られた期間でめぐる旅の範囲だ。それは、旅の内容や質に加え、期間や交通手段でも違いがある。期間が長ければ多くのスポットを訪れることができ、マイカーでは行動が広く、公共交通では点のつながりとなりがちであり、徒歩では狭くも細やかな行動となろう。

いま一つは、地域のもてなしからの視点である。地域の人たちが、誇りを持って様々な風景資源を整え、回遊のネットワークを組み立てる範囲、地域のまとまりといってもよい。ただ、これも対象資源の選び方、地域の活動組織の作り方などで様々な組み立てとなる。

風景街道の範囲は、これら2つの考えで捉えられるが、決まったルールはない。そうした中、現に設定されたものを並べると後者のもてなしの観点が主である。これは風景街道の推進母体が地域にあること、来訪者の行動が多彩であり捉えにくいことから、来訪者に「来んしゃい、見んしゃい」と呼びかけることによる。つまり、各々の**風景街道のエリア**は、来訪者の意をくみつつ、住民の考えで地域資源をまとめて活動する範囲である。

一方、エリアを定めても、来訪者は多くの異なる価値観を持ち、行動パターンは様々。そのビッグデータを概観すると、風景街道地域の中で、地域へのアクセスや回遊の骨格となるルートが自ずと浮かぶ。それが風景街道の動脈となる旅路であり、地域回遊の**メインルート**である。しかし、それだけで個々の風景ポイントにたどり着くことはできない。資源や施設にたどりつくための補完や末端のアクセス路、狭義の脇道、寄道といったラストワンマイルも忘れてはならない。

以上から、風景街道地域は、その骨組みを定め、旅の限度を考慮し肉付けされる。車以外の交通手段のつながりにも配慮した交通ネットワークの中に風景ポイント（**点**）が広がり、地域へのアクセス交通とその骨格（**線**）があり、末端への交通網が風景街道の幅（**面**）を広げ、地域の人々の語り（**情報**）やもてなし（**心**）が添えられる。言いかえれば、点・線・面の組み立てをなすエリアに、情報を流し込んで風景街道の範囲と内容が定まるが、その結果は地域ごとの手作りであり、地域の人々のやる気と来訪者の興味の重なりである。

2 協議会と道守、道の駅が連携する九州の風景街道

(1) 風景街道推進のための協議会など

地域の資源は地域のもの、地域のことは地域の人がよく知る。風景街道は、地域の人々が地域の発展を願い、地域資源に着目する活動である。そのため、市民、企業、関係団体、行政といった関係者が協働する**風景街道協議会**の組織化がルート毎に求められる。

一方、風景街道の推進で何をしなければならないかを考えると、これが実に多い（表1）。風景街道の

構築と整備、美化活動、情報発信、来訪者と地域の人々とのつながりの構築などがある。むろんこれらは協議会構成の諸団体が各々で分担している。

逆にいえば、協議会の構成のあり方で風景街道の活動内容は異なる。たとえば、「薩摩よりみち」では花植えによる沿道修景と麓の武家屋敷めぐりが活発。「蒲江・北浦」では海業をテーマにする体験学習が売り物で、「日南」は神話と奇岩・亜熱帯植物の日南海岸に活動の主眼がある。

こうした地域資源や活動内容をよく見ると、民間・個人等による管理と行政による管理があり、行政資産と民の財産が混在する。このことから、協議会は官・民のパートナーシップが大切で、協力し合う必然がある。その上で協議会の活動は何かと問われれば、パートナーシップを組む構成員や活動内容に関わるマネジメントである。風景街道を総合的に束ね、その申請・認可のコアとなり、共に行動する個人や地域団体の相談にのり、舵取りが求められるところである（図3）。

円滑な風景街道の推進と質の向上のため、多彩な情報の入手が必要で、その一手段に九州では**風景街道ルート別代表者会議**が結成されている。各地の風景街道の実践は、「人の振りを見て我が振りを直せ」であり、「協調したい、切磋琢磨したい」だ。情報交換で無駄を省き、前に進むことが望ましい。

要するに、風景街道は、域内外、国内外から集まる多くの来訪者と地域の人々による交流社会の形成、それらを生かした地域の活性化を目指している。そのため、一定の質や信頼、効果が求められる。そこで、わが国をいくつかのブロックに分け、官民による風景街道推進会議を設立し、その指導の下で申請受付、認可・登録を行うシステムが採用されている（図3）。**九州風景街道推進会議**は九州においてその役を担っている。

２０１９年現在、九州では１５ルートの登録があり、全国に比べ決して少なくない。しかし、質が問題である。それだけに、ルート協議会、代表者会議、そして風景街道推進会議のもとに各々が役割を果たし、ルートの特徴を生かし、地域における官民のパートナーシップを積極的に推進することが大切と考える。

（2） 道と関わる3団体「道守、道の駅、風景街道」の連携活動

九州の風景街道についていま一言付け加えよう。それは、個々の風景ポイントをドアツードアに訪ねるとなれば、前述のように、地域へのアクセス交通、地域を回遊する道、末端の脇道が必ずや求められ、このことを踏まえた活動のあり方が重要である。すなわち、九州地方は、自然や地形、地理的要件と、長い歴史を刻む時代の流れで発達した地域、風景資源、および交通手段の積み重ねである。その結果、海路、空路、鉄道の整備は比較的整備が進むものの、地域は分散し、移動の上で道、路への依存が強い側面があることも事実である。このためか、道に関わる３つの活動組織、「道守」、「道の駅」、および「風景街道協議会等」があり、暮らしだけでなく、旅への関わりも努力が重ねられている（図4）。九州の各地を巡るとき、**「道守活動中」**ののぼりを立てて、熱さ寒さをいとわず沿道で清掃活動を行い、

表１協議会のマネジメント内容

1　風景街道の構築と整備	市民と行政のパートナーシップ（風景街道協議会）
風景街道地域の組み立て 風景ポイントの整備と保全 風景ルート、回遊路の整備 （解説板、道案内等を含む）	
2　運　営	
風景街道組織の運営 イベントの企画・実施 地域の人々のつながり強化 ガイドの育成と運営	
3　情報発信	
情報の収集と発信 PR活動	
4　地域との連携活動	
地域間交流、地域福祉の支援 地域の修景・美化活動 地域安全の確保、環境保全 地場産品の開発、利活用	

表２　九州の風景街道一覧（名称、設立母体など）

Q	名　称	(略称)	関係市町村	メインルート	延長 km	設立母体	関係団体数	設立年
❶	日南海岸きらめきライン	日南海岸	宮崎、日南、串間市	国道220, 222, 448, 県道28	200	日南海岸地域シーニック・バイウェイ推進協議会	51	2007
❷	日豊海岸シーニックバイウェイ	日豊海岸	佐伯、延岡市	国道388, 県道, 市道	94	日豊海岸シーニック・バイウェイ研究会	32	2007
❸	ながさきサンセットロード	ながさき	松浦、平戸、佐世保、西海、長崎市、佐々町	国道204, 383, 497.　国道35, 202, 499.　県道	280	ながさきサンセットロード推進協議会	61	2007
❹	北九州おもてなしのゆっくりがいどう	北九おもてなし	北九州市	門司往還, 長崎街道（大里～木屋瀬）（国	40	北九州風景街道（長崎街道）推進協議会	28	2007
❺	ちょっとよりみち唐津街道むなかた	むなかた	宗像市	唐津街道（赤間～原町）	5	唐津街道むなかた推進協議会	5	2007
❻	かごしま風景街道	かごしま	鹿児島, 指宿, 南さつま, 枕崎市, 知覧, 川辺町	国道224, 225, 226	192	かごしま風景街道推進協議会	43	2007
❼	玄界灘風景街道	玄界灘	福岡、糸島、唐津市、玄海町	国道202（唐津街道）, 204	157	玄界灘風景街道パートナーシップ推進会	26	2007
❽	九州横断の道やまなみハイウェイ	やまなみ	別府、由布、竹田市、九重町	国道500, 442, 210, 県道11	163	九州横断の道やまなみハイウェイ協議会	51	2007
❾	九州横断の道阿蘇くまもと路	阿蘇くまもと路	熊本, 阿蘇市, 菊陽, 大津, 南小国, 小国, 高森町, 産山, 南阿蘇, 西原	国道57（豊後街道）	76	九州横断の道阿蘇くまもと路推進協議会	25	2007
❿	豊の国歴史ロマン街道	豊の国	北九州, 行橋, 豊前, 中津, 宇佐市, 苅田, みやこ, 築上, 吉富, 上毛町	国道10、県道（小倉～宇佐）	77	豊の国風景街道推進協議会	31	2010
⓫	みどりの里・耳納風景街道	みどりの里	久留米、うきは市	県道151, 市道（山苞の道）	72	みどりの里・耳納風景街道推進協議会	10	2012
⓬	別府湾岸・国東半島海べの道	別府湾岸	中津、国東、杵築、別府、大分市、日出町	国道10, 197, 217	150	別府湾岸・国東半島海べの道推進協議会	49	2013
⓭	あまくさ風景街道	あまくさ	上天草、天草市、苓北町	国道266, 324, 389, 県道, 市道	142	あまくさ風景街道協議会	24	2014
⓮	薩摩よりみち風景街道	薩摩	出水、阿久根、薩摩川内、いちき串木野、日置市、長島町	国道3（薩摩街道）, 389、県道	152	薩摩よりみち風景街道推進協議会	43	2015
⓯	島原半島うみやま街道	雲仙島原	島原、雲仙、南島原	国道57, 251, 389	180	島原半島うみやま街道協議会	40	2019
	草色：内陸型、青色：沿岸型		上記の他に自治体として県が参加		平均132km		平均35団体	

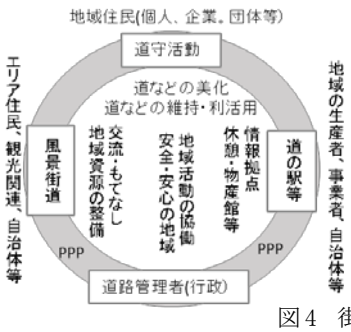


図４　街道に関わる主要団体

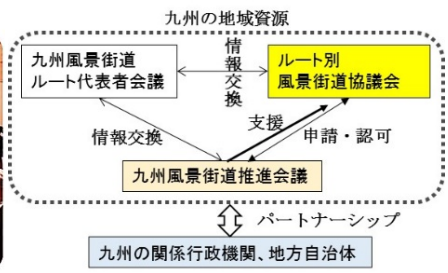


図３　風景街道の推進体制

花壇づくりにいそしむ人々を目にするだろう。回遊路の整備、祭りやイベントの開催支援、危険箇所のモニタリングなども。**道守九州会議**の設立趣意書によれば、「道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに―。それが「道守九州会議」の呼びかけとなった」とある。明らかに、道守は、地域への社会貢献と同時に、風景街道に寄与するおもてなしの活動にも通じている。九州各県の道守会議のもと、九州7県で5万8千人に及ぶ人達が思い思いにグループを作り、場合によっては個人で、万葉時代からの道守精神で活動している。その内容が風景街道と重なり、その意味で道守は風景街道推進の協働体である。

一方、旅には、地域へのアクセス、回遊の中継に伴う拠点が必要である。この拠点の機能を、旅に関わること、そのための地域・交通情報、トイレを含む休憩、緊急時対応、もてなしに絞り込めば、駅の存在がある。実は、この駅の概念は古代からのものである。洋の東西を問わず道に沿い適当な間隔で人や馬などを常備した駅を設け、使者などが馬などを乗り継ぎながら駆け抜ける交通制度があった。アケメネス朝ペルシャの王の道、モンゴル帝国のジャムチ（站赤。站は駅のこと）、東海道の宿場町しかりだ。いわゆる駅伝制度の「道の駅（駅家、宿駅）」である。その上で、交通施設の発達とともに港や空港、鉄道駅ができた。加えて、現代のモータリゼーションに合わせた「道の駅」の新たな構築があり、平成の市町村合併以前からの大都市以外の諸地域に開設されている。

ちなみに、九州全体に広く展開する道の駅は１３４か所（２０１９年現在）を数える。それで九州における国道の総延長を割れば６３㎞に一か所。風景街道を歩き、ドライブするに際して、地域情報を取得し、地域巡りの拠点に道の駅が活用でき、旅の途次、休憩や緊急時への対応ができ、車から徒歩・自転車等への交通手段の切り替えが可能である。特産品が入手でき、地域のグルメの堪能もできる。

このように九州では、道を舞台にする「**道守**」活動と、「**道の駅など**」の旅の中継拠点がある。その上で、これらを生かし、地域が一体になって来訪者をもてなすのが「**風景街道**」活動体の役であり、そうした3者の連携が望まれる。

3　七県7色に輝く九州の風景街道

九州の風景街道は２００７年の発足時で９ルートが登録され始まった。その後、理解が進むにつれて追加され、２０１９年現在で１５ルートに達するが、簡単のため、九州の略に「Q」を用い、ルート毎には表２の番号❶～⑮で表記する。

個々のルートは四章に紹介するが、各ルートの設置場所を明らかにすれば図5および表2のとおりである。県別には、福岡３（❹、❺、⑪）、長崎２（❸、⑮）、大分２（❽、⑫）、熊本２（❾、⑬）、宮崎１（❶）、鹿児島２（❻、⑭）。県またがりは、福岡・佐賀（❼）、福岡・大分（⑩）、大分・宮崎（❷）。これらは九州全域に及び、これらのうち５つは内陸型。それら以外の１０ルートは沿岸域を周回し九州７県を巡る。これは、海に囲まれ、離島・半島が多い九州の地形に基づく結果である。

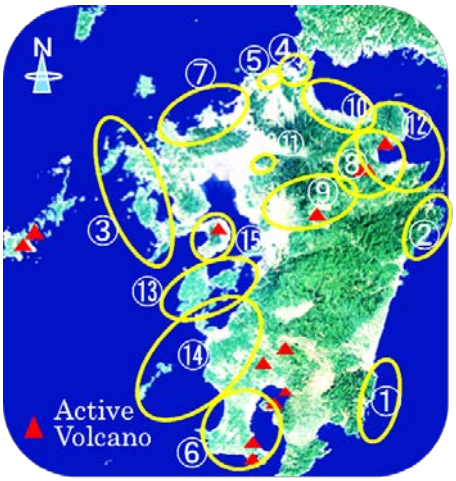


図５　九州で登録された風景街道
15 ルート（2019 年現在）

風景街道の規模はどうだろう。風景ポイントの数や活動範囲、移動距離などによる表現があるが、目安に風景街道のメインルートの延長を求め表２に併記した。アクセス拠点から一日で車による回遊が可能な１００㎞未満を小規模とすれば、６ルートが該当する。その中で最も小さいのは「むなかた」の５㎞で、まち歩きである。

１００～２００㎞は中規模で、７ルートが該当。なお、「やまなみ」と「阿蘇くまもと路」は九州横断で一つながりにもなる。これらは、本章1節（3）に述べた地域の考えと来訪者の行動の違いである。

２００㎞以上は「日南海岸」の２００㎞、「ながさき」の２８０㎞の２ルートで、九州では大規模である。また、離島・甑島を抱える「薩摩」は、陸域だけでは中規模だが、海路を含めれば大規模のグループとみなしてよい。

以上を、３００㎞、４００㎞に及ぶアメリカのＳＢと比較すると、いずれも小規模の類である。先のトピック「寄り道」に紹介したロマンチック街道に比べても小さい。とはいえ、それがまた九州の風景街道の特色である。手入れしやすい、小回りが利く、九州の自治組織に馴染むなどの利点がある。弾力的な回遊システムの構築や活動しやすい風景街道の推進に好都合である。

要するに、九州の風景街道のメインルートは５～２８０㎞で、平均は１３２㎞。約半分が1日、2日の小旅行であり、残りもせいぜい2、3日のドライブである。一部を除くと、週末や連休時に、あるいは、出張やアフターコンベンション時に寄り道するに適した手軽な風景街道といってよい。

小規模は決してマイナスでない。同じ風景街道でも九州はマラソン型でなく駅伝型である。郷土愛を掻き立て、区間ごとに磨きをかけることができ、自慢の風景街道を提供する上で望ましい。しかも、空間的にも、ストーリー的にも意味ある形で隣接の風景街道にタスキを渡せば、ロマンチック街道やブルーリッジパークウェイに決して引けをとらない規模の組み立てができる。九州の各地で手入れが行き届いた風景街道を自分好みに計画し堪能すれば、これまた旅の醍醐味であろう。

二　九州の地域資源を探る
それぞれの風景街道めぐりに向けて

1　九州の地質は古生層、火山噴出、付加体の３構成

九州を巡ると、霧島連山や阿蘇山などの山々の連なりがある一方で、なだらかな九重高原、切り立つ高千穂峡、群れをなす天草の島々など変化に富む大地がある。赤ぼく、黒ぼくと呼ぶ阿蘇の火山灰や南九州のシラス台地などの特殊な地層にも遭遇する。いうまでもなく、これらは九州風景街道の重要な景観資源だが、それは大地の形成や活動の結果に基づく。そこで、前章冒頭の神話はさておき、まずは地球の活動にもとづいた九州の地質の状態を紹介しよう。

地図を広げ、千島列島から沖縄諸島まで弧状に連なる日本列島の全体を眺めると、それが朝鮮半島をたたみ込んでアジア大陸の沿岸に沿う姿との思いを抱く人もいるだろう。実は、その思いこそが日本列島誕生のヒントである。日本列島はもともとアジア、ヨーロッパからなるユーラシア大陸の東端にあり、繋がっていた。それが、2千万年前の頃から、地殻なす大陸プレートの下に海洋プレートが潜り込む中で、大陸の一部が引き裂かれるように沈み込み日本海ができた。九州でも長崎半島西海岸や熊本県の御船町、天草の御所浦島、鹿児島県の甑島⑩などの地層から大陸由来とみなせる8千万年前、1億年前の恐竜などの化石が発見されている。

ところで、九州の地質を理解する上では次の3点が基本となる。一つは、図6の左下に示すように、わが国は新潟から静岡へと横断し、関東方面に幅を持つフォッサマグナ（大きな溝の意味）と呼ぶ中央地溝帯が存在する。これを境に我が国の地層は東北と西南に別れ、むろん九州は西南日本の側である。

一方、地球の表面は大小多くに分かれた薄い地殻（プレート）で覆われている。その中、西日本の太平洋側沖の海溝（南海トラフ）では、ユーラシアに広がる大陸プレートの下にフィリピン海域の海洋プレートが潜り込みつつある。その際、プレート表面の堆積物（付加体）が削られ、西南日本の日向灘、南海、東海の側に押しつけられているが、そのことが2つ目である。一見、不動に思える足元の大地や海底なす地殻だが、プレートの活動でゆっくり動いている。

そして3つ目は、活発な火山活動があり、大地なす九州の形成に大きく関わっていることである。前述の地表を被うプレートの下の地球内部はマントルと呼ぶ層だが、その熱や圧力のもとでのスポット状の湧きあがりや、プレートの沈み込みに伴う水の動きによって溶融した岩がマグマ（熔融流体）となり、地殻内や地殻近くまで上昇し溜まる。それが地殻の割れ目などを通り噴出し火山となるが、九州はこの火山がことのほか多い（図5、6参照）。北からみれば鶴見・伽藍岳、由布岳、九重、阿蘇、さらに霧島

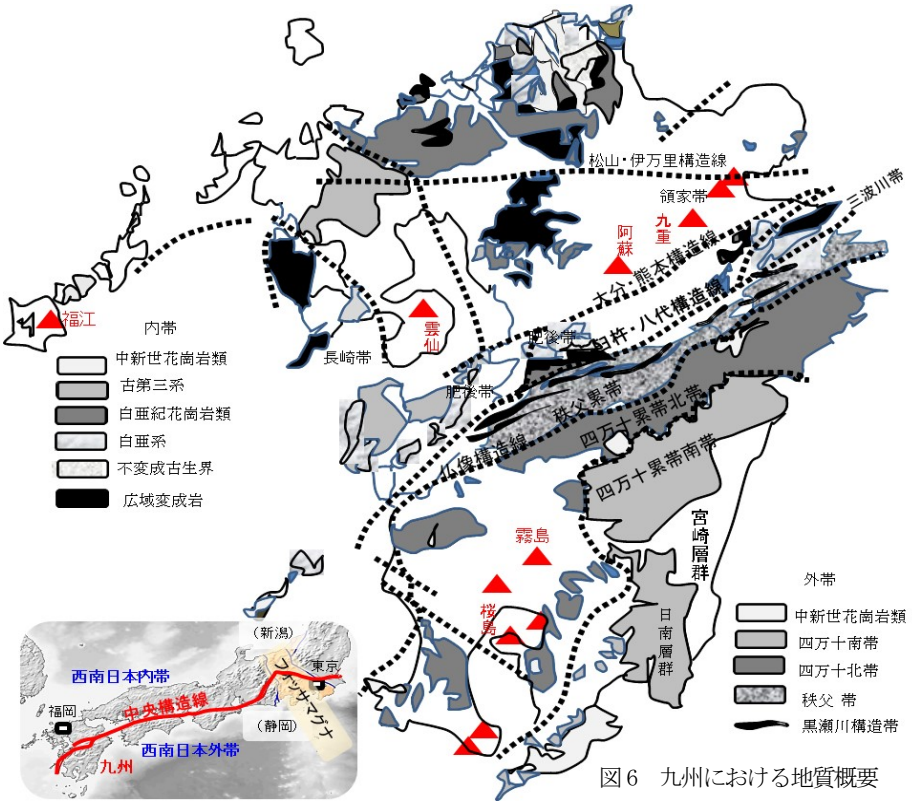


図6　九州における地質概要

⑥、桜島⑦、開聞岳と縦断し、列をなす。2015年、南の海上で大噴火を起こした口永良部島や薩摩硫黄島も同じ線上。加えて雲仙、福江（五島）が枝分かれしている。これらを結ぶラインを火山フロントと呼び、九州は有史以前からの火山活動がいまに続くホットな島である。阿蘇が噴火した、雲仙で火砕流が流れだし犠牲者が出た、新燃岳が噴火で立ち入り禁止になったなどと、追い打ちする活動が続いている。まさに大地の躍動であり、いき吹きだ。

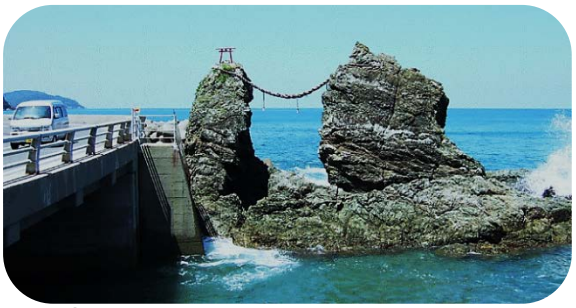
これらから、九州の大地は、日本海側では大陸から受け継いだ古い岩盤がみられ、太平洋側では海洋から押しつけられた新しい岩盤をなす。それに多くの火山活動や大地の隆起沈降が加わって複雑化し、その結果が図6である。北部と中部は松山・伊万里構造線が、中部と南部は臼杵・八代構造線（中央構造線）が境になり、地表付近の地質状態が、北部、中部および南部の3ブロックに分けられる。

A　北部ブロックの地質

北部の玄界灘よりは、大分、福岡、佐賀、長崎の各県に跨り、比較的なだらかな山地と平野で、地下深部で形成された花崗岩類、溶岩④、熱や圧力などにより変成した岩類などが分布している。また、数千万年前の石炭を挟む地層が各地に存在し、筑豊地域では1975年頃まで、西彼杵半島沖の池島では2001年まで採掘が行われた。炭鉱主といえば銅御殿を成す豪邸を持つほどだったが、“寄り道”に紹介する伊藤伝右衛門もその一人である。

一方、佐賀県北西部から長崎県北部は、泥土が板状に重なって固まった岩（頁岩類）や火山灰などが

④　柱状節理の玄武岩（国天然記念物、糸島市芥屋）Q-❼


⑤　長崎市野母崎の変はんれい岩（4億8千年前）Q-❸

固結した岩（凝灰質岩）が風化で粘土化し、地すべり地帯をなす。西九州自動車道の工事が難渋しただけでなく、豪雨や長雨ではすべりに巻き込まれ犠牲者が出たこともある。記憶に残る人もいるだろう。

B　中部ブロックの地質

中部ブロックは、大分県から福岡、佐賀の南部、熊本の北部を通り、そして有明海、長崎の西海岸に及ぶ三角形なす地域である。古生層、中生層および高温低圧型の変成岩類を領家帯や三波川、肥後帯などと呼ぶが、その上を広い範囲で阿蘇、九重などの火山噴出物が覆っている。また、有明海沿岸地域では、長い年月を経て火山灰などの土砂が河川を介して流れ出し、平野を形成している。加えて、西端の長崎に、高圧で変質した変成岩があり、その例に、道路脇の海中から、まるでモンスターのように顔を出した岩礁⑤がみられる。波しぶきの中でこれが４億年以上も前の岩だといわれてもにわかには信じ難い。

C　南部ブロックの地質

臼杵・八代構造線（中央構造線）から南側が南部ブロックである。大分県南や熊本県南より南の地域である。図示のように、領家帯、肥後帯と呼ぶ地層に接する形で古い付加体（秩父帯）があり、その南に仏像構造線がある。なお、領家（静岡）、仏像（四国）、秩父（埼玉）は九州にはない地名だが、いずれも全国でいち早く発見された場所に由来する。これらの帯状の地質は、東北東から西南西方向へ斜めに横断し、北部、中部とは明らかに異なり、まるで大地の傷口のようでもある。

南に下れば、太平洋側からは四万十層群が押し寄せる様相だが、北帯と南帯に分けられる。ともに海洋プレートの付加体で、層状に重なり、その境は低角度の逆断層をなす。２つの厚板を傾けて古いものの下に新しいものを押し込んだようなものと思えばよい。上部の縁端で境をなす断層は、延岡から市房山を通り、さらに人吉から南下、大隅半島の高隅山（たかくまさん）の東を通る。

宮崎平野および日南海岸地域では、四万十層群に、これを被う宮崎層群や日南層群などが分布し積層をなす。そうした中、宮崎層群の走向は、高鍋付近から、北東、南北、南東などとうねり、日南層群に至る。こうした状況や地質は道路の整備や維持の上では厄介だが、風景街道の観点でみれば、奇岩等の景勝⑥をなし大変興味深い。

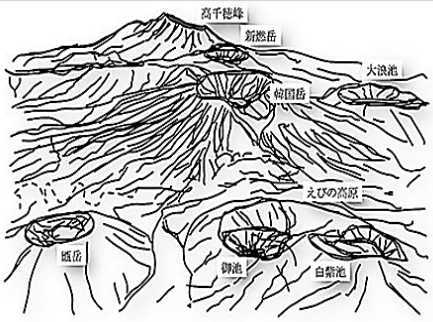
鹿児島地域および宮崎の一部は、四万十層群に加え、火成岩類や同時期の堆積層が分布。さらにその上に１０、２０万年前の火砕流堆積物が被う。その正体が皆さん知っての「シラス」⑨で、水に弱く、斜面では雨裂が発生し壊れやすい。

以上をまとめると次の通りである。九州の北部は、古い岩盤とその風化帯。中部は火山の基盤とその上の噴出物が重なり、南部の宮崎よりは上部四万十層が、鹿児島よりは下部四万十層に火山噴火の堆積物が被っている。我々九州人は、そうした大地の上に、先史時代からの長い歴史と暮らしを営んできた。ヤマトに先駆け、あるいは隼人や熊襲の時代からさまざまな文明や文化を刻んできた。いまや隼人、熊襲、ヤマトが、さらにその後の渡来人のすべてが混じる九州人にとって、噴煙あげる火山があるとも、押し寄せる付加体があるとも、九州の島々こそ母なる大地である。

寄り道　旧伊藤伝右衛門邸

麻生、貝島、安川が筑豊御三家と呼ばれる炭鉱王であるが、これに続いたのが伊藤伝右衛門。魚の行商や船頭から身を起こし、筑豊の炭坑王までになったが、彼を有名にしたのは、大正天皇の従妹で歌人の柳原白蓮と再婚したことである。一種の政略結婚だが、伝右衛門は白蓮のために、２３００坪の屋敷に宮大工の技を尽くした部屋数２５の豪邸を建てた。しかし、白蓮は若い新聞記者宮崎龍介と恋に落ち、新聞紙上で絶縁状を突き付け破局した。

これに対し、伝右衛門は一言も弁明せず、財界に重きをなし、生涯を終えた。邸宅は残り、飯塚市に譲渡され、現在公開されている。



⑥　日南海岸の鬼の洗濯板（波状岩）（日南市、左Q-❶）と霧島の火山群（右）

２　連なる山々、少ない平地、多島の九州

（１）比較的低い山々が連なる九州

九州は太平洋と東シナ海に挟まれ、山が海に迫り、多島で海岸線は複雑。このことを反映し、九州を囲む海は細かく分けた呼び名がある。聞き覚えのないのもあるだろうが、北から時計回りに玄界灘、響灘、関門海峡、周防灘、豊後水道、日向灘、大隅海峡、八代海・有明海、天草灘、五島灘・角力灘、対馬海峡などだ。これらに囲まれ、九州本土はどっしりと腰を据えている。

図５と図６を重ねて九州本土の山々をみると、先の臼杵・八代構造線を北限に、宮崎平野北部の断層から小林盆地北、川内川流域北部を繋ぐ線を南限とする山々の大きな連なりが読み取れ、これを**九州山地**と呼ぶ。また、これに隣接し、九重連山、阿蘇山、霧島連山があり、これも限定的だが山々を連ねての呼称である。

周知のように、「くじゅう」は、久住と九重の２通りの漢字があてられる。ともに同じ読みだが、九重の名を持つ山はない。九重は玖珠・竹田地区の火山群の総称に用いられ、久住は山の名に用いられている。**九重連山**の最高峰は中岳（１７９１ｍ）。これに久住山（１７８７ｍ）が続く。国立公園名は「阿蘇くじゅう国立公園」と平仮名。かつて久住町（現在は竹田市久住町）と九重（ここのえ）町が存在したこと、九重連山と久住山の使い分けへの配慮と推察する。

話はそれるが、広島高等師範学校山岳部の歌をベースにした「坊がつる賛歌」（作詞：神尾明正／松本

征夫、作曲：竹山仙史、唄：芹 洋子）がある。一世を風靡したが、その第2節を思い起こすと、

面山なる　坊がつる　夏はキャンプの　火を囲み
夜空を仰ぐ山男　　無我を悟るは　この時ぞ

九重の山々に登るとき、坊ガツルに張ったテントの傍らで、月あかりに浮かぶ山々を眺め、歌に酔いしれた年配の読者もいるだろう。

同様に、霧島の山々⑥もそれを冠した山はない。山に島とは奇異だが、一説では、仰ぎ見ると霧の中に島のように山々が浮かぶことに由来するといわれている。最高峰の韓国（からくに）岳（１７００ｍ）、天孫降臨伝説の高千穂峰（１５７４ｍ）、いまもたまに噴火する新燃岳など、多くの山々が連なり、**霧島連山**を構成している。

阿蘇山も同じだ。中央の火口丘群と火口原（カルデラ底部の平坦地のこと）、それらを囲む外輪山一帯を**阿蘇山**と呼ぶ。むろんカルデラ中央に飛び出す阿蘇五岳は山々をなし、高岳（１５９２ｍ）、中岳（１５０６）、根子岳、烏帽子岳、杵島岳と、背伸びするように千メートル超えを競っている。

北岳（１１１７ｍ）、中岳（１０６０）、南岳などの御岳からなる桜島⑦は、それこそもとは島であり、そのカルデラは鹿児島湾の一部が該当する。

反転して、九州北部に目をやると、福岡、佐賀、長崎県にまたがり**筑紫山地**があるが、一繋がりでない。筑豊盆地、福岡平野、筑紫平野などで分断されている。東から西へ、企救（きく）、貫（ぬき）、福知、古処・英彦山、三郡、耳納（みのう）、脊振（せふり）、肥前山地となる。これらの全てを見分けられる人は少ないが、その集りが筑紫山地である。中生層、古生層の地質で、花崗岩類が広く分布し、肥前山地は玄武岩の台地である。

結局、九州の山地は、九州山地と３つの連山および飛び飛びの筑紫山地からなり、火山を除けば岩肌むき出しの山はほとんどない。

九州の山の最高峰はどこか。鹿児島県屋久島の宮之浦岳で、標高１９３６ｍである。不思議にもこの宮之浦岳をはじめ、何と上位８位までが屋久島に聳える。まさに海に浮かぶアルプスである。大隅諸島の一つ屋久島に高い山々が集中し、全体を合わせて八重岳とも呼んでいる。

他方、九州本島の最高峰といえば九重連山の中岳である。標高１７９１ｍ、９番目に過ぎない。全国の山に比べれば、宮之浦岳は２４８番目、中岳は３０８番目だ。つまり、九州には2千ｍを超え、登山に際し高山病が問題になる山はない。その代わり、噴火や有毒ガスの噴出が懸念される火山があり、注意が必要である。

⑦　県都でいまなお噴火がみられる活火山・桜島（鹿児島市）Q-❻

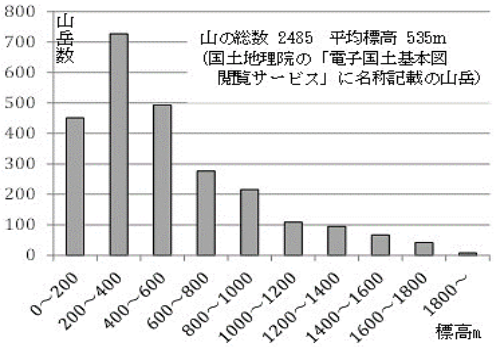


図７　九州の山の標高分布

改めて山の定義を問われると、はてなと戸惑う人もいるだろう。周囲より高く盛り上がる自然地形を山とする考えはある。しかし、水平に対しどの程度以上なら山かなどは判然としない。地図では宮城県仙台市の日和山（標高３ｍ）だなどと全国一低い山が競われている。そうした中、九州で最も低い山は熊本県八代市の標高１９ｍの白島（しろしま）が通説である。八代港に面し、元は島であった。それを埋め立てて陸地とし、そのまま山になったものである。そこから切り出された石灰岩が八代城本丸の石垣（一部）に用いられたことから、別名白鷺城とも呼ばれた。

白島以上の高さを山とみなせば、九州全体で２４８５（国土地理院）を数える。図７はその標高ランク別の分布である。４００ｍ以下の山岳が約半分を占め、６００ｍ以下になれば２／３に達する。

確かに九州は山が多い（図５）。一部を除いてほぼ全域が被われている。しかし、大半は中程度以下の高さに過ぎず、日帰り登山が楽しめる緑深い山々である。森林セラピー、トレッキングにと事欠かない。一般道に加え、ドライブが楽しめる大規模林道、広域農道の整備が進み、これらを含めると山の中といえども縦横にドライブができる。

表３　主な平野とその中の主要河川など

平野名	地域（県）	主要河川	備　考
直方	福岡県	遠賀川	谷底平野が樹枝状に広がる。
福岡	〃	那珂川	福岡平野、糸島平野、宗像平野など。
筑紫	福岡県, 佐賀県	筑後川、矢部川	約1200km^2、九州最大。
京都	福岡県	今川	豊前平野ともいう。
唐津	佐賀県	松浦川、玉島川	2つの川の間に砂丘が発達している。
諫早	長崎県	本明川、境川、東大川	大部分が干拓地
菊池	熊本県	菊池川	約50km^2。玉名平野ともいう。
熊本	〃	白川、緑川	約775km^2．阿蘇火山灰の堆積物。
八代	〃	球磨川	約２／３が干拓地
中津	大分県	山国川	中津平野と行橋平野に分かれる。
宇佐	〃	駅館川、寄藻川	大分県下最大の穀倉地帯
大分	〃	大分川、大野川	下流の沖積平野と、その周辺の丘陵からなる。
延岡	宮崎県	五ヶ瀬川、祝子川、北川	谷底平野と河口近くの三角洲状沖積平野。
宮崎	〃	大淀川、一ツ瀬川、小丸川	起伏に富む地形。
出水	鹿児島県	米ノ津川, 野田川, 高尾野川	約35km^{2}で、中央部に洪積台地が広がる。
川内	〃	川内川	シラス台地や丘陵に囲まれ細長い形状の平野。
姶良	〃	思川、別府川、網掛川	北薩火山群に囲まれた狭い平野である。
国分	〃	天降川、検校川	約15km^2
肝属	〃	肝属川、串良川、菱田川	シラス台地が分布

（2）比較的規模が小さい九州の沖積平野

山で迷えば、人が住み、明かり灯る平野を求めて下るが、その平野は、図５において白く映るところで、大規模なものはない（表３）。筑紫平野以外はそれぞれの県内にとどまる。これは山の尾根が県境であること、各々の平野が小規模なことによる。その中で、九州にあって主要なものは、筑紫、熊本、宮崎である。

１　筑紫（ちくし、つくし）平野⑧は、筑後川や六角川などが有明海にそそぎ込むところにできた平野である。九州にあってただ一つ県境をまたぐ。耳納（みのう）山地のスカイライン（林道）、国道３８５号の道の駅「吉野ヶ里」などから眺望でき、福岡県側は北野、筑後平野、佐賀県側は佐賀、白石平野が広がっている。面積は合わせて約１２００km^{2}で、佐賀県全面積の半分に達する。むろん九州最大だが、そ

れでも関東平野に比べ僅か１４分の１に過ぎない。

筑紫平野は４段構成である。河岸段丘、沖積低地、干拓地、および干潟で、有明海の干満差が大きいことから、特に干潟が発達し、その規模はわが国最大である。干拓の始まりは平安末期で、以降中世、近世、近代などと引き継がれてきた。明治から戦後に至る米の増産策で、昭和４０年代の初めには佐賀段階と呼ばれ、反当り収穫量日本一を誇り、戦後の飢えをしのぐ原動力であった。

２　熊本平野は、阿蘇外輪山に続く肥後台地から有明海にかけて広がる。４度にわたる阿蘇の大火砕流が積もり、併せて白川、緑川から流れでた土砂により現在の台地および平野がつくられた。面積は約７５５㎢。台地は、標高にして約１００ｍ、３０～４０ｍなどと段をなし、その先端の八景水谷（はけのみや）、水前寺、江津湖などで阿蘇からの地下水が湧出している。「世界一の地下水利用都市」熊本都市圏の水源である。

熊本平野に隣接し、球磨川下流に展開するのが**八代平野**。江戸時代から盛んに干拓が行われてきた。いまでは平野面積２８０㎢の２／３を干拓地が占め、稲作は当然として、日本一の規模を誇るイグサの栽培や園芸が活発である。

３　宮崎平野（８００㎢）は宮崎県の中央で、日向灘に面し、南北約６０㎞にわたっている。南は鰐塚山地が接し、西は九州山地が境をなし、北に行くほど狭い（図５参照）。太平洋側から押しつけられるように四万十層群、宮崎層群が押し込まれてできた台地と平野で、約２／３が標高１００、２００ｍ程度の洪積台地である。新田原（にゅうたばる）、唐瀬原（からせばる）、西都原（さいとばる）、茶臼原（ちゃうすばる）など。その中で西都原は我が国最大級の古墳群(国の特別史跡)で知られる。

これらに大淀川や一ツ瀬川、小丸（おまる）川、耳川、五ヶ瀬川などの河口部の平野が櫛の歯状に加わり、宮崎平野をなし、耳川から大淀川にかけて、一直線に砂浜や礫浜（日向灘海岸）が続くさまは見事である。また、これに沿うように、日向市と都農町間にわが国最初のリニア鉄道宮崎実験線が敷設された。無人だがリニア鉄道が時速５１７㎞で走り抜け（１９７９年）、有人で時速４１１ｋｍを記録した。この成果は東京・名古屋間で建設中のリニア新幹線に活かされており、記念すべき実験線の高架橋は今も残されている。

平野は、河川から流出する土砂の堆積、海流や風で運ばれての堆積、侵食や隆起するなどで形成される。その中で九州は河川による平野が主をなす。内陸部に山や火山があり、それらを源流とする水系が発達して土砂が流れ出し、沿岸域に扇状地ができた。このため多くの都市が海に面し発達している。県庁所在都市はむろんのこと、県内第二の都市もほとんどが沿岸域にある。なお、佐賀市は一見すると内陸にみえるが、それは干拓が幾度となく繰り返されたことによる。

⑧ 国道 385 号の道の駅「吉野ヶ里」から眺める筑紫平野（正面は耳納連山）。Q-⑪

他方、山間に規模は小さいものの平地なす盆地として、嘉穂、田川、若宮、黒木（福岡県）、多久、武雄、嬉野（佐賀県）、山内（長崎県）、由布院、日田、安心院（あじむ）、田染（たしぶ）、竹田、三重、玖珠（大分県）がある。菊鹿、阿蘇、人吉（熊本県）、田野、飫肥、加久藤、小林、都城、高千穂、鹿川（宮崎県）、大口、栗野、伊集院（鹿児島県）などがある。これらの多くは、静かな山々に守られたまちや村をなし、湯煙を上げ、山の幸、高原野菜に恵まれ、誠にのどかである。しかし、中山間地であることから、最近では高齢化や少子化、人口減に苦しんでいる。それだけに、貴重な地域資源を生かし、より積極的に域外との交流社会を構築することが望ましく、その一手段として風景街道の整備と対応が期待される。人が訪れることで山が息を吹き返し、山の恵みが訪れる人の心をいやし豊かにするだろう。

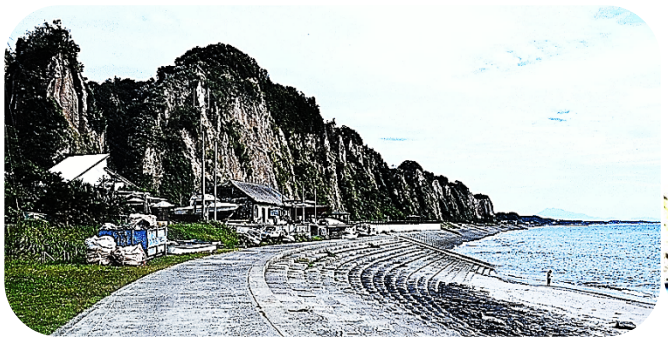
（３）全国の３分の１が集まる九州の島々

日本全体が島である。その中で、面積の上で上位４島は島をつけず、あるいは本土を付し、沖縄に本島をあてはめ、それら以外を離島または島と称することが多いが定めではない。しかし、山と同様に島の定義も確かでない。岩礁か島かで国際紛争もあるが、国土地理院は航空写真に写る陸地を島とみなし、海上保安庁の調査では外周１００ｍ（直径３２ｍの円に相当）以上の大きさとしている。

本文は後者に従う。このとき、日本全体の島の数は６８５２。うち九州は２１６０と約３分の１を占める。まさに多島をなし、県別に分ければ表４のとおりである。

島の数が最も多いのは長崎県で、日本一。五島列島や壱岐・対馬を含めて９７１を数える。第二位も九州の鹿児島県の６０５で、大隅諸島、吐噶喇（トカラ）列島、奄美群島といった薩南諸島が含まれ、隊列をなす。これら以外では福岡６２、佐賀５５で、長崎、鹿児島の１０分の１以下。両グループの中間に宮崎、熊本、大分の各県がある。

図１をよくよくみると、九州の東側は、リアス海岸を含む臼杵～日向や宮崎南部の日南海岸にある程度の島が写る。しかし、他はさほどみられない。これに対し西側は、長崎県から鹿児島県の南にかけて多数の島がある。最北の対馬列島から最南の与論島まで１０００㎞を超え、東京～福岡間に匹敵する延長の中で、九十九島⑪（佐世保市）約２００、天草諸島約１２０などと半端でない数が群れをなす。そ


⑨ 海岸線まで押し寄せたシラス台地（日置市, 国道 270 号）

⑩ ８千万年前からの地層重なる鹿島断崖（薩摩川内市下甑島）Q-⑭

⑪ 守るのか、押し寄せるのか。多島の九十九島（佐世保市）Q-❸

表４　県別にみた島の状況

県	島嶼数	有人、面積上位5島とその面積 km²				
福岡	62	大島　7	志賀島　6	能古島　4	地島　2	相島　1
佐賀	55	馬渡島　4	加唐島　3	加部島　3	神集島　1	小川島 0.9
長崎	971	対馬 696	福江島 326	中通島 168	平戸島 164	壱岐島 134
熊本	178	天草下島 574	天草上島 225	大矢野島 30	御所浦島 12	戸馳島　7
大分	109	姫島　7	大入島　6	大島　2	屋形島　1	深島　1
宮崎	179	島浦島　3	大島　2	築島 0.2		
鹿児島	605	奄美大島 712	屋久島 505	種子島 445	徳之島 248	沖永良部島　94
九州	2159	奄美大島 712	対馬 696	天草下島 574	屋久島 505	種子島 445

注）　島嶼数は海岸線の長さが0.1km以上のもの（海上保安庁水路部調査による）
有人・無人の判断と島の面積は各県のホームページによる。

の様は、アヒルの子らならぬ島の子らの群れにも見える。神話になぞらえれば、混沌から引きあげられた筑紫島のカオスが、東風にのって西にたなびき、滴り落ちたとも語れよう。

面積で各県上位の有人島は表４のとおりである。鹿児島、長崎、熊本県以外は最大でも１０㎢に満たない。そうした中、最も大きい島はみなさんも知っての**奄美大島**である。亜熱帯地域に属し奄美群島国定公園の一角をなし、特別天然記念物にウサギの一種アマミノクロウサギが指定されている。奄美市と大島郡に属する４つの町村があり、約７万人が暮らすが、薩摩というよりも琉球文化圏に属している。台風がよく通過するが、青く澄みきった海でのサーフィンに大変な人気がある。趣味が嵩じて移り住む人もいて、そうした人たちにとって奄美はまさにパラダイスである。

奄美と反対の北の**対馬**（長崎県）の面積もほぼ同じだが、対馬海峡に面する国境の島である。朝鮮半島までわずか７０㎞の距離で、晴れれば互いが眺望できる。古代から韓国との交流が活発である。島の人口は２０１９年時点で約３万人と奄美大島の半分だが、最近は、韓国からその何倍もの観光客が押し寄せている。

３番目は**天草下島**（熊本県）。面積は５７４㎢、最高標高は５３８ｍで、天草市と天草郡苓北町の２自治体からなる。天草瀬戸大橋で天草上島と結ばれ、さらに天草五橋で「もやい船」のように宇土半島に繋がり、いまや離島でなく、半島である。

世界自然遺産の**屋久島**（鹿児島県）が４番目だ。前述のように、２千ｍ近い山々が連なるが、２０１５年には同じ町内である隣接の口永良部島で火山の大噴火があった。全島民が避難し、翌年にようやく帰島した。

いま一つ、５番目の**種子島**（鹿児島県）もユニークだ。最高標高は２８２ｍに過ぎず、ほぼ平坦で、隣の屋久島と好対照である。鉄砲伝来の島だが、現在は種子島宇宙センターがあり、わが国における宇宙開発の最前線に立つ。旧石器時代から人が住み、現在の島民は総数２万９千人で対馬に匹敵し、西之表市と熊毛郡の２つに区分される。

島に関し特異なことを追記すると、竹島など３つの有人島と２つの無人島からなる鹿児島郡三島村（みしまむら、人口３５８人）があり、七つの有人島と５つの無人島からなる同郡十島村（としまむら、人口７３３人）がある。前者は薩摩半島の南端と屋久島の間にあり、後者は東シナ海で屋久島から奄美大島にかけて展開する吐噶喇列島の一部である。戦前は両村合わせて大島郡十島村（じっとうそん）であった。しかし、戦後の米軍占領策のもとに引き裂かれ、返還後も分かれたままである。

２つの村は、島民の交通の便を考え、村内でなく九州本島の鹿児島港に隣接して役場が置かれる変わり種だ。このことは、３００㎞に及ぶ海域に細長く島々が展開する中で、２村合わせてもわずか千人余の村民が１００人、２００人と分散して住む実情による。計算上は手に余る広々とした海原を各人が持つ。これを厳しいとみるか、うらやましいとみるかは人それぞれであろう。それにしても、ここも九州であり、ましてや日本である。生涯に一度は鹿児島港からの村営フェリーで村ごとジオパークの三島村やトカラ列島の十島村を訪れ、日本の秘境１００選の島をのんびり巡るとよい。

３　３タイプの気候の中、温帯・亜熱帯に跨る九州

九州は全体として温暖な地域と思われがちである。事実、平地では積雪はさほど見られず、代わりに梅雨の長雨があり、台風銀座である。その中でよくみると次の３タイプの気候がある。

１つは、**「太平洋側気候」**である。これはさらに九州山地を境にして北と南に分けられる。北（東シナ海側）は大陸からの季節風の影響を受け、冬は曇りの日が多い。南（九州太平洋側）は太平洋側からの季節風の影響があり、夏の降雨量が多く冬は暖かいといった特色がある。

２つ目は福岡県や大分県東部の気候で、瀬戸内海に面する地域の**「瀬戸内海型気候」**。気温は太平洋側

⑫　青島（宮崎市）の亜熱帯林（上）と都井岬（串間市）の自生ソテツ（国指定特別天然記念物）（下）　Q-❶

⑬ 牧島（天草市御所浦町）のアコウの木　Q-⑬

で、両者が混じりあう。

複雑な気候状態の中で**亜熱帯植物**の地域はどこか。それを明らかにする観点で亜熱帯植物が自生するところを拾い出すと、青島⑫（宮崎市。ビロウなどの亜熱帯植物の群落の最北）、都井岬⑫（串間市。ビロウ、ソテツの自生北限）、佐多岬（南佐多町。ハマユウ、ビロウ、ソテツの自生）、大隅半島南部（ソテツ、ビロウの自生）があげられる。ビロウは、その葉を笠や扇に用い、ソテツは痩せ地に強く、寺や屋敷の庭のアクセントとして良く植えられることから、馴染みがある人も多いだろう。

しかし、一筋縄でないのが、温暖な黒潮が鹿児島の南で分岐し、日本海に流れ込む対馬海流の存在である。この影響から、九州の西側の島や半島では九州北部の緯度にもかかわらず亜熱帯植物が見られる。例えば、長崎県の男女群島や五島列島の南部におけるアコウの木やハマジンチョウなど。あるいは、甑島や天草諸島、島原半島、長崎半島でアコウの木（クワ科の亜熱帯植物）をよく見かける。アコウは写真⑬のように何とも異様な姿をなす大木で、樹木の下に入れば薄暗く、まるで妖怪漫画に描かれる樹のお化けである。対馬暖流に乗り、あるいは台風などで運ばれて種子が漂着したと考えられる。さらに、無人島だが、古代以来の信仰の対象で、世界遺産である福岡県宗像市の沖ノ島はビロウの北限といわれる。これは神宿る島として千年余にわたる立ち入り禁止、持ち出し禁止であった結果である。

逆に**温帯植物**として、ノハナショウブ（アヤメ属の多年草）や江戸彼岸桜の自生の南限が鹿児島県姶良郡湧水町である。前者は町の花に、後者は町の木に指定。特に、江戸彼岸桜は国指定の天然記念物である。通常のソメイヨシノより早く、彼岸の頃に咲くことに名の由来があり、寿命も長い。野生ワサビやヤマハンノキ（山榛の木）は宮崎県日南の鰐塚山地が南限とみなされている。

以上を地図にプロットすると、必ずしも十分でないが、海域の島々をも含め、宮崎、鹿児島県の南部から、天草、長崎半島、五島列島へと西寄りを北上する区域が亜熱帯植物地域であり（図8）、それより

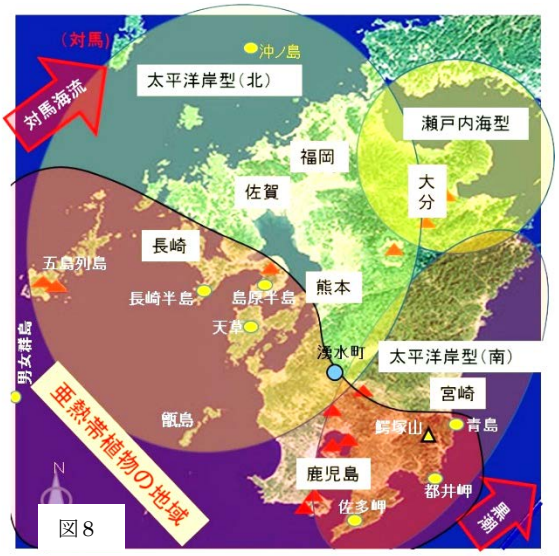


図8

地域とさして変わりないが、降水量が比較的少ない点で異なる。

そして3つ目が「**南日本の気候**」で、夏暑く、冬暖かく、一転して降水量が年間を通して多い。鹿児島南の奄美群島などが該当し、奄美大島の年間日照時間１３６０時間は我が国でみて最も短い。多量の降雨が世界遺産の屋久杉を育む由縁である。

九州のこうした気候は、当然とはいえ植生などに大きな影響があり、結果的に亜熱帯型と温帯型に分けられる。亜熱帯型は、気温が高いという点で熱帯に次ぎ、漠然とだが北緯２０～３０度付近地域の植生である。温帯型は温暖な気候地域の植生で、わが国の大部分が該当。そして、その間にまたがるのが九州北東が温帯植物地域であるといえよう。

しかし、最近気がかりなことがある。それは地球温暖化だ。その影響か、九州北部にあっても、熱帯地域のスコールのような異常な集中豪雨、ゲリラ豪雨に遭遇することがしばしばである。夏場の温度は九州北部でも３８度を超え、竜巻の発生もたまに見られるようになった。熱帯魚が北上し天草の海でも多く見られる。したがって、前述の亜熱帯、温帯の区別がこのまま将来も続くかは不明である。それが良いのか、悪いのか。亜熱帯・温帯の両者の狭間に位置して自然豊かな九州で注意深く観察する必要がある。前述した植物の北限、南限を観測しつつ九州を巡れば、環境植物をテーマにした風景街道の組み立てもでき、自生の木々や花をモニタリングする旅になるだろう。

4　国立・国定公園とジオパーク、ラムサール湿地など

（1）国立公園と国定公園

自然公園法にもとづけば、国管理の国立公園と、これに準じた都道府県管理の国定公園とがある。その中で、「**国立公園**」は全国で３２地域があり、うち九州は６地域である（表５）。瀬戸内海国立公園は、瀬戸内海から関門や豊予海峡へと繋がる広大な海洋区域であり、これに九州北東部が含まれる。それ以外では、阿蘇くじゅう、西海、雲仙天草、霧島錦江湾、および屋久島がある。

国立公園と風景街道との関係を表５上段および図９に示す。風景街道に含まれるところはそのビッグな地域資源だが、「豊の国」、「別府湾岸」、「やまなみ」、「阿蘇くまもと」、「ながさき」、「島原半島」、「あまくさ」、「かごしま」と半数を占める。

九州の「**国定公園**」は９個所（表５下）で、国立公園を補うように指定されている。北九州、耶馬渓日田英彦山、九州中央山地、祖母傾は山岳系、残りは沿岸系だ。規模を別にすれば、カルスト台地、渓谷、絶海の孤島、亜熱帯植物の群生地など、いずれも国立公園に負けない素晴らしい景観をもっている。

（2）ジオパーク

ジオパークは大地のジオ（Ｇｅｏ）と公園のパークによる造語で、最近よく知られるようになった。

表５　九州地域の国立公園と国定公園

	名称	位置	主な風景	風景街道
国立公園	瀬戸内海	関門、豊予海峡	和布刈山、姫島、国東半島、高崎山、高島	⑩、⑫
	阿蘇くじゅう	熊本、大分県	カルデラ景観、阿蘇火山、草原美、温泉	❾、❽
	西海	長崎県	五島、平戸・生月島、九十九島	❸
	雲仙天草	長崎, 熊本, 鹿児島	雲仙岳、多島海景観、温泉	⑬、⑮
	霧島錦江湾	宮崎、鹿児島県	集成火山、海域カルデラ、桜島	❻
	屋久島	鹿児島県	原生的自然環境（世界自然遺産）, 屋久島スギ原始林	
国定公園	北九州	福岡県	皿倉山、平尾台	❹、⑩
	玄界	福岡, 佐賀, 長崎	若松北海岸、芥屋大門、虹の松原、唐津湾	❼
	耶馬渓日田英彦山	大分, 福岡, 熊本	耶馬渓、八面山、英彦山	(⑩)
	壱岐対馬	長崎県	壱岐、浅茅湾	
	九州中央山地	熊本、宮崎県	市房山、五木、五家荘、米良荘、綾町照葉樹林	
	日豊海岸	大分、宮崎県	日豊海岸、枇榔島	❷
	祖母傾	大分、宮崎県	祖母山、高千穂峡	
	日南海岸	宮崎、鹿児島	青島、日南海岸、都井岬	❶
	甑島	鹿児島県	海鼠池、貝池、鹿島断崖、鹿の子断層	⑭

そのジオパークへの登録は九州から7か所がある。うち島原半島および阿蘇の2つが世界ジオパークである（表6）。

未だ記憶に残る人も多いだろうが、島原半島（⓯、長崎県）は、1990～1996年に雲仙普賢岳の火山噴出と火砕流発生⑯があり、40名を超える犠牲がでた。それが落ち着いた機会をとらえ2009年に認定され、今もその生々しい姿をみることができる。

阿蘇（熊本県）は、世界規模の阿蘇カルデラと、現在も噴煙を上げる阿蘇五岳（中央火口丘）⑮を核にしたジオパークである。❾「阿蘇・くまもと」の目玉であり、そのテーマは「阿蘇火山の大地と人間生活」である。カルデラの中だけで約5万の人々が暮らすが、噴煙上げる中岳をはじめ、火山活動に関わる地形や温泉、信仰などの33に及ぶジオサイトがあり、魅力いっぱいである。

表の中ほどは**日本ジオパーク**である。その中で、鹿児島県の桜島⑦（❻）は阿蘇と同様に活火山が主体だが、それらが海に直接面する点で大きな違いがある。大分県の姫島⑫と豊後大野は、過去の火山が作り上げた奇岩が主体のジオパークである。

与謝野晶子ら多くの文人を引き付けてきた天草は、120余ともいわれる多島。その中の御所浦島は化石の島として一度は日本および世界ジオパークに登録された。しかし、改めて他の島と一緒に再登録

寄り道　ジオパークとラムサール条約

ジオパークは、地層、岩石、地形、火山、断層などの自然が豊かな「大地の公園」のこと。こうした自然遺産を保全し、教育やツーリズムに活用し、持続可能な開発を進めるとして日本ジオパークネットワークに加入したものが日本ジオパークである。また、その推薦で世界ジオパークに加盟したものが世界ジオパークで、ユネスコの事業である。現在、わが国では、9か所の世界ジオパークがあり、日本ジオパークへはこれらの他に35地域が加盟している。

一方、多様な生物を育む湿原、沼沢地、干潟などは、水鳥の生息地として非常に大切である。このことを踏まえ、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が締約された。イランのラムサールで採択されたことから、**ラムサール条約**と呼ばれている。条約加入国は、2018年現在170で、登録地は2372サイト。我が国は全部で52。北海道13、沖縄県5、宮城4などと集中し、他県もすべてでないが1、2がある。

寄り道　九州の火山の地に咲くミヤマキリシマ

霧島が原産といわれるが、写真に見るように、今では九州各地の火山（霧島、阿蘇、雲仙、九重、鶴見など）で、5月下旬から6月にかけてピンクの花が咲き乱れている。これは、坂本龍馬が新婚旅行で霧島を訪れ、姉宛ての手紙に「きり島のつつじが一面にはえて」と記したようにツツジの一種である。植物学者牧野富太郎が、やはり新婚旅行に際し霧島で見つけ、「深山霧島」の意味を込め「ミヤマキリシマ」と名付けたといわれる（1909）。火山活動が続く地山の優占種である。活動が終焉して森林となれば生存できなくなることから、ミヤマキリシマで被われる山は火山であることの証とみることができる。

⑭ 九重・平治岳山頂斜面に咲くミヤマキリシマ

されて、九州を代表する日本ジオサイトとなった。特異な地形・地質と共に海に浮かび、風景街道⓭「あまくさ」の目玉資源の一つである。

鹿児島郡三島村はそっくりそのままジオパークである。平家物語で、真言宗の僧・俊寛が平家打倒陰謀に加担した罪で流刑された地（鬼界ヶ島）とされる。南海の孤島、「三島村の硫黄島（いおうじま）とその周辺海域の鬼界カルデラ」よりなり、活火山一帯で、古代から硫黄が採掘されてきた。

余談だが、似た名で、太平洋戦争で日米が戦いを繰り広げた東京都小笠原村の硫黄島「いおうとう」がある。かつて「いおうじま」とも呼ばれ、こちらも有名。うっかりすると間違える恐れがある。

いま一つ、ジオパークでないが、大分市の佐賀の関から臼杵、津久見、佐伯を経て宮崎県延岡市に至る区間の海岸線（❷）は、東九州沿岸で最も複雑な地形をなす**リアス式海岸**であり、貴重である。図6で明らかなように、四国方面から構造線が突出すように伸びる中で、古い付加体の三波川帯や四万十類北帯などが顔をみせ、複雑な地質・地形をなしている。

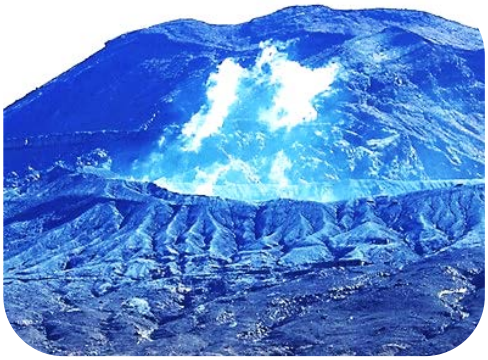
（3）ラムサール条約登録地

表6の下段は「**ラムサール条約登録地**」である。湿原、池、海浜だが、従来の4か所に加え、近年、有明海の干潟2か所が追加された。これらと風景街道地域との関係は図9のとおりである。くじゅう坊ガツル／タデ原湿原⑰は❽「やまなみ」に、藺牟田池⑱は⓮「薩摩」に含まれる。

有明海の干潟は今のところどの風景街道にも含まれていない。しかし、島原半島は天草島原の乱の関係で⓭「あまくさ」と結びつく位置にある。また、有明海で、佐賀県の「荒尾干潟」や「東よか干潟」は、⓫「みどりの里」前面の筑後平野先端にあり、有明沿岸道路で結ばれている。時間に余裕があれば、これら当該風景街道を訪問したついでに寄り道するとよい。これらは、一世代一干拓と言われ、自然と人の合作である干潟と干拓が幾度となく繰り返えされたところだが、それらを分ける潮受け堤防は人々が奮闘した証である。

5　九州の「棚田百選」と世界農業遺産

（1）九州に多くみられる「棚田百選」



⑮ 噴煙上げる阿蘇中岳　Q-❾

⑯ 雲仙・普賢岳の噴火で形成の平成新山の溶岩ドーム　Q-⓯

我が国の稲作は、いち早く九州で始まった。中国大陸から稲作を取り入れた菜畑遺跡（BC930年頃の最古の水田跡。国の史跡。唐津市）や板付遺跡（日本で最初の頃の環濠集落。国の史跡。福岡市）にみられるように、当初は集落内、あるいはその周辺の平地に水を引いて水田を造ったと推察できる。その後、広く普及し、万葉集（7～8世紀）に

吾妹子（わぎもこ）が　赤裳ひづちて植えし田を　刈りてをさめむ倉無の浜

（柿本人麻呂）

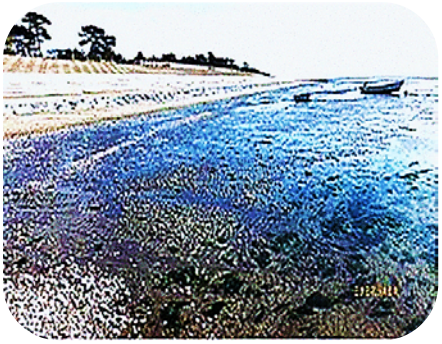
とある。倉無しの浜は大分県中津市竜王町のかつての海浜地区ともいわれ、こうした平地を主に、千年、2千年の昔から稲作が盛んであったといえよう。

そして、今日、平地のみならず、中山間地にも田がよく発達している。これは、本章2節に述べたように、平地が限られることから、狭い土地を少しでも広げたいとの思いで山を切り開き、棚田（千枚田）が開墾されたことによる。あるいは、自立の暮らしのために、中には、貧しい生活のもとに年貢を逃れるための隠田をつくる動機で、谷間や丘陵部にひっそり開墾された田もある。

ところで、山間地の傾斜地に小さな水田が何枚も重なる光景は、人の知恵や血の滲む努力と自然とが織りなした重要な地域資源である。しかし現代では、農業人口の減少、高齢社会の進展から、先祖が辛酸をなめて開墾したせっかくの棚田も維持できず放置される例が多い。果たしてそれでよいのだろうか。景観だけで

⑱ 泥炭形成植物群落が浮く藺牟田池（薩摩川内市）Q-⑭

⑰ タデ原湿原（大分県竹田市、九重町）Q-❽



荒尾干潟（有明海、荒尾市）

表７　棚田百選登録の九州の棚田とその概要

県	市町村	棚田名	枚数	面積 ha	平均勾配	法面	起源	国土保全	推薦理由 景観	生態系	伝統文化	風景街道
福岡県	八女市	庄内・上原	200	5.9	1/3.6	石積	近世		○		○	
	うきは市	つづら	300	6	1/6.7	石積	近世	○	○	○	○	⑪
	朝倉市	白川	40	2.3	1/8.0	土・石	不明		○			
	東峰村	竹	400	11	1/10.0	石積	近世	○	○			
佐賀県	唐津市	蕨野＊	1050	40	1/4.0	石積	近世		○		○	❼
	肥前町	大浦	1096	35.4	1/5.0	石積	中世		○			❼
	玄海町	浜野浦	283	11.5	1/7.0	石積	近世		○			❼
	有田町	岳	570	28.6	1/5.0	石積	近世		○		○	
	小城市	江里山	592	16.4	1/5.0	石積	中世		○			
	佐賀市	西の谷	74	5	1/13.0	石積	近世		○		○	
長崎県	波佐見町	鬼木	700	50	1/6.0	石積	中世	○			○	
	松浦市	土谷	400	10	1/4.0	石積	近代		○			❸
	川棚町	日向	80	6	1/15.0	石積	近代	○	○			❸
	長崎市	大中尾	300	6.5	1/20.0	石積	近世	○	○			❸
	南島原市	谷水	230	4.5	1/5.0	石積	近代	○	○			⑮
	雲仙市	清水	260	10	1/5.0	石積	近代	○	○			⑮
熊本県	産山村	扇	17	2.1	1/10.0	土羽	近世		○	○		
	八代市	日光	232	2	1/5.0	石積	近世		○		○	
	〃	天神木場	60	2	1/5.0	土・石	近世		○		○	
	〃	美生	52	1.3	1/10.0	石積	近世			○	○	
	上天草市	大作山	110	9.5	1/7.0	土羽	中世		○		○	⑬
	山鹿市	番所	80	1.1	1/6.6	石積	近代		○			
	球磨村	松谷	60	4	1/4.0	石積	近代		○		○	
	〃	鬼の口	80	2	1/5.0	石積	近代		○		○	
	水俣市	寒川	469	10	1/6.0	石積	近代		○			
	山都町	管迫田	517	40.8	1/15.0	土羽	近世		○			
	〃	峰	215	12.2	1/20.0	土羽	近世		○			
大分県	由布市	由布川奥詰	87	4.5	1/4.0	石積	近世	○	○	○		❽
	別府市	内成	1000	41.7	1/10.4	石積	近世	○	○	○		❽
	豊後大野城市	軸丸北	1100	51.6	1/10.5	土羽	近世	○	○			
	玖珠町	山浦早水	120	6	1/5.0	土・石	近代	○		○		
	宇佐市	両合	147	7	1/5.0	石積	近世	○	○			⑩
	中津市	羽高	70	4.9	1/10.0	石積	近世			○	○	⑩
宮崎県	えびの市	真幸	33	0.8	1/8.5	石積	現代				○	
	高千穂町	栃又	748	24.5	1/10.0	土羽	近代		○			
	〃	尾戸の口	780	16.4	1/10.0	土羽	近代		○			
	〃	徳別当	720	25.4	1/12.0	土羽	現代		○			
	日之影町	石垣村	178	6	1/4.0	石積	近代	○	○	○	○	
	五ヶ瀬町	鳥の巣	49	2.1	1/12.0	土羽	近代	○	○		○	
	〃	下の原	105	5.7	1/15.0	土羽	近代	○	○		○	
	〃	日蔭	82	7.5	1/18.0	土羽	近代	○	○		○	
	日南市	坂元	120	3.5	1/5.7	石積	近代	○	○		○	❶
	西米良村	向江	61	3.2	1/6.0	石積	古代		○			
	〃	春の平	67	3.6	1/10.0	石積	近代		○			
鹿児島	薩摩川内市	内之尾	150	10.9	1/6.0	石積	近世	○				⑭
	南九州市	佃	127	24	1/7.0	土羽	現代	○	○	○		❻
	湧水町	幸田	102	10	1/16.0	石積	近世		○	○	○	

資料は農林水産省構造改善局・農村環境整備センター：日本の棚田百選（1999）による。
時代区分：古代＝奈良、中世＝平安～室町、近世＝戦国～江戸、近代＝明治～昭20、現代＝昭21～
＊重要文化的景観（文化町）都市でも選定されている。

表６　九州関連のジオパークとラムサール条約登録地

ジオパーク	内容	関係自治体	風景街道
世界 島原半島	雲仙普賢岳など	島原、雲仙、南島原市	⑮
阿蘇	阿蘇火山、カルデラなど	阿蘇地域8市町村	❽、❾
日本 おおいた姫島	火山活動による黒曜石など	大分県姫島村	⑫
おおいた豊後大野	川上渓谷など	豊後大野市	
桜島、錦江湾	桜島、錦江湾	鹿児島市	❻
天草	多島海。化石	天草、上天草市、苓北町	⑬
三島村・鬼界カルデラ	硫黄島・硫黄岳	三島村	
ラムサール登録地	**面積ha**	**関係自治体**	**風景街道**
くじゅう坊ガツル/タデ原湿原	91	大分県久住町、竹田市	❽
藺牟田池	60	薩摩川内市	⑭
屋久島永田浜	10	鹿児島県屋久島町	
荒尾干潟	754	荒尾市	
東よか干潟	218	佐賀市	
肥前鹿島干潟	57	鹿島市	

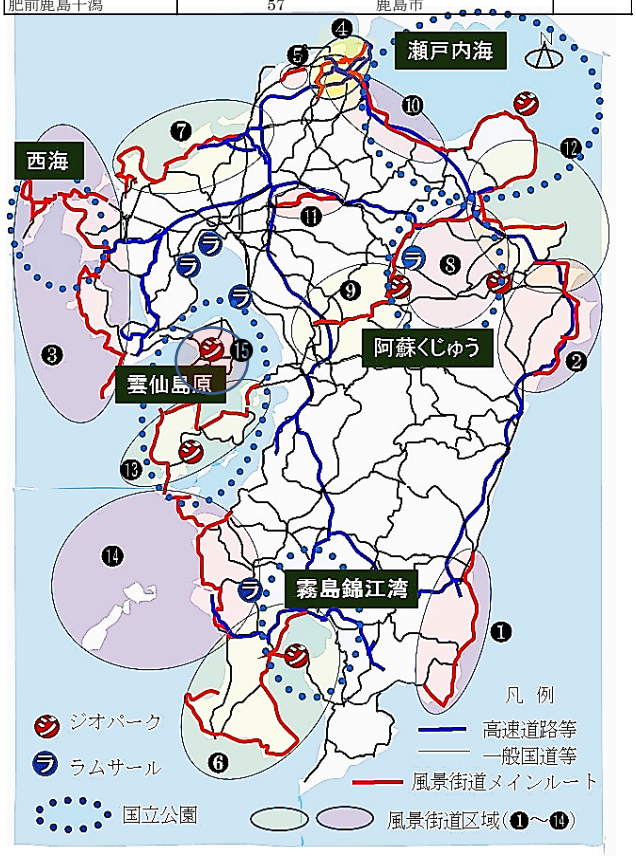


図９　国立公園、ジオパーク、ラムサール条約登録地

なく、棚田を巡りながらその意義と保存の是非を考えて頂きたいとの思いで取り上げる。

１９９９年、農水省は、棚田の保存をと、棚田百選の登録を全国に呼びかけた。各都道府県から１３１市町村、１４９地区の推薦があり、うち１１７市町村１３４地区が認定された。農水省が定義したように、傾斜度２０分の１以上の水田を棚田とみなせば、当時の棚田の総面積は２２万ha。その中で百選登録の総面積は約１４３０haで、０・６％に過ぎない。ごくわずかだが、それでも棚田の実態を明らかにと細かに検討すれば次のとおりである。

九州からの登録は４７地区（全国合計の３５％）。面積にすると５９５ha（同４２％）に及ぶ。１地区あたりの平均面積は全国のそれを上回り、約１３haで、田一枚当たりにすれば、全国値の２・７倍である。このことから、九州では棚田が殊のほかよく発達していたといってよい。九州が稲作伝来の地で、中山間地が多い地形条件をなし、温暖な気候であることによる。あるいは、早くから各地に集落が展開したことによるとも推察できる。

表７は棚田百選に登録された県別の状況と風景街道との関係を示す。多いのは熊本県、宮崎県各々の１１地区で、佐賀、長崎、大分は６地区である。

百選に限れば、２０世紀末においてなお耕されていた九州の棚田は、その起源を近世とするものが多く、２１地区を占める。ついで近代が１７地区。合わせれば８割に及ぶ。その前後の中世と現代は各々３地区に過ぎない。

県別では、長崎、宮崎以外の棚田は、近世に起源をもつものが多い。これに対し長崎、宮崎は、近代を起源とするものが多く、宮崎ではこれらに現代の２地区が加わる。反面、宮崎県西米良村は平家の落人伝説の地であり、その向江（むかえ）地区（市房山の麓）の棚田は万葉の奈良時代に起源をもつといわれている。山間で１３００年にわたり稲作が受け継がれてきたことは驚きである。

棚田地区の地区別平均こう配のそのまま平均を求めれば１／７で、かなり急だ。このため法面は石積が大半であり、土を固めた土羽（どは）は１２地区、残る３地区は土羽と石積の混合型である。

現代において棚田にどんな機能を期待するか。登録時の推薦理由から読みとると殆どで景観があげられた。加えて、伝統文化の維持や国土保全があり、一部に生態系の保存がある。これらと良質の米づくりが棚田の主な役割と考える。

寄り道　土谷（どや）の棚田

（松浦市福島町土谷免）

伊万里湾に大小４８の島々が浮かび、それらを「いろは島」と呼ぶ。その同じところに福島という島がある。現在は福島大橋が架かり、九州本島と陸続きだが、その反対の西側に、海への斜面を活かした土谷の棚田がある。面積は４haとさほど大きくないが、平均勾配は１／４と急である。標高は１２０ｍで、海に直接流れ込むように駆け下る。このため、夕陽に映える棚田を見ることができ、棚田が海に滑り込む感があり美しい。最近は、年に一度（秋）、畦道に灯明を設置し、幻想的な「土谷棚田火祭り」が催されている。

夕日映える土谷の棚田
（長崎県松浦市ホームページ）

（２）世界農業遺産（図１０）

前述したように、九州の山々の多くは火山である。しかし、さほど高くもなく、山間部で人々が暮らせる環境があり、早くから住み着いている。あるいは、都（奈良、京都）からみれば、九州が関門海峡で隔てられた辺境の地であり、平家の落人など、権力闘争にやぶれた都人が落ちのび、山間部に隠れるように住んだ経緯がある。これらから、早い時代に山奥が開かれ、厳しい自然環境の中の自律した生活環境が構築された箇所が多い。そうした中で、文明から取り残されながら、そのことで独特の文化を築いた山間部があり、その保存状態が良いところ３か所が世界農業遺産に認められている。国東半島（大分県）、阿蘇カルデラ（熊本県）および高千穂郷（宮崎県）だ。いずれも山の自然と人の暮らしの融合が基をなし、地域の環境に応じた工夫があり、現代にも参考になるだろう。

Ａ クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環 ⑫

大分県の国東半島（４市１町１村）は、深い谷、痩せた尾根、幾筋もの谷筋がある上に、雨量は少なく、多孔質の火山土壌ですぐに浸透する。このことから、半島では、農林水産業の全体を考えた諸工夫があり、それが重要な農業遺産として世界的に認められた。

主な見どころは、豊後高田市（大分県）の田染荘（たしぶのしょう）だが、国道１０号線の東に入った小崎川沿いにある。もとは宇佐神宮の荘園である。写真㉑に見るように、１６世紀頃の耕作地や村の姿が今も残されている。

「国の重要な文化的景観」に指定され、地形に合わせて大小の田が織り成す景色が展望できる。

一方、大分空港から国道２１３号を約７㎞北へ進んだ内陸よりの国東市綱井地区では、江戸時代、農業のために６つの池（高雄池～平尾池）を繋ぐ水のリレー体制が築かれ、今日なお維持されている。

これらの地域では、神道や仏教信仰と農業が結び付き、豊作祈願や暮らしなどに関する出来事が発達した。それが「六郷満山」である。この言葉を初めて聞く人もいるだろうが、「六郷」とは、国東半島の６つの村を意味し、「満山」は、そこに展開された沢山な山岳宗教の寺院群と宇佐神宮のことである。つまり、「六郷満山」は、半島における神道と仏教を融合させた特異な宗教行事と農村文化の総称としての

⑲ 彼岸花咲くつづらの棚田（福岡県うきは市）Q-⑪

⑳ 阿蘇草原の野焼き

意味を持つ。

B　阿蘇の草原の維持と持続的農業 ⑨

阿蘇の農業遺産は、大規模なカルデラや活火山周辺地域の農業システムである。草原は22，000haの広がりを持ち、農業の助けを借りて維持されている。早春には草原の野焼きが行われ、その後、訪れる人々に強い印象を与える美しい緑のカーペットへと変わる。牧草は牛や堆肥に使用され、屋根材、土壌改良、バイオマス燃料など様々に活用され、地域全体を維持する幅広い循環のための工夫がある。

C　高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム

宮崎県北部に位置する高千穂町や椎葉村は標高1000～1700m。延岡市から、国道218号を五ヶ瀬川沿いに進み、神都高千穂大橋、その渓谷の高千穂峡に至るところの山深いところで、厳しい自然条件の下に稲作と林業の循環管理が行われている。また、林業経営と社会基盤整備のための共同体制が確立されている。その結果、木材生産用の針葉樹林（暗緑色）と椎茸生産用の広葉樹林（薄緑色）がパッチワークのように斜面に配され、眺めれば素晴らしいモザイク状の風景である。

6　世界文化遺産と無形文化遺産

（1）世界文化遺産（図10）

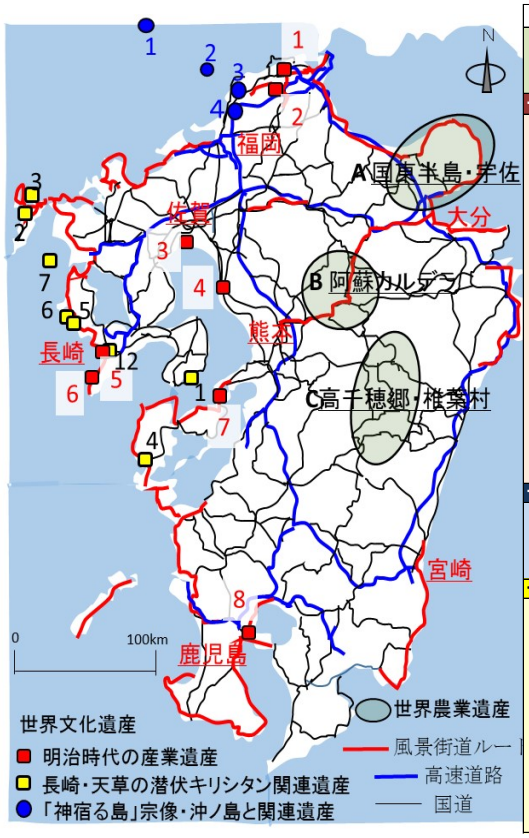
非政府組織の国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の諮問のもとに、顕著で普遍的な価値を有するものが世界遺産に登録され、それには文化、自然および複合の3タイプがある。

当然ながら古代以来の歴史を持つ九州にもそうした遺産に該当するものが多数ある。その中で、自然遺産として樹齢千年を超える縄文杉で覆われる屋久島がある。加えて、文化遺産として明治日本の産業革命遺産、宗像・沖ノ島と関連遺産、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が登録され、それらは次のとおりである。

A「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 ⑤に隣接）

一言でいえば、本遺産はわが国における神道の古代祭祀の跡を伝える大変貴重なものである。福岡県宗像市の神湊から玄界灘約60km沖に沖ノ島（無人島）が浮かび、沖津宮（おきつみや）がある。神湊から11kmのところの大島に中津宮（なかつみや）が、九州本土の田島に辺津宮（へつみや）がある。これら3社（いずれも宗像市）を合わせたものが宗像大社である（図10）。

各々の宮には天照大神とスサオノ命との誓約のもとに誕生した宗像三女神が、「道中に鎮座し　天孫を助け、天孫のために祭られよ」との神勅（しんちょく）で宗像の地に降りたとされ、それぞれに分けて祀られている（古事記、日本書紀）。



世界農業遺産		県	場所	Q
A クヌギ林・ため池が繋ぐ国東半島・宇佐の農林水産循環		大分	国東半島	⑫
B 阿蘇の草原の維持と持続的農業		熊本	阿蘇カルデラ	⑨
C 高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム		宮崎	高千穂郷・椎葉山	
世界文化遺産1　明治日本の産業革命遺産（九州関連）		福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島		
1 官営八幡製鐵所	製鐵	福岡	北九州市	④
2 遠賀川水源地ポンプ室	製鐵	福岡	中間市	④
3 三重津海軍所跡	造船	佐賀	佐賀市	
4 三池炭鉱・三池港	石炭	福岡・熊本	大牟田市、荒尾市	
5 長崎造船所	造船	長崎	長崎市	③
小菅修船所跡				〃
三菱造船所第三船渠				〃
ジャイアント・カンチレバー・クレーン				〃
旧木型場				〃
占勝閣				〃
旧グラバー住宅				〃
6 高島・端島炭鉱	石炭	長崎	長崎市	③
高島炭鉱				〃
端島炭鉱				〃
7 三角西港	石炭	熊本	宇城市	⑬
8 集成館	造船等	鹿児島	鹿児島市	⑥
旧集成館				〃
寺山炭窯跡				〃
関吉の疎水溝				〃
世界文化遺産2「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群		福岡		
1 沖津宮、沖ノ島祭祀遺跡	宗像大社	福岡	宗像市沖ノ島	(⑤)
2 中津宮，御嶽山祭祀遺跡，遥拝所	宗像大社	福岡	宗像市大島	〃
3 辺津宮、下高宮祭祀遺跡	宗像大社	福岡	宗像市田島	〃
4 新原・奴山古墳群	古墳	福岡	福津市	〃
世界文化遺産3　長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産　長崎、熊本				
1 原城跡		長崎	南島原市	(⑬)
2 平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）		長崎	平戸市	③
3 平戸の聖地と集落（中江の島）		長崎	平戸市	〃
4 天草の崎津集落		熊本	天草市	⑬
5 外海の出津集落		長崎	長崎市	③
6 外海の大野集落		長崎	長崎市	〃
7 黒島の集落		長崎	佐世保市	〃
8 野崎島の集落		長崎	北松浦郡小値賀町	
9 頭ヶ島の集落		長崎	南松浦郡新上五島町	
10 久賀島の集落		長崎	五島市	
11 奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺）		長崎	五島市	
12 大浦天主堂		長崎	長崎市	③

注）(⑤)(⑬)：近接の風景街道ルート

図10　九州の世界農業遺産と世界文化遺産

㉑　田染荘小崎地区の文化的景観（豊後高田市）

実は、これら3宮は、「神宿る島」として崇められる沖ノ島での4～9世紀の古代祭祀を起源とし、そうした遺跡および関連遺産が、〝「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群〟として世界遺産に登録された（2017年）。その構成は、沖ノ島の沖津宮と3つの岩礁（小屋島、御門中、天狗岩）、大島の中津宮と沖津宮遙拝所、田島の辺津宮、および祭祀を受け継いできた宗像一族の墳墓である新原（しんばる）・奴山古墳群（福津市）である。

地図で明らかなように、玄界灘に面する宗像地域と朝鮮半島の南端とは直線距離にして約200㎞で、最短コース。このため、4世紀から9世紀にかけて我が国と東アジア、取り分け朝鮮半島との交流が活発に行われたが、地域の人々（古代海洋族の宗像氏）がその担い手となり荒海を往来した。

その際、九州本土から約60㎞のところに絶海の孤島・沖ノ島がある。そこは神が宿ると信じられ、航海の道標にしながら、安全祈願が行われた。

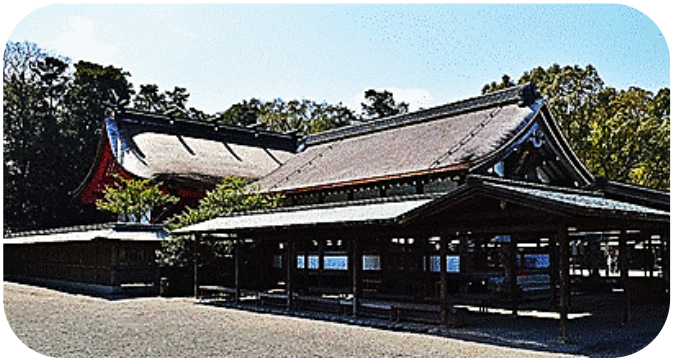
調査によれば、祭祀の形式は4段階の変遷があったとされる。最初（倭の五王から中国・宋などへの遣使があった頃の4世紀後半～5世紀）は島の巨岩の上での祈り（岩上祭祀）であった。その後、岩陰での祈り（岩陰祭祀、5世紀後半～7世紀）、ついで岩陰と露天両またがりの半岩陰・半露天祭祀（7世紀後半～8世紀前半）、そして平坦地での祈りの露天祭祀（8世紀～9世紀）へと変遷した。

また、沖ノ島にとどまらず、7世紀後半、手前の大島、そして九州本土へと祭祀が広まった。500年に及ぶわが国の古代祭祀が島伝いに守り伝えられ、12世紀になると祭祀場の近くに社殿が作られ現在の姿になった（㉒）。

前述のように、航海の状況から3宮の中で最遠の沖津宮が最も神聖で、その島は女人禁制。当番の神職だけが海中で禊をし、上陸できる。一木・一草・一石をも持ち出すことができないと厳しく規制され、貴重な船載品が祭祀に奉納されたまま残された。その結果、国宝を含め8万点におよぶ遺品が今に伝わり、沖ノ島はまさに海の正倉院である。

大島の沖津宮遙拝所は、沖ノ島そのものをご神体に拝む場所である。また、新原・奴山古墳群は、航海・漁労・交易の担い手で、祭祀を継承し発展させてきた宗像一族の墳墓。古墳時代（5、6世紀）、現在の福津市の海辺近くの台地に、玄界灘を見守るかのように築かれ、前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基が集積している。

㉒-1「神宿る」沖ノ島（国土交通省国土画像情報）と沖津宮



㉒-2 宗像市・田島における宗像大社の辺津宮本殿と拝殿（現在のものは16世紀末の再建、共に国重要文化財）。

B 明治日本の産業革命遺産（❸、❹、❻、⓭）

明治時代になり、わが国は鎖国の呪縛からやっとのことで解き放たれ、文明開化となり、富国強兵策が促進された。特に産業の近代化に力が入り、炭鉱、鉄鋼、造船業が展開されたが、これらをもとに、2015年、「明治日本の産業革命遺産　製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録された。その中で九州は大きな役割を担ったが、これは江戸時代からの長崎の開港と西洋文明導入の蓄積があったことによる。また、アジア諸地域と地理的に近接し、北部九州においてエネルギー源として大量の石炭が産出したことによるとも考えられる。

製鉄、造船などの重工業が発展し、産業革命遺産の半分以上が西九州地域に集中している（図10）。鉄鋼業では官営八幡製鉄所㉓、鹿児島旧集成館、造船業では三重津海軍所跡、長崎造船所・小菅修船所、鹿児島旧集成館。そして石炭では高島炭鉱、端島炭鉱（軍艦島）、三池炭鉱㉓とその関連などである。国全体からみれば、8つのエリアの中の5エリア、23の構成資産の中の13までが九州である。わが国は、明治の近代化の中で西洋文明を取り入れ、北および西九州を舞台に経済発展を遂げたいと必死に努力したが、地域創成が求められるこれからの困難な時代を乗り切るヒントになるだろう。

それにしても人材が大切で、本遺産に関わった人物を挙げれば、島津斉彬（第11代薩摩藩主、明治維新の人材育成）、坂本龍馬（土佐藩郷士。江戸末期の志士で薩長同盟に尽力）となる。岩崎弥太郎（三菱財閥の創始者）、団琢磨（三井三池炭鉱の経営）、トーマス・グラバー（英国商人。高島炭鉱の経営、小菅修船所の建設など）の貢献も見逃せない。加えて、プッチーニ作曲の歌劇〝蝶々夫人〟がロマンあふれる物語として花を添えた。年配の人なら、三浦環やマリアカラスが歌うその中の独唱曲〝ある晴れた日に〟を思い出す人、口ずさむ人もいるだろう。

C 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

図10の付表の最下段は、2018年に世界文化遺産に登録された「長崎・天草の教会群と潜伏キリスト教関連遺産」である。その内容は、長崎県北部の平戸市から熊本県南部の天草市に至る九州西海岸の半島、離島に跨って分布し、禁教期（17世紀～19世紀）の潜伏キリシタンに関わる遺産である。

天草・島原の一揆で立てこもった原城址、禁教時に密かに祈りを続けた潜伏キリシタンの集落や関連遺産、信徒発見となった大浦天主堂や、その後に各地で建設された教会など。全部で12の資産があり、いずれも長崎県と熊本県天草地方の半島や島々に点在している。

ところで、潜伏キリシタンといっても2通りがある。一つは、明治時代に禁教令が解れ、カトリックに復帰した信者達である。踏み絵や、幾度となく摘発（崩れ）を受けたものの、長く隠れ続け、後に世

図10付表の当該文化遺産のうち4～12が関係遺産である。

いま一つは、禁教で指導者不在の中において、キリスト教伝来当初の「オラショ（祈祷）」を唱え、自然や殉教者の崇拝と結びつき、あるいは隠れ蓑にして、これまた世界に例をみない密教的な信仰を生み出した人達である。これを「カクレキリシタン」と区別する文献もあるが、長崎県北部の平戸島（平戸市）などでいまなお続き、図10付表では2、3の資産「平戸の聖地と集落」が当てはまる。

旧グラバー住宅　(1863年、長崎市)　Q-❸

三池炭鉱宮之原坑（１８９８）
(国重文、大牟田市)

三角西（旧）港　(1887年開港、宇城市)　Q-⓭

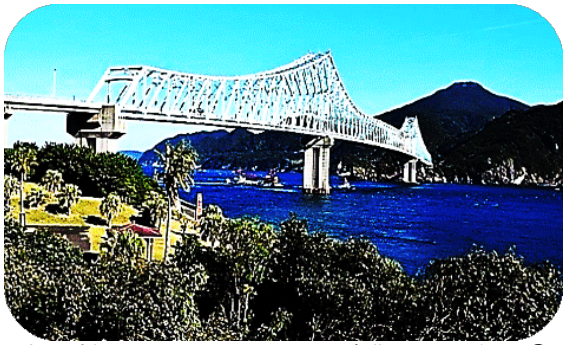
官営八幡製鐵所旧本事務所(1899、北九州市)　Q-❹

㉓　世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」（九州関連）

界で例を見ないキリシタンの発見となり、教会を建てキリシタン信仰を取り戻した人達だ。時の教皇ピオ九世は〝東洋の奇跡〟と称賛した。

㉔-1　崎津天主堂(明治以来3度の建て替え、1935竣工)（天草市河浦町）Q-❸

㉔-2 信徒発見の大浦天主堂（1864竣工）（長崎市南山手町）Q-❸



生月大橋とカクレキリシタンの聖地・安満岳（平戸市）Q-❸

登録された潜伏キリシタンとはこれら2つのタイプを包括したネーミングである。長崎、天草には、潜伏に適した小さな島や半島が多いこと、その背景に地域の人々の辛抱強さ、頑張りがあった。

とはいえ、時には大量のキリシタンの発覚事件も起きた（天草崩れ、浦上崩れなど）。しかし、大方は「宗門人別改帳」に登録の上、寺の檀徒となって仏教徒を装い、非キリシタンと共存する信仰が生み出され、密かにキリスト教の信仰が続けられた。あるいは、年貢を共同で請け負う信仰共同体（コンフリア）をつくり、互いに助け合いつつ、長い潜伏に耐え忍びながら200年以上に及ぶ歴史を刻んだ。こうした潜伏は世界に例がなく、その悲惨さ、苦難を知るには巡礼する以外にない。

（2）無形文化遺産（❹、❼、⓮）

表8は、九州の伝統的な5つの祭りで、ユネスコの無形文化遺産に登録されたものである（2016年）。これらは神社の夏または秋の祭りである。「おいさ　おいさ」、「ワッショイ　ワッショイ」と声をかけ、重い山笠や曳山が多くの人達により担がれ、曳かれる勇壮で華麗なパレードである。そのうちの一つが町内を通り抜け、砂浜に集合する「唐津くんち」の曳山だ。また、博多の祇園山笠は、中世を起源とするまつりで、街で数キロのコースを設定し山笠を担ぎ走る追い山と、街の各所に人形師の手になる豪華な飾り山で構成されている。戸畑祇園大山笠は、昼は刺繍模様の幕、夜は5段57個の提灯の大山笠に変身するもので大変珍しい。同じ祇園祭ながらも地域の人々の熱意を競う祭りが工夫されている。

他方、2018年、全国で10件の民族行事「来訪神―仮面・仮装の神々」がまた無形文化遺産に登録された。その中に、佐賀県蓮池町の「見島のカセドリ」と、薩摩

唐津おくんち

戸畑祇園

三　神話時代から長い歴史を刻む九州の風景街道地域

1　九国二島の古代から江戸期を経て現代の七県体制へ

鹿児島県種子島の中種子町における横峯遺跡と同様に、鹿児島県指宿市の水迫遺跡、大分県大分市の丹川内市下甑島の「トシドシ（年年）」が選ばれている。

前者は、毎年2月の第2土曜日の夜、蔓蓑に身をつつんで雌雄のニワトリに扮した神の使いが、熊野神社をお参りした後、家々を回り、床をたいて悪霊を払い、家内安全、五穀豊穣を祈るまつりである。後者は、鬼の顔をして年神に扮し、首切れ馬に乗って大晦日の夜に家々を訪れ、子供たちを褒めたり、戒めたりして反省させ、歳餅を与えて一つ年をとるという行事である。この歳餅がお年玉の原形ともいわれている。

むろん、九州各地に、これらに劣らない多くの伝統の祭りや風習がある。初詣、七五三詣、花見や花火大会、宗像のみあれ祭、長崎のおくんち、天草のハイヤ祭り、阿蘇神社の火振り神事等々だ。関係市町村の観光協会などに問い合わせ、祭り・イベントの時期に合わせて訪問すれば、氏子たちの熱気が目の当たりにでき、旅がひときわ華やぐだろう。

博多祇園

日田祇園

八代妙見祭

表８　UNESCO 無形文化遺産

祭り	神社	場所	開催月	SB
博多祇園山笠	櫛田神社	福岡県福岡市	7	Q-❼
戸畑祇園大山笠	飛幡八幡宮等	福岡県北九州市	7	Q-❹
唐津くんち	唐津神社	佐賀県唐津市	11	Q-❼
八代妙見祭	八代神社	熊本県八代市	11	―
日田祇園山笠	八坂神社	大分県日田市	7	―

鹿児島県種子島の中種子町における横峯遺跡と同様に、鹿児島県指宿市の水迫遺跡、大分県大分市の丹生遺跡など、九州各地で旧石器時代の遺跡が見つかった。大分県豊後大野市の岩戸遺跡（国史跡）では我が国最古といわれる後期旧石器時代のこけし型岩偶が見つかっている。これらは、早くから九州各地に人々が住みついた証である。何万年か前に、黒潮に乗り、当時はさほど遠くなかっただろうアジア大陸や南方の島々から、様々なルートで人々が移り住み、九州文明の礎を築いたと推察される。

以来、九州文明の発展の中で多彩な出来事があり、同時に幾度かの統治システムの変遷があった。その要として、古代の令制国による地方体制、江戸時代の藩体制、そして現代の県区分をとりあげれば図11～13のとおりである。これらを頭に入れると九州の歴史を知る上で都合がよく、その意味でまずはじっくり地図を眺めることだ。

古事記には、大八島の誕生で、筑紫島は「身一つにて面四つあり」と記されている。「筑紫の国」「豊の国」「肥の国」および「熊曾の国」である。その後、ヤマト王権が浸透し、諸制度が整うにつれ地方の行政組織の整備も進んだが、これに伴い、筑紫の国は筑前（福岡北部）、筑後（福岡南部）、肥の国は肥前（佐賀・長崎）、肥後（熊本）、豊の国は豊前（福岡東部、大分北部）、豊後（大分）に分けられた。

一方、南九州（宮崎・鹿児島）の熊曾の国は、続日本記や先代旧事本記では「日向国」だが、初代の神武天皇が生まれ、東征へ出立した地である。しかし、ヤマト政権が十分に支配できていたのでなく、熊襲や隼人といった集団が割拠する状態にあった。そこに隼人の乱などがあり、それを機に鹿児島を唱更国（はやひとくに、後の薩摩国）と大隅国に分立させ、宮崎を主にする日向国が成立したといわれている。

ところで、古代の令制国は、行政機関を置いた区画（国衙という）があり、朝廷から官吏（国司）が派遣された。加えて、九州では、西海道諸国の統括と対外交渉の役を担う大宰府が筑前国に置かれ、こうした結果が図11に示す8世紀頃の九州の姿である。これを通常「**九国二島**」といい、九国は前述のとおりで、二島は壱岐、対馬である。

また、国司の長官を国守というが、筑前守に歌人・山上憶良や学者・吉備真備が、薩摩守に万葉集の編者・大伴家持が、豊前守に道鏡の野望を封じた和気清麻呂が任じられている。これらの人々を見ると、国の地方統治が進む中で九州が重要視されていたことが読み取れる。

令制国はその後の九州の行政区分の原点である。それが中世、近世と受け継がれ、その呼び名を今日なお用いることがある。自治体名（日向市など）や鉄道駅名（筑前前原駅など）に付したところがあり、旅の途次に遭遇する地名もある。風景街道の中にも「豊の国」「薩摩」を付す名称がある。

つづく荘園時代（奈良時代から戦国時代にかけて）に入ると地頭が、戦国時代には戦国大名が地域の統治者となり、群雄割拠した。このため、九国二島はさらに細かく区分されたが、江戸時代に入り一国一城の「**藩体制**」が定められ、九州全体は約30の藩（支藩を除く）に分割された（図12）。諸藩の大名は、周知のとおり親藩、譜代、外様に分けられ、九州では図12の付表に示すように、6人の譜代がいて、それ以外が外様であった。

因みに2、3を挙げれば、鹿児島藩の島津氏は外様大名。鎌倉時代以来700年にわたり同じ地域を治めた極めて稀なケースで、禄高も九州最大であった。福岡藩の黒田氏は、関ヶ原の戦いの功で、それまでの小早川氏の岡山への転封を受けて中津藩から移封され福岡藩を築いた。唐津藩は、当初、関ヶ原

の戦いの功で寺沢氏（外様）が配されたが、天草島原の乱後に5人の譜代大名が入れ替わり、最後は小笠原氏である。

図中3か所に黄色マークが付されている。これらのうち日田は西国筋の郡代（郡奉行）が置かれた直轄地である。長崎は鎖国時代に唯一開港され、長崎奉行所が置かれたところ。天草の富岡は、天草島原の乱後に天草が天領となり、その代官所が置かれた。黒丸は、参考に豊臣時代の名護屋城跡を示すものである（次章G）。

いずれの藩にも、あるいは直轄地にも、それぞれの成立とその後の発展で刻まれた歴史があり、多くの遺跡、遺品が風景街道の資源をなすことはいうまでもない。

明治時代は近代国家の始まりで、周知の廃藩置県が行われた。当初の藩をベースにした県区分、その統廃合の後に、長崎と佐賀、鹿児島と宮崎の再編があり、結局は、明治16年（1883）に至り現在の「**七県体制**」（図13）が確立した。面積でいえば鹿児島県が最大で、次いで宮崎、熊本の順である（表紙の表参照）。

図11と図13を見比べれば、互いによく似ていることに気付くだろう。つまり、九州では時代が変わっても地方統治の枠組は不変で、このことは九州文明が各々で醸成され、発展したことを意味する。その結果、千年を超える長い期間の中で風習、人柄などが個々に醸成され、地域それぞれで特色ある文化が育まれた。

必ずしも的をえないが、よく言われる県民性は、「荒っぽいが開放的な福岡」「葉隠れの佐賀」「おおらかな長崎」である。「各々で個性発揮の大分」「肥後もっこすの熊本」「ひとがよい宮崎」「ぼっけもんの鹿児島」とも。これらは、地域ごとの風習や民族性を醸成し、容易に一つに染まるものでないことを表している。「九州は一つ一つ」、「7県バラバラ」とはよくいわれるが、だからこそ7県7色の虹の輝きを持つ歴史と文明が培われたと考える。7県に広がる15ルートの風景街道が各々で個性豊かであり、来訪する人々の様々な興味に応えることができるのもこのことにつきよう。

とはいえ、どこまでが薩摩か豊後か。どこが黒田藩か飫肥藩か。変遷や飛び地などもあり、各時代の国分（くにわけ）や藩区分は複雑で、旅行者には分かりにくく馴染みが薄い。それでも九州の歴史と風土、文化を理解する上で、これらを知る必要がある。名は体を表し、地名はその意味をなす。ガイドブックを読む最低限の情報にと古代令制国、江戸時代の藩体制の城下町、現代の7県の行政区分が図11～13であり、今一度目に焼き付け、次節の諸事項を読むことを勧める。

図11 九州の古代国（九国二島）

図12 江戸時代の九州の諸藩

主な藩（国主、国主格、城主、城主格）

	藩	大名家
対馬	対馬府中	宗
筑前	福岡	黒田
	秋月	黒田
筑後	久留米	有馬
	柳川	立花
豊前	小倉	小笠原他
	中津	奥平
豊後	杵築	松平（能見）
	日出	木下
	府内	松平（大給）
	臼杵	稲葉
	佐伯	毛利
	岡	中川
肥前	唐津	小笠原他
	佐賀	鍋島
	平戸	松浦
	大村	大村
	島原	松平（深溝）他
	五島福江	五島
肥後	熊本	細川
	人吉	相良
日向	延岡	内藤他
	高鍋	秋月
	佐土原	島津
	飫肥	伊東
薩摩・大隅	鹿児島	島津

注）□譜代　他は外様

図13　現代の行政区分（九州七県）

2　わが国の歴史を物語る九州の風景街道

表9は、九州の歴史を各風景街道のルート、範囲をもとに整理した歴史年表である。その中で我が国をリードした主要な11項目を「九州の歴史風景イレブン」として、時代順に解説しよう。

A　古事記等の神話伝説（❶日南海岸、❿豊の国、⓮薩摩、❼玄界灘）

出雲、伊勢など。全国各地に神話とそれに関連する神社がある。そうした中、九州は、瓊瓊杵尊（ニニギノミコト、天照大御神の孫）が高天原から筑紫の日向の高千穂峰に天下り、薩摩一帯に高殿（うてな）を築き、稲田を切り開いたと語られている。霧島連山の高千穂の峰の「天逆鉾（あめのさかほこ）」は、復元模型で、瓊瓊杵尊が高天原からの降臨に際し突き立てたとされる物語に由来し、設置されたものである。

また、可愛山陵（えのみささぎ）の古墳（薩摩川内市）が瓊瓊杵尊の墓（神代三山陵の1つ）と信じられ（㉕-2）、宮内庁により管理されている。あるいは、高千穂町には天岩戸開きの岩戸神社が、青島には海幸彦・山幸彦の伝説がある。鵜戸神宮（㉕-1）の主祭神は、神武天皇の父、日子波瀲武鸕鷀草葺不合尊（ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと）である。

その上で、神武天皇の東征神話があり、日本武尊（やまとたけるのみこと、景行天皇の子）の熊襲討伐、それを受け継いだ仲哀天皇（第14代）・神功皇后の伝説など、実に多くの神話が語り継がれている。

中には、天草に御所浦とよぶ島がある。島で御所とは奇異だが、景行天皇（第12代）が西国巡幸の際に行宮（旅先の仮宮のこと）を置いたとの言い伝えに因むともいわれている。

神話の真偽は不明。しかし、ギリシャやローマ、中国など、各国の神話がそうであるように、わが国も民族のルーツ探しや、精神文化形成の鍵として興味深いものがある。信仰の対象で、そのシンボルに霧島神社や高千穂神社、宇佐神宮㉖-2、香椎宮、筥崎宮㉖-1などの各神社がある。いずれも本殿は国宝（宇佐）または国重要文化財である。

農村、山村では、神社の祭りに神楽舞が奉納され、その題材はこれらの神話からとったものが多い。宮崎県高千穂町の夜神楽、同椎葉村の椎葉神楽、大分県豊後大野市の御嶽神楽がある。熊本県南小国町の吉原神楽、福岡県築城町の岩戸神楽なども。あるいは、国生み、天孫降臨、八岐大蛇（やまたのおろち）退治など、神々の物語を題材にしたものが多々ある。

神楽は、五穀豊穣や家内安全を祈るとともに、地域に根づく大衆芸能である。酒とご馳走を神社の境内に持ち込み、お籠りしながら村人たちが舞を楽しむ場に出会うとき、著者はしばし足を止めるのが常だ。故郷の原風景がそこにある思いは田舎育ちのせいだろうか。神楽を舞う人が少なくなる現代、皆さんも今のうちに目に焼き付けるとよい。

B　稲作の伝来と環濠集落（❼玄界灘、❻かごしま）

鹿児島県霧島市に上野原縄文の森と呼ぶ公園㉗-3がある。工業団地造成中に古代遺跡が発見され、桜島の火山灰が幾層にも重なる中の複合遺跡を埋め戻したものである。その最深の地下9層目から発見された集落は縄文時代早期にさかのぼり、我が国最古といわれ、10戸の住居跡や生活跡が確認されている。そして、菜畑遺跡（唐津市）、板付遺跡（福岡市）㉗-1などで、縄文や弥生時代と推定される水田遺構が見つかった。これらから、九州は早い段階から集落を形成して人々が定住し、そうした中、中国大陸の揚子江下流域から諸ルートを経由し、稲作が九州の各地に伝わり、米をベースにする和食文化発達の流れができたといってよい。また、この頃になると、V字型の濠をめぐらす集落が形成された。もともと長江中流域や南モンゴルが環濠集落のルーツとされ、稲作と同様に九州北部に伝わった。防御のため、環濠をめぐらした古い集落に那珂遺跡（福岡市）、江辻遺跡（福岡県粕屋町）がある。さきの板付遺跡（福岡市）は弥生前期を、JR長崎本線沿いの北側で歴史公園として整備が進む吉野ヶ里遺跡（佐賀県神埼市、吉野ヶ里町）㉗は弥生後期を代表する環濠集落として発掘後に復元が図られている。

訪れると、板付遺跡のように現代の高層マンションに取り囲まれるとも違和感はない。吉野ヶ里はまるで大きな農村集落の一つとして周りの風景に溶け込んでいる。こうしたことから、和食文化のルーツなす古代の環濠集落といっても現代に通じるもので、古代人がひょいと顔をのぞかせそうな思いにひたることもある。

C　金印の発見と古墳群（❶～⑮の全て）

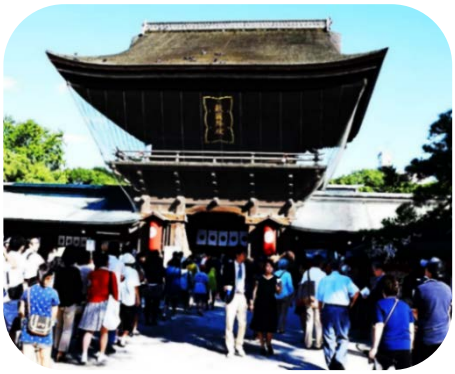
福岡市東区志賀島で、江戸時代偶然に金印㉘がみつかった。我が国の歴史上稀に見る発見である。後漢の光武帝が、2000年も前に福岡市南部にあったとされる奴国に与えたもので（AD57年）、現物は「漢倭奴国王」と刻まれ、福岡市博物館に収蔵されている。

ところで、中国の歴史書「三国志」の魏志倭人伝に3世紀頃のわが国についての記述がある。それによれば、「狗邪韓国から、對馬国（対馬）、一大国（壱岐）を渡り、末盧国（東松浦半島）に上陸。伊都国（糸島市）、奴国（福岡市南部、春日市）、不弥国（福岡県宇美町付近などの説もあるが不確定）から投馬国（不弥国から南へ水行20日と記述）を経て、邪馬台国に至る」と述べられている。これらのうち投馬国や邪馬台国は現在なお明らかでない。しかし、末盧国、伊都国、奴国の位置は、図14に示すように概ね特定できる。

そうした中、2、3世紀の頃のものと思われる吉野ヶ里遺跡㉗-2（佐賀県神埼市、吉野ヶ里町）が発見され、勾玉・管玉、銅剣や銅鏡が出土した。倭人伝記述の「ものみやぐら」や墳丘墓などの遺構が発掘された。これらから、もしや卑弥呼の邪馬台国ではと考古学ファンは色めき、古墳時代以前の九州を知る手がかりにと連日押しかけた。

㉕-1　洞窟内の鵜戸神宮（日南市）Q-❶

㉕-2　瓊瓊杵尊の陵墓といわれる可愛山陵（薩摩川内市）Q-⑭

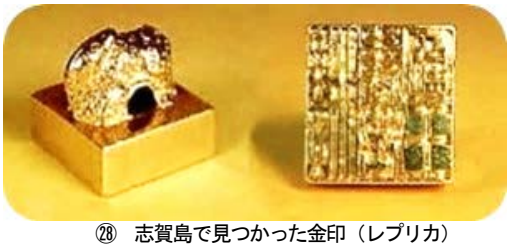

㉖-1　3大八幡宮の1つ筥崎宮（福岡市）Q-❼

㉖-2 八幡様の総本宮宇佐神宮（宇佐市）　Q-⑩, ⑫

㉗-2 弥生後期の吉野ヶ里遺跡（吉野ヶ里公園）

㉗-3 上野原縄文の森の復元集落（鹿児島県霧島市国分）

㉗-1 弥生前期の板付遺跡（福岡市博多区）


㉘　志賀島で見つかった金印（レプリカ）

他方、福岡県糸島市の曽根遺跡群の中に平原遺跡㉙がある。中国、日本製の大型銅鏡やガラス勾玉など多くの副葬品（近くの伊都国歴史資料館（糸島市）に展示）が発掘されたことから、女王の墓と目された。

魏志倭人伝では、諸国の紹介は長官など官職者の名前や人口規模、生活などにとどまる。しかし、伊都国については、官職者に加えて、「代々王が居た。皆、女王国に属する。帯方郡の使者の往来では常に駐在する所」との記述もある。これから伊都国は小さいながらも重要な国とみられ、前述の女王の墓を卑弥呼だ、いやその縁者だなどの説が唱えられている。

それにしても曽根遺跡群は伊都国の王の墳墓の集まりである。また、少し離れた位置に弥生期からの志登石墓群があり、その周辺から福岡市西区や早良区一帯に多くの古墳が分布している。これらから、同地域にいくつかの古代国が存在したとみることができる。

ヤマト王権による熊襲（九州南部の部族）征伐が語られ、磐井（九州北部の有力者）の乱（5世紀前半）があり、隼人（大隅、薩摩に居住した部族）の反乱（8世紀前半）があった。これらで憶測できるように、古代には九州各地に豪族が割拠。その証が、表9に示すように、殆どすべての風景街道地域で豪族のものと思えるる古墳群がみられることである。円墳、方墳、前方後円墳。これらを訪ねれば、考古学に興味ある人には、各地の古い歴史をたぐり寄せることができよう。

D　防人と万葉集の編纂（❸ながさき、❼玄界灘、❹薩摩）。

表９　風景街道１５ルートの歴史概要一覧　（その１）

時代		事項	北部九州（福岡、佐賀県） ❶北九州	❺むなかた	❼玄界灘	❽みどりの里	西九州（長崎、熊本県） ❸ながさき	❹島原	❶あまくさ	中九州（熊本、大分県） ❾熊本阿蘇	❺やまなみ
神話・黎明期	弥生（百石・縄文・土器）	天孫降臨（瓊瓊杵尊，三陵）		宗像三女神				半島の形成			
		筑紫の日向・高千穂			高祖山、日向峠			地溝帯の形成			
		神武天皇（	東征					雲仙岳の噴火			
		神功皇后	東征		（香椎宮、筥崎宮）						
		景行天皇（1	九州巡幸						御所浦島		
3中～7世紀	古墳	（魏志倭人伝）	竹原古墳，篠崎古墳，八王子古墳（北）	東郷高塚古墳，桜京古墳（宗）	菜畑遺跡、板付遺跡（水稲耕作） 57金印（漢倭奴国王） 吉武高木，曽根遺跡（糸），志登支石墓（糸），唐津松百済武寧王（加唐島）	下馬場古墳、日岡月岡古墳（う）、屋形古墳群（う）等	岳崎古墳（平），鬼塚古墳（佐）、曲崎古墳群（長）	首塚、一本松、守山大塚、高下古墳（雲仙）、平山古墳（島原）	大戸鼻古墳群（上天）、権六古墳（天）等	塚原古墳群（熊）、釜尾古墳（熊），中通古墳群（冑）	ヒッ森古墳（竹田）
592～710	飛鳥	663白村江の戦い（百済）		宗像大社	防人、水城			701行基・満明寺建立			
710～794	白鳳奈良			（沖津宮、中津宮、辺津宮）	怡土城						
794～1185	平安				鴻臚館 遣隋・遣唐使（630～838）						
			源平合戦（1180～85）								
		万葉集			志賀島、糸島						
1185～1336	鎌倉	禅宗伝来			1195聖福寺 謝国明（日宋貿易、承天寺）						
		1274文永の役（元寇）			防塁の構築，						
		1281弘安の役（元寇）					鷹島神崎遺跡（元寇船）（松）				
1336～1573	室町			1578宗像本殿再建	中の入寇（12，13世紀）						
					1336多々良浜戦（足利・菊池勢）		1549キリスト教伝来				
1573～1603	安土桃山	1592文禄の役（朝鮮出兵）			1587～太閤町割（博多）		1550ポルトガル船平戸（1550），口之津入港（1567）	1582天正遣欧少年使節			
		1598慶長の役（朝鮮出兵）			名護屋城		1597二十六聖人殉				
		1600関ケ原の戦い　初代	細川忠興		黒田長政　寺沢広高		松浦鎮信	松倉重政		加藤清正	中川秀成
1603～1868	江戸	城	小倉城	（黒田藩）	福岡城　唐津	（有馬藩）	平戸城、長崎奉行	島原城　直轄（富岡城）		熊本城	竹田城
							1624鄭成功誕生-平	1637天草・島原の乱			
				赤間宿、原宿			1634出島築造	原城址、潜伏キリシタン			
1868～1945	明治～昭和戦前					1865大浦天主堂，信徒発見			大江，崎津教会		
							1869長崎造船所，1870端島炭鉱等				
		世界遺産（明治産業）	1901八幡製鉄所等						1887三角西（旧）港		
		1939～1945世界第二次大戦					1945長崎原爆	1934雲仙国立公園			
1945～	昭和戦後・平成		1963北九州政令市		1972福岡政令市		1955西海橋完成				
			1973関門橋		1975玄海原発運転開始				1966天草五橋		1964やまなみハイウェイ
		1975山陽新幹線	1975山陽新幹線		1975山陽新幹線博多乗り入れ						
		1995九州自動車道		1995九州自動車道				1990普賢岳噴火			
		2004長崎2005大分自動車道				2005大分自動車道	2004長崎自動車道	2009世界ジオパーク			2005大分自動車道
		2011九州新幹線			2011九州新幹線開業		2005女神大橋			2011九州新幹線開業	
		2016東九州自動車道	2017宗像・沖ノ島世界遺産				2018長崎・天草地方の潜伏キリシタン世界遺産			2012熊本政令市、2016熊本地震	
2019～令和			北部九州（福岡、佐賀県）				西九州（長崎、熊本県）			中九州（熊本、大分県）	

６６３年、玄界灘を渡った朝鮮半島で、百済が唐・新羅連合に敗れ、その再興の戦いへの応援をわが国に要請してきた。時の権力者・中大兄皇子（後の天智天皇）は出兵を決意したが、相手が唐軍１３万、新羅軍５万であったことからすると、対応する大規模な派兵が行われたと想像する。しかし、結果は大敗に帰した。

表９　風景街道１５ルートの歴史概要一覧　（その２）

時代	事項	南九州（鹿児島、宮崎県）			東九州（大分、福岡県）			九州のその他地域
		❶薩摩	❻かごしま	❶日南	❷薄江北浦	❶別府湾岸	❿豊の国	
神話・黎明期	天孫降臨（瓊瓊杵尊，三陵）	可愛山陵						荒屋山（霧島），吾平山上（鹿屋）
	筑紫の日向・高千穂							高千穂（宮崎・鹿児島県境）
弥生（百石器・縄文・	神武天皇（東征 A			鵜戸神宮				高天原（宮崎県高原町）
	神功皇后　東征						宇佐神宮	日向国
	景行天皇（九州巡幸							黒貫神社（西都），高屋神社（宮崎）
								熊襲、ヤマトタケル伝説
	B	上場遺跡，川除遺跡						**上野原遺跡（霧島市）**
								吉野ヶ里遺跡（吉野ヶ里）
3中　古墳	（魏志倭人伝）C	下郡山遺跡（出），鳥越古墳群（阿），小浜崎古墳群（長）	指宿橋牟礼川遺跡（指）	生目古墳群（宮），狐塚古墳（日）	（直接はなく、周辺の山間地よりにみられる）	亀塚古墳（大），鬼の岩屋古墳（別）	石塚山古墳（苅），川部高森古墳群（宇）	**西都原古墳群（西都），原の辻遺跡（壱岐）**
～7世紀								**王塚装飾古墳（桂川）**
								527磐井の乱
592～710 飛鳥	**663白村江の戦い（百済）**							**大野城、基肄城の築城**
710～794 白鳳奈良	D					718仁聞菩薩		遣隋使（600~618），701大宝律令
						神仏習合、六郷満山		712古事記編纂
								遣唐使（630～9世紀末）
794～1185 平安	E	薩摩国分寺跡	759鑑真坊津上陸				豊前国分寺跡	太宰府政庁（7～13世紀）
			遣唐使					
	万葉集	長島，大伴家持						**臼杵磨崖仏**
1185～1336 鎌倉	**禅宗伝来**	1185島津忠久（薩摩荘地頭）						919太宰府天満宮（菅原道真）
	1274文永の役（元寇）							
	1281弘安の役（元寇）							鎮西探題
1336～1573 室町	F							九州探題
1573～1603 安土桃山	1592文禄の役（朝鮮出兵）							
	1598慶長の役（朝鮮出兵）	島津義久降伏（泰平寺）				竹中重利，木下延俊，細川忠興		
	1600関ケ原の戦い　初代		**島津義久**	伊東佑兵	毛利高政		細川忠興	
1603～1868 江戸	城 H	（島津藩）	鶴丸城	飫肥城	佐伯城	府内城、日出城、築城城	小倉城，中津城	日田代官所
	I							
1868～1945 明治～昭和戦前	J							黒崎教会，今村教会
	世界遺産（明治産業）		1851旧集成館					1858三重津海軍所跡
								1878三池炭鉱，三池鉱
	1939～1945世界第二次大戦							
1945～ 昭和戦後・平成	K							1958関門国道トンネル
	1975山陽新幹線							1965鶴田ダム完成
	1995九州自動車道							
	2004長崎2005大分自動車	（2004九州新幹線一部開業）						2003九州の人口ピーク
	2011九州新幹線		2011九州自動車道					（少子化、高齢化）
	2016東九州自動車道	2015川内原発再稼働			（2016東九州自動車道全線開通）			2016熊本地震、2017九州北豪雨
2019～令和		南九州（鹿児島、宮崎県）			東九州（大分、福岡県）			九州のその他地域

幸いに唐がわが国に攻めてくることはなかった。しかし、これを機に、国号を「倭」から「日本」と改め、律令国家の確立を急ぎつつ、九州沿岸の守りに防人（さきもり）が配備された。これは唐の制度を倣ったものだが、当初は遠江以東の東国から、757年以降は九州から徴用。太宰府政庁が指揮をとり、壱岐、対馬、筑紫に配した。あるいは、中原遺跡（佐賀県唐津市）の墨跡木簡から、肥前国への防人の配置があったことをうかがい知ることができる。

防人の務めは、決して楽でなかった。任期3年だが延びることも。あるいは、九州までは部領使（ことりつかい）（東国の防人を筑紫まで引率する使い）が同行したが、食料、武器は自弁である。帰りは付き添いもなく、途中で行き倒れになるものもいたとのことだ。わらべ歌でないが、まさに「行きはよいよい　帰りはこわい」である。こうした苦難の中、そのつらさ、望郷の念、家族への思いなど、防人は心の叫びを歌にした。万葉集に防人の歌約100首が載せられているが、一、二をあげれば、

○我が妻はいたく恋ひらし飲む水に
影さへ見えてよに忘られず　（若倭部身麻呂）

○小竹（ささ）が葉のさやぐ霜夜に七重かる
衣に益せる子ろが肌はも　（作者不明）

周知のように、万葉集は7世紀後半から8世紀後半までの歌を集めたもので、天皇、貴族、官人、防人、農民などさまざまな人が詠んだ歌450首以上が収められている。その中に九州と関わりがあるものも多い。防人の歌はむろんだが、万葉集編者の大伴家持は薩摩守、大伴家持の父で歌人の大伴旅人は太宰府帥、万葉歌人として有名な山上憶良は筑前守に任ぜられ、九州に関わる歌を残している。元号「令和」は、その大宰府長官大伴旅人宅の宴における「梅花の歌32首」の前文からとったもので、漢籍でなく国書からは初めてのことである。

○わが園に梅の花散るひさかたの
天より雪の流れ来るかも　（大伴旅人）

○春されば まづ咲く庭の梅の花
独り見つつや春日暮らさむ　（山上憶良）

九州各地に万葉の歌を刻む石碑がある。「玄界灘風景街道」の志賀島（福岡市）、万葉の里公園（糸島市）、神集島（かしわじま、唐津市）など。太宰府とその周辺にも。さらに、南の鹿児島県の薩摩川内市には大伴家持の縁で「万葉の散歩道」があり、出水郡長島町の「黒之瀬戸」を眼下にした「うずしおパーク」には、万葉集に詠まれた最南端の地といわれる歌の碑が建つ。

○隼人の薩摩の瀬戸を雪居なす
遠くも吾れは今日見つるかも　（長田王）

白村江の戦いに敗れ、唐や新羅がよほど怖かったのか、防人の配備にとどまらず、それまでの筑紫太宰を太宰府に移し、政庁（都府楼）の近くに、他で類を見ない防衛ラインとして水城（みずき。６６４年）㉚が築かれている（図１４）。福岡県大野城市から太宰府市にかけての約１・２㎞に及ぶ直線の堀と土塁だ。高さは１０ｍを超え、幅は８０ｍ。博多湾よりに幅６０ｍ、深さ４ｍの堀がつくられ、水が貯えられた。

あるいは、百済からの亡命貴族・憶礼福留（おくらいふくる）と四比福夫（しひふくふ）の協力をえて朝鮮式山城がまた築かれた。福岡県大野城市、宇美町にまたがる四王寺山一帯には大野城（現在の福岡県民の森）が、佐賀県三養基郡基山町と福岡県筑紫野市にまたがる基山の山頂一帯に基肄（きい）城が建設（６６５年）され、平野部の水城大堤、小水城とつないで防衛ラインが整えられた。対馬・壱岐・筑紫に防人を配し、狼煙台が設置（６６４年）され、二重、三重の備えである。

要するに、日本を守る砦が九州北部の広い範囲に構築され、あらゆる防備が固められた。まさに九州は国防最前線。このことは、１３００年を経過したいまも変わらない。

Ｅ　遣隋使、遣唐使と日本の外交拠点「鴻臚館」❼玄界灘、**❸**ながさき、**❻**かごしま）

前述と時代は重なるが、奈良および平安時代、わが国の外交の窓口として九州は重要な役割を果たした。古代のわが国と中国との交流を示す証に、前述した奴国への金印授受（５７年）がある。卑弥呼に「親魏倭王」の金印（２３８年か、２３９年かは不明）が授けられ、宋書の「倭国伝」では、５世紀に倭の五王「讃・珍・済・興・武」が宋に使節を派遣し、官位が授けられたとある。五王と天皇との関係は、倭王讃を１７代履中天皇、倭王済を１９代允恭天皇などとされるが、わが国の記紀に記載がないこともあり、いまだ諸説がある。

いずれにしても、古代の早い段階から、わが国は中国や朝鮮半島と深く交流してきたといってよく、それを特に活発にしたのが隋・唐への遣使の派遣である。目的は、当時の先進地、隋や唐からすぐれた技術や制度を学ぶことであり、仏教の経典や教えを持ち帰ることであった。

第１回の遣隋使は６００年（飛鳥時代）で、国書を持たなかった。第２回は６０７年の小野妹子らで、国書の書き出しは、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」とあり、倭王（皇）を同じ天子

図 14　九州北部の歴史を物語る古代遺跡群と風景街道

とした。このことに隋の煬帝は立腹したとも伝えられている（随書）。メンツをかけた外交の難しさか。とはいえ、６０８年、隋から答礼使の裴世清（はいせいせい）が我が国へ派遣され、以来、隋が滅びるまで我が国から５回ほど派遣されている。

隋滅亡後は唐の時代。第１回の遣唐使は６３０年の犬上御田鍬（いぬかみのみたすき）である。その後、１８回ほど派遣されたが、菅原道真の建議で廃止された（８９４年、平安時代）。これは唐が衰退し、派遣の意義が失われたことによるものである。

上述が遣隋使・遣唐使の経緯だが、それらと九州との関わりは深い。これは遣使が都から瀬戸内海を通る海路によったことによる。大阪の住吉津（すみのえつ）をでて難波津（なにわつ）に寄り、そして瀬戸内海をとおり、九州の那の津（福岡市）を経由した。

その先は、大まかに３ルートがある。一つは北路で、対馬から朝鮮半島の西海岸沿いを通過し、遼東半島に至るもので、６３０～６６５年の航路である。２つ目は、白村江の戦いの後の７０２～８３８年までのルートで、九州北岸に沿い五島列島から東シナ海を横断するものである。そして３つ目が、薩摩の坊津（南さつま市）、南薩諸島などを経由し、東シナ海を横断するものだが、これは嵐による漂流との見方もある。

遣使などの渡航者、来航者の中で、特に九州と関わる著名な人物に、山上憶良、吉備真備、最澄、空海、鑑真をあげることができる。また、関連施設に鴻臚館（こうろかん）㉛がある。そして、８９４年遣唐使に任じられたのが菅原道真だが、前述のように、もはや派遣の意味がないとの建議で廃止された。これらの経緯をもとに、遣隋使・遣唐使時代の風景ポイントとしていまに残るところを二、三紹介しよう。

☆　怡土城跡（❼玄界灘）

㉙ 曽根遺跡群における女王の墓・平原古墳（福岡県糸島市）Q-❼

朝鮮式志登支石墳墓から見た糸島平野（福岡県糸島市）。狼煙台の火山（右）、朝鮮南部の耶山に似た名の可也山（左）Q-❼

㉚　福岡県大野城市から太宰府市の1.2㎞にわたり築かれた水城（左）と太宰府政庁跡（都府楼跡）（福岡県太宰府市）（右）

福岡市西区の姪浜・今宿地区と糸島半島の境に高祖山と呼ぶ標高416ｍの山がある。この山の西斜面一帯に山城があった。それが怡土城である。築城は756年から12年間に及び、吉備真備（12次遣唐大使）が着手、佐伯今毛人（さえきのいまえみし。16次遣唐大使だが渡航しなかった）が引き継いで完成させた。これは、玄宗皇帝の時代、唐で安禄山の乱（755～763年）があり、また新羅が日本からの国使との会見を拒否したなど、関係国との緊張が高まったことへの備えである。

怡土城は、先の大野城などと異なり、中国式の山城である。尾根伝いに望楼を配し、麓に土塁・石塁（高さ10ｍ、長さ2㎞）が築かれている。登ればいまもところどころに1300年の時を経た遺構がみられる。

☆　太宰府政庁跡、鴻臚館、太宰府天満宮（❼玄界灘）

九州は都から遠く離れ、その一方で大陸との近さから、特別の扱いであった。磐井（日本書紀では筑紫国造磐井）の乱（527～528）の後に那津口（博多）に宮家が設けられ、609年頃は筑紫太宰（つくしおほみこともちのつかさ）と称した。そして、朝鮮半島の白村江の戦いの後の664年、現在の太宰府市に移された。

太宰府政庁㉚は、国衙（こくが）の一つとして九州を統治。合わせて、「遠の朝廷（とうのみかど）」と呼ばれ、わが国の外交・防衛の役を担った。ある意味で、古代における中央官庁の地方分散である。そして、その一機関が福岡城（福岡市）一角の「鴻臚館」㉛で、1987年に発掘された。鴻臚とは中国の同様の施設・鴻臚寺に由来する。外国からの来訪を告げ、客をもてなす迎賓館兼宿泊所であり、遣隋使、遣唐使を接待する客館であった。丁寧なもてなしがあり、また、鴻臚館と太宰府の間で、連絡のため、ほぼ真っ直ぐのびる2本の大宰府官道があったことも明らかである。

太宰府政庁跡の近くに太宰府天満宮がある。前述の菅原道真は右大臣に上り詰めたが、左大臣藤原時平の讒訴（ざんそ）で太宰府に左遷され、903年に没した。その道真を祀る神社が大宰府天満宮である。今では学問の神様として多くの人々が崇めるとともに、歌に詠まれた飛梅伝説がまた有名である。

○東風（こち）吹かば　匂ひをこせよ梅の花　主なしとて　春な忘れそ　（菅原道真）

㉛　鴻臚館発掘と復元模型（福岡市舞鶴公園鴻臚館跡展示館）Q-❼

天満宮境内本殿前に梅の神木があり、それが飛梅とのことだ。

☆　鑑真の坊津上陸（❻鹿児島）

遣隋使、遣唐使には、日本から多くの留学生や僧が同行し、優れた技術や知識を持ち帰った。その一方で、中国から乗船し日本にきた高名な中国人がいる。それが日本に戒律を伝えた鑑真和上である。鑑真は、中国の戒律僧で、聖武天皇から戒律を伝えるよう懇願され訪日を決意した。しかし、渡海することを嫌がった弟子たちの妨害を受け、あるいは暴風に会うなどで幾度も失敗。ついに失明しながらも、6回目にしてようやく鹿児島県坊津の秋目に仏舎利を携え到着（754年）した。当時の航海がいかに危険で命がけだったかを物語る。到着後は、太宰府観世音寺隣りの戒壇院（太宰府市）で初めて授戒を行った。以後、奈良の東大寺、唐招提寺に移り住み、多くの人々に菩薩戒を授け、763年に没した。

F元寇の役（❼玄界灘、❸ながさき、⓫みどりの里）

わが国は防備を固めたものの、8世紀から10世紀にかけ、新羅の入寇（にゅうこう。海賊行為）に悩まされた。たとえば、813年、小値賀島（長崎県五島列島）への侵入があり、869年に新羅からの海賊が筑前國那珂郡（博多）の荒津に上陸、豊前の貢調船が襲われた（貞観の入寇）。893、4年には熊本、長崎、壱岐、対馬へ入寇。これらは、新羅の治安の悪化や飢饉が原因とみられる。

そして、鎌倉時代になると、今度はモンゴル帝国と高麗の連合により2度にわたる襲来を受けた。それが文永、弘安の役（元寇）である。

元寇では、蒙古軍が博多湾、糸島半島、伊万里湾などに襲来。これに対し、わが国の御家人たちが総力をあげて戦ったことは事実であるが㉜、加えて、暴風雨（神風）で自滅・撤退したともいわれている。いくつかをあげれば、福岡市早良区西新の高台・祖原山（そはらやま、標高33ｍ）で激しい戦い

㉜-1　元寇の防塁（福岡市西区生の松原）　Q-❼

㉜-2 竹崎季長が描かせた蒙古襲来絵詞（弘安の役）。いざ出陣。

てつはう、矢をものともせず蒙古軍と必死に戦う御家人　Q-❼

があった。東区志賀島の蒙古塚には、座礁した蒙古船の兵士を処刑し、後に供養塔が建立されている。玄界灘風景街道に隣り合う❸「ながさき」風景街道の鷹島（松浦市）では、全島民が犠牲になった激戦地だが、蒙古船が神風で沈没したとされている。その証が、日本初の海底遺跡・鷹島神崎沖からの軍船の一部や遺品の引き上げであり、鷹島歴史民俗資料館に陳列されている。久留米市・草野歴史資料館には草野一族の活躍を描いた絵詞（草野次郎経永の兵船）の複製が展示されている（⓫みどりの里）。

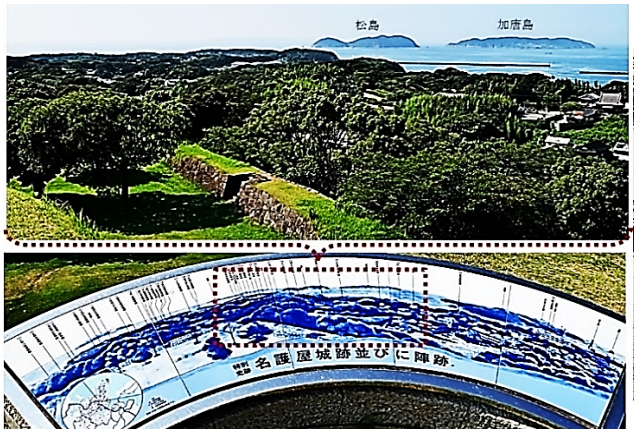
そうした中、海辺に築造されたのが元寇防塁㉜−1である（❼玄界灘）。東区筥松、中央区地行、早良区百道、西区生の松原、今宿、今津などと（図14）、博多湾沿いの東西各沿岸域にみられる。当然だがこれらを結べば鎌倉時代の海岸線が浮かび上がる。当時の海辺をたどりつつ、現地のレプリカに描かれる絵詞㉜を思い描けば、国難が中世の戦争ドラマとして眼前に迫る。防塁近く、大河ドラマのロケが行われた地に住む著者は人ごとに思えず、家族を守るにはどうすればよいか、飛び交う「てつほう」の中を弓矢と刀でどう戦ったかなどと自問自答してみることもある。

G　豊臣秀吉の九州平定と朝鮮出兵（❼玄界灘、❿豊の国、⓬別府湾岸、⓮さつま）

16世紀の戦国時代といえば、関東や奥羽、美濃での戦いがよく語られる。しかし、九州にも激しい戦いがあった。1580年代の後半、九州では有力な戦国大名として大友（豊後）、龍造寺（肥前）、島津（薩摩）の3氏が台頭。その中で島津は九州平定をもくろみ、日向、肥後、肥前へと侵攻した。龍造寺を下すとともに、岩屋城（福岡県太宰府市）、立花城（福岡県粕屋郡新宮町）など大友勢を攻めたてたが、これを阻止せんと大友宗麟は羽柴秀吉に助けを求めた。

秀吉は、これを受け諸大名に停戦命令を発し、国分（くにわけ）案を提示した。しかし、島津が従わないため九州攻めを決断（1586年）。その命令で、北陸や東海道、中国、四国などの諸大名と九州勢が合流し島津に対抗した。1587年、弟の秀長は豊後・日向と東九州を、秀吉は筑前・肥後と西九州を南下、各地で転戦し薩摩を目指した。

豊後府内城（大分市）、豊後梓越え（大分県佐伯市）、豊前岩石城（福岡県田川郡添田町）などでの戦いがあり、結局、日向根白坂（宮崎県児湯郡木城町）の戦いで島津は豊臣の大軍の前に敗れた。そして、秀吉は海路で出水に入り、薩摩平佐城（薩摩川内市）の戦いが最後になった。島津義久は川向かいの泰平寺（薩摩川内市）に頭を丸めて出頭し降伏。その時の様子を像㉞にしたものが境内横の公園入口にある。



㉝ 豊臣秀吉の朝鮮出兵における前線基地・名護屋城跡（唐津市）G−❼

㉞ 豊臣と島津の和睦（薩摩川内市泰平寺）G−⓮

戦後処理に、秀吉は筑前筥崎（福岡市東区箱崎）の筥崎宮から九州国分令を発し、九州平定を成し遂げた。また、焼野原となった博多のまちの復興のために町割りを行った。その一方で、バテレン追放令を発したが、理由は明らかでない。領民に無理な入信を迫り、神社仏閣の破壊があったことによるともいわれている。

秀吉の戦いはこれで終わりでない。引き続いて九州を前進基地に、かねてから構想していたといわれる大陸進出「唐入り」へ乗り出した。1591年、諸大名に侵攻軍、予備軍の宿営地として名護屋城（佐賀県唐津市鎮西町）㉝の建設を命じ、軍隊を集結。そして、朝鮮に「明」への道案内を命じたものの拒絶された。このため、朝鮮を攻めるとし総勢15万8000人を出兵させ戦を仕掛けた。それが文禄の役（1592〜93年）である。現在の唐津市と玄界町の総人口に匹敵する大軍だが、当初は勝ち続けたものの、朝鮮側に「明」の援軍や義兵の参加があって膠着状態となり休戦となった。

その後、講和交渉の決裂で、再び慶長の役（1597年）となり、14万1500人が出陣。しかし、豊臣秀吉の死去（1598年）で撤退し、沙汰やみになった。

この間、大阪城に次ぐ規模の名護屋城とその周りの各大名の陣屋が、わが国の外交・軍事の拠点であった。地元住民も突然の大軍団の集結にさぞやびっくりしたことだろう。水戸の佐竹家被官・平塚滝俊は、書状に「野も山もあいたところがない」としたためている。いまや夏草茂る兵どもが夢の跡だが、名護屋城跡をはじめ多くの陣跡が国の特別史跡に指定され、名護屋城跡に隣接して佐賀県立名護屋城博物館が開設されている。

H　関ケ原の戦いと九州の戦国大名たち

秀吉亡き後、豊臣を支えた大名の間で覇権争いがあった。その雌雄を決したのが、良く知られる関ケ原の戦い（1600年10月21日）である。その際、九州の諸大名も東軍（徳川方）と西軍（豊臣方）に分かれた。暗闘する諜報戦や策謀の中、難しい判断があったと思われるが、結局のところ、東軍方は、黒田長政（中津から福岡の筑前名島に加増転封）、寺沢広高（唐津藩の初代藩主、天草4万石加増）、有馬晴信（宇土城を攻撃し所領安堵）、加藤清正（宇土、柳川城攻撃、所領安堵）、伊東祐兵（飫肥。なり行きで西軍につくが、黒田如水を通じて東軍につき所領安堵）であり、さほどの数でない。これら以外は、一部に参戦しなかったものもいるが、ほとんどが西軍方につき、戦の後、所領を没収されたものが多い。九州の大名達からすれば、東軍か、西軍かの絵を踏まされ、統治体制の抜本的組み替えにあったようなものである。

その中で、中川秀成（岡）、竹中重利（高田）、鍋島直茂（佐賀）、島津義久（島津）、宗義智（対馬府中）は安堵された。小早川秀秋（筑前から備前岡山に加増転封）、相良長毎（人吉）、高橋元種（延岡）、秋月種長（高鍋）も西軍からの寝返りで安堵である。

㉟“荒城の月”の滝廉太郎像と岡城址（大分県竹田市）Q-❽

㊱ 天草四朗像（天草市天草キリシタン館前）Q-⑬

㊲ 熊本城の天守閣（熊本市） Q-❾

I　江戸時代の九州

関ケ原の戦い以降が江戸時代。この時期の九州に関し特記すれば４つのことがある。一つは、１７世紀初頭、一国一城のもと、各藩で**「城および城下町」**が整備されたことである。図１２、表９に示すように、城跡が各風景街道のエリアに必ずといってよいほどある。しかし、江戸期からの天守閣は残っていず、復元されたものとして小倉城、唐津城、平戸城、熊本城があるに過ぎない。

熊本城㊲は初代藩主の加藤清正が築城し、続く細川氏により改築された。周囲５・３㎞、総面積９８万㎡に及ぶ難攻不落の城だったが、後述の西南戦争直前に原因不明の出火で大半を焼失した。消失を免れ現存するものは宇土櫓（多重櫓）などわずかである。現在の大天守、小天守などは世界第２次戦後の再建（鉄筋コンクリート造）であり、本丸御殿は築城４００年を記念しての復元である。

一方、荒城の月で有名な竹田の岡城㉟や福岡城、府内城、臼杵城、飫肥城などは、城跡でもそれぞれを訪れれば、遺構に加え、城の構図や石の積み方などの築城技術、城とまちとの関係、城下町の構造、加えて武家屋敷、商人まち、寺まちなどが見聞できる。

二つ目は、農民が立ち上がり、反乱を起こした**「天草・島原の一揆（乱）」**（１６３７年１２月～１６３８年２月）である（⑬あまくさ）。わが国では、豪族や武士たちの覇権争い、領土争いとしての戦いは多い。小規模な農民一揆や宗教上の一揆も多々ある。しかし、農民が起こした本格的かつ大規模な一揆は、この島原・天草の乱が唯一である。３万人を超える島原、天草地域の農民が反乱を起こし、キリシタン少年・天草四郎㊱指揮の下で島原城に籠り戦い続けた。明治維新を除けば、我が国稀有の戦いであったが、最後は一揆に参加したほぼ全員が討ち死にし、あるいは自決し、悲惨極まりないものであった。

三つ目は、わが国が鎖国策をとる中、**「長崎」**だけが開港され、西洋やアジアの諸地域との交流、交易が続いたことである。まずは平戸港、口之津港（島原半島の南端）が開かれた。その後、長崎に出島が築かれ、オランダやポルトガルの文明を受け入れ、さらに中国との交流があった。長崎名物・卓袱（しっぽく）料理を和華蘭（わからん）料理と揶揄する。それほどに国際色豊かな文明・文化の花が長崎の街に開いた。訪ねれば、独特の雰囲気があり、醸成された異国情緒に浸ることができる（❸ながさき）。

いま一つ重大なことがある。それは、前２者のできごとと深く関わり、幕府が禁教令を布告し、想像に絶する弾圧があったことである。その中で、**「潜伏キリシタンの信仰」**が長崎、島原、天草を中心に密かに続いた（❸ながさき、⑮「島原半島」、⑬あまくさ）。信仰はどこいるとも強く、生死を超えることを思い知るが、その内容は１６～１７頁の世界文化遺産で紹介するとおりである。

J　幕末、明治維新、そして富国強兵（❹北九州、❸ながさき、❾阿蘇熊本、⑬あまくさ、❻かごしま）

１８５３年、浦賀に黒船が来航。「泰平の眠り覚ます上喜撰たった四杯で夜も眠れず」の騒動となった。これを機にわが国は攘夷、開国、あるいは倒幕といった国論が起こり、激しく揺れ動いた。いわゆる国家体制の一大改変に向けた抗争だが、九州もこれと無縁でなく動乱の渦中に巻き込まれた。

生麦村（横浜港付近）での薩摩藩士によるイギリス人殺傷事件が原因し、鹿児島湾で薩英戦争（１８６３）が起こり、鹿児島の城下町の１割が消失。その一方、攘夷の下、長州藩は馬関（下関の古称で、赤間関を赤馬関と書いたことに由来）海峡を封鎖し、航行中のアメリカ、フランス、オランダ船を砲撃した（下関事件、１８６３）。その報復に、３国と、封鎖で経済損失を受けたイギリスを加える列強４国が、馬関、彦島の両砲台を砲撃、破壊・占拠した（馬関戦争、１８６４）。

実は、それまで幕政改革の薩摩と反幕の長州は敵対関係にあった。しかし、こうした列強との戦いを経て後、坂本龍馬や中岡慎太郎の斡旋もあり薩長連合が成立、明治維新の原動力となった。

倒幕・明治維新に尽した人物として「維新元勲十傑論」（山脇之人）に、薩摩藩士の西郷隆盛、大久保利光、小松帯刀、長州藩士の大村益次郎、木戸孝允、前原一誠、広沢真臣が挙げられている。残りも、江藤新平（佐賀藩）、横井小楠（肥後藩）であり、岩倉具視のみ公家の出である。適正な選び出しかはわからないが今に名を残す人も多い。明治維新が長州と薩摩・九州の人々の働きがあり、１８６７年の大政奉還、王政復古を実現したといってよい。

明治時代に入り、廃藩置県、隠れキリシタンの復活を含め、国、地方を問わず様々な改革・近代化が進んだ。しかし、十傑の中で意

鹿児島暴徒出陣図（西南戦争）（月岡芳年）

見が合わず新政府を離れ、九州を舞台に内乱が続いた。江藤新平の佐賀の乱（１８７４）、西郷隆盛の西南戦争（１８７７）である。その一方で、「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されたように、九州の各地は、殖産興業のもとに産業の近代化が進められ（二章６節）、小倉、佐世保、熊本に軍需産業の展開や軍都が形成され、富国強兵の道をたどった。

Ｋ　戦後の復興から立上った九州

終戦近く、著者が育った糸島の田舎から博多の街の夜空が真っ赤であったことを思い出す。南方からの経路上に九州が位置していたこと、長崎や北九州などの産業の近代化が進んだ都市の存在、軍需産業および石炭産業の発展もあって、先の第二次世界大戦で爆撃を受けるはめとなり、甚大な損害を被った。戦災復興の指定都市（表１０）からそうした都市を拾い出すと、当時の九州各県の主要都市のほとんどが爆撃されたといってよい。

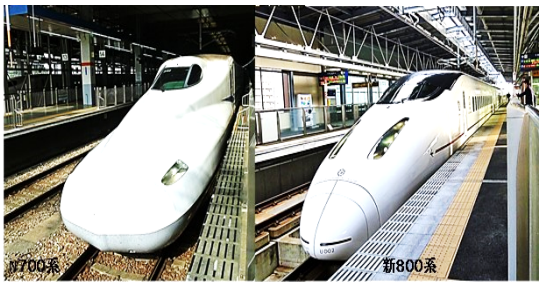
とどのつまりは、広島市に次ぐ長崎市への原爆投下である。一瞬にして市街地の全てが焼失㊴。直接の死者だけでも市人口の３割以上７万４千人に達し、生き残った市民も生涯にわたり原爆症に苦しめられている。長崎市浦上のグランドゼロの地に立ち、二度とこうしたことがないことを祈るのみである。

このように、九州は壊滅的な打撃を受け、戦後はそれからいかに立ち直るかが問われた。しかし、これは必ずしも容易でない。大きな試練を乗り越えての今日である。

九州は火山列島に加え台風の襲来が多い。これらと、先の戦災で荒廃した国土が重なり、西日本大水害、諫早豪雨など、洪水、土砂災害にたびたび見舞われ、その都度多くの犠牲がでた。記録によれば、

㊳ 湾を跨ぎ島と島を結ぶ牛深ハイヤ大橋（天草市）Ｑ-⑬

㊴ 原爆投下で一瞬に焼野原の長崎市街（1945 年）



九州新幹線を走る車両

表 10　戦災復興都市の指定を受けた九州の都市

県	指定を受けた戦災復興都市
福岡	福岡市、門司市、八幡市、大牟田市、久留米市
長崎	長崎市、佐世保市
熊本	熊本市、荒尾市、水俣町、宇土町
大分	大分市
宮崎	宮崎市、延岡市、都城市、高鍋町、油津町
鹿児島	鹿児島市、川内市、串木野町、阿久根町、加治木町
	枕崎町, 山川町, 垂水町, 東市来町*, 西ノ表町, 鹿屋市*

＊ 指定は受けたが実施には至らなかった市町。

西日本大水害（昭和２８年）では１０００人を超える死者・行方不明者とある。大変な被害だ。

一方、それまでの石炭から石油へとエネルギー革命があり、近代化の中で築いた九州の石炭産業や鉄鋼、造船といった重工業は軒並み大きな変革を求められた。

さらに、自由主義と共産主義が対立する冷戦構造の中、東シナ海、対馬海峡、日本海にと大きな壁が立ちはだかり、自由な往来が強く規制された。漁に出れば拿捕され、九州は資本主義圏の隅に追いやられる辛酸をなめ、その都度、本人だけでなく家族の悲しみの涙があった。

このように、戦後も、大規模な自然災害、エネルギー革命による産業構造の転換、厳しい極東の壁に立ちはだかられた。それでも歯を食いしばり、地域の復興と社会基盤整備、経済発展、文明の発展にと必死であった。その結果、九州は国内有数の農産地に蘇るとともに、ＩＣ等の先端産業、造船、鉄鋼、自動車などの生産では全国平均を上回り、地域内総生産はオランダやスイスに肩を並べるまでに成長。ソビエト連邦の崩壊、中国の改革開放で共産圏との対立の壁が除かれ、極東からアジアへのゲートウェイへと再起し、現代の陸海空に及ぶシルクロードの拠点に躍り出たと確信している。

現代の都市を見ると、福岡、北九州、熊本の３市が人口７０万を超す政令市に成長。加えて中核市６、施行時特例市１である。また、遅れていた交通基盤の整備も漸く目途がついたが、主なことは次のとおりである。

○佐賀空港（１９９８）の完成で各県に空港が行き届く。

○九州新幹線（２０１１）が完成。長崎新幹線が工事段階。

○九州自動車道をはじめ九州縦横断、周回の高速道路ができ上がり（２０１６）、今後に西九州自動車道、南九州自動車道などの早期完成が待たれる。

○島原、天草、長島の三県架橋は未だ先のことだが、離島・半島を結ぶ長大橋がおおむね完成。

○国際拠点港湾（北九州港、博多港）、重要港湾の整備が進み、福岡空港の拡張工事が進みつつある。

お蔭で一昔前に比べ、九州へのアクセスと九州内の回遊は大変便利である。各県の空港と新幹線など、高速交通体系の発達で、国内外のどこからでも出入りし回遊できる。大自然のもとに新旧入り混じりつつ復興を遂げた都市や漁村、山村と、その歴史遺産や文化を堪能しながらの風景街道諸ルートを、ガイドブック片手に楽しむことである。

四　九州を周回する十五の風景街道とは

豊かな自然と多彩な文化を訪ね行く

前章までに述べたように、九州７県それぞれに固有の自然がある。地域ごとに異なる古代からの歴史や文明・文化がある。そこで、各ルートの特色を九州風景街道の中で整理したうえで（表１１参照）、ここ

ではその全容がわかる程度に、各々の概略を紹介する。詳しくはルート毎のガイドブックにまとめているので、興味あるルートを選びダウンロードするとよい。

（ルートの基本環境）

a　大まかに内陸型と沿岸型に分かれ、内陸型は❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」、⓫「みどりの里」が九州を横断し、一部を除くと❹「北九おもてなし」も内陸型である。一方、沿岸型は、東九州、九州の北岸、および西岸・南岸で、九州本土を周回する。それらのうち、❸「ながさき」は離島・半島が長大な橋々でつながる点で、⓯「島原半島」は火山を中心にした半島に、⓭「天草」は島々の繋がりにもとづく点で特異である。⓮「薩摩」は船のアクセスが必要な東シナ海の孤島・甑島を含み。❺「むなかた」は直接には内陸型だが、宗像大社を含めれば「薩摩」と同様である。

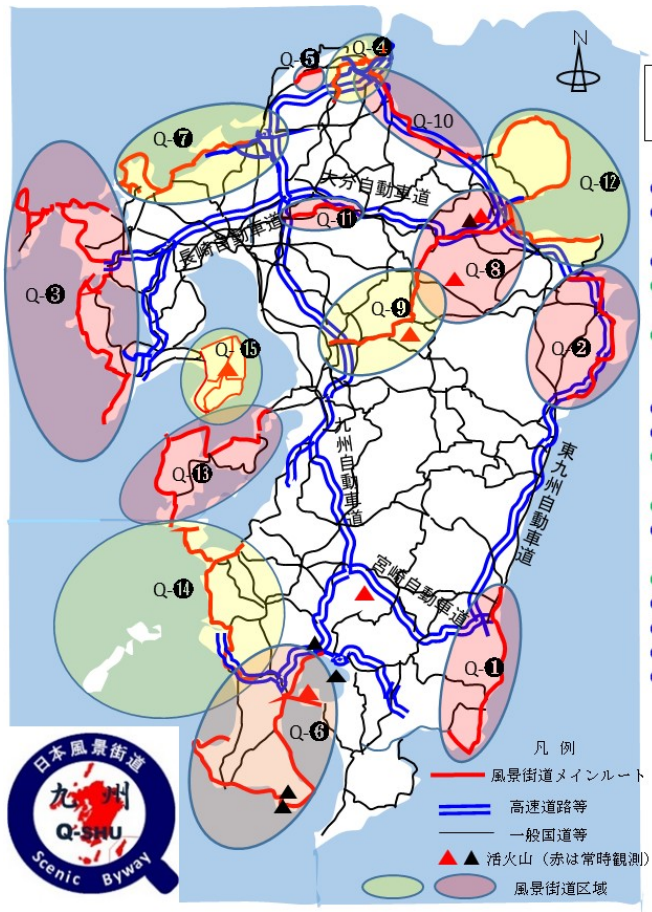


図 15　九州の風景街道 15 ルートとその幹線道路網

表 11 九州風景街道 15 ルートの主な資源

Q	（略称）	ルート延長km	自然資源 山、活火山	海	生物	棚田	温泉	古代遺跡	歴史遺産	文化	城	神社仏閣	教会	歴史街並	石橋	食文化	長大橋	世界遺産等	国立、国定公園
❶	日南海岸	200	鰐塚山地	日南海岸	亜熱帯植物、岬馬	○		○	◎	神話	飫肥城跡、武家屋敷	鵜戸神宮		○		◎			日南海岸国定
❷	日豊海岸	94		リアス式海岸	野路菊					あまべ渡世大学、漁業						◎			日豊海岸国定
❸	ながさき	280	稲佐山、安満岳	九十九島					◎	潜伏キリシタン, 西洋文明	平戸城	亀岡神社、諏訪神社	教会群	◎	◎	◎	◎	世界文化	西海国立、玄界国定
❹	北九もてなし	40	皿倉山、風師山	関門海峡、洞海湾				○	○	長崎街道	小倉城	八坂神社		◎			◎	世界文化	
❺	むなかた	5		（玄界灘）				(○)	○	唐津街道		（宗像大社）		◎				(世界文化)	
❻	かごしま	192	桜島、開聞岳	錦江湾	亜熱帯植物	○	◎	○	◎		鶴丸城	照国神社、枚開神社		◎	◎	◎		世界文化、ジオパーク	霧島錦江湾国立
❼	玄界灘	157	脊振山系, 鏡山	玄界灘, 博多湾, 唐津	虹の松原	◎	○	◎	◎	博多山笠、唐津くんち	福岡、唐津、名古屋城跡	香椎宮, 宮崎宮, 唐津神社		○		○	○	金印、鴻臚館	玄界国定
❽	やまなみ	163	九重、由布岳、九重高	別府湾	サル（高崎山）		◎			野焼き	竹田城跡、城下町							ラムサール	阿蘇くじゅう国立
❾	阿蘇くまもと	76	阿蘇、草千里				◎			野焼き、肥後街道	熊本城	阿蘇神社		○				ジオパーク, 世界農業	阿蘇くじゅう国立
❿	豊の国	77	足立山、耶馬渓	周防灘				○	◎	古代史	小倉城、中津城、府内城	妙見宮、宇佐神宮、薦		○					瀬戸内海国立
⓫	みどりの里	72	耳納連山、水縄断層	（筑後川）	椿、つつじ、植木	◎	○	○	○			高良大社		◎		○			
⓬	別府湾岸	150	高崎山、鶴見岳	別府湾、豊後水道	サル（高崎山）		◎	○	◎	六郷満山	日出、杵築城跡、城下町	富貴寺		◎		◎		ジオパーク, 世界農業	瀬戸内海国立
⓭	あまくさ	142	太郎丸、次郎丸嶽	天草灘	イルカ（島原湾）		◎		◎	天草の乱、ハイヤ祭り	富岡城跡	明徳寺	大江, 崎津		◎	○	◎		雲仙天草国立
⓮	薩摩	152	シラス台地	東シナ海、甑島	ツル（出水）		◎	可愛山陵	◎		ふもと	新田神社		◎	○	◎		ラムサール	甑島国定
⓯	雲仙島原	180	雲仙	橘湾、有明海	イルカ（島原湾）	○	◎		○	潜伏キリシタン	原城跡、島原城			○	○			ジオパーク	雲仙天草国立

b　植生の上では、❶「日南海岸」、❻「かごしま」、⓮「薩摩」の3者は亜熱帯型、❸「ながさき」、⓯「島原半島」、⓭「あまくさ」は温帯、亜熱帯の双方に跨る。他の9ルートは温帯型。うち❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」は高所で、涼やかな夏の草原、冬の雪景色が楽しめる。

c　活火山は、直接には❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」、⓯「雲仙島原」、❻「かごしま」の4ルートに含まれる。⓬「別府湾岸」は「やまなみ」と重複し、活火山と関係がある。これらでは、地球内部の鼓動や息吹を感じながらの風景街道となる。

（地域資源）

d　地域資源の主な内容を表１１に示す。自然や文化、史跡、町並み、食文化などがある。各ルートとも特色ある自然がある中、人の暮らしに基づく歴史、まち並や豊かな食文化が共通に含まれる。その上で、ルートごとに特異な項目として、古代遺跡、歴史遺産、石橋、長大橋の各資源がある。あるいは、世界遺産やジオパーク、ラムサール登録も自慢だが、それらとルートとの関係は表の備考欄に記すとおりである。ルートの特徴を分かり易くイメージする意味で特に重要な地域資源に網掛けするとともに、後述のルート紹介で重要なキーワードを付した。

（アクセス）

e　空港は15ルートの全て、新幹線駅は西九州の諸ルートでアクセス拠点である。ＪＲ在来鉄道・私鉄はいずれのルートも利用可能であるが、港は特定のところに限られる。

f　高速自動車道とは、⑬「あまくさ」、⑮「島原半島」以外はいずれもルート内にＩＣを持つ。また、一部の離島を除いて一般国道と風景地との関係は良く、一部の末端を別にすれば、アクセス、回遊のいずれも支障はない。

紹介に当たり、諸内容が織りなす地域をベースにすれば、結局は**東九州太平洋沿岸**、**玄界灘沿岸**、**西九州サンセットライン**、そして山越えの**九州横断**に４分され、それぞれに３～５ルートの風景街道が含まれる。次節以降では、各々の冒頭に、地域全体の特色、共通する資源、主要なアクセス交通について触れている。これは、個別のルートを巡るだけでなく、ルートを繋ぐことも考えられ、そのことへの配慮である。

同時に、ローカルな内容を含む１５ルートを単に羅列するだけならばルートの選択が煩雑で、巡りゆく意図が必ずしも明らかにならないことへの配慮である。その上で、各ルートの特色や見どころが確実に掴めるようにしている。

なお、ルート紹介を読むにあたり、次の３点に注意が必要である。

A．**地図の記号**は、一般のものを基本にしながらも風景街道固有のものがある。確認のため記せば**表１２**の通りだ。これらを用いて主な風景ポイントの位置を図に示すが、詳細はルート別ガイドブックを参照するとよい。

B．説明文に用いたこれまでの**番号**は、風景街道の登録番号❶～⑮と、一～三章の写真番号①、②・・・である。加えて、ルート地図の風景スポットごとに⑴、⑵・・・を用いる。

C．ルート別の地図に**主な地点間の道路距離**を示すが、これはメインルートに沿ったものである。

表 12　地図の記号一覧

寄り道　九州の石橋群　㊵

様々な建造物を見て、西洋は「石の文化」、わが国は「木の文化」とよくいわれる。しかし九州に限れば両者が混じる。巨石ドルメンや石室古墳が多々あり、元寇防塁の表面は石積み。あるいは高い石垣を積み重ねて防備を固めた城（名護屋城、唐津城、熊本城、岡城など）、石畳の街道、神社の鳥居、長い石段、磨崖仏も。一方、対馬や天草、奄美では、防風のため石垣で囲った家屋や集落がみられる。薩摩藩の麓の武家屋敷は上半生垣・下半石垣であり、各地の棚田は土羽でなく石垣を積み重ねたものが多い。

そして石橋が大変多い。江戸時代、石造アーチ橋の築上技術が３ルートで伝えられた。中国から長崎へ、長崎のオランダ人から、あるいは中国から沖縄経由で鹿児島へ。わが国で最も古いアーチ式石橋は沖縄の長虹提（明の冊封使を迎える海中の突堤）におけるもので、１５世紀中頃の建造だが現存しない。現存する最古は首里城隣接の公園内の天女橋（１５０２年）。以来、九州各地に多くの石橋が架設され、その数は全国の９５％を占める。流失、解体で正確でないが、鹿児島や大分県７００橋以上。熊本県３００～４００、長崎県１００超、福岡県約９０。これらのうち長崎、熊本、鹿児島は江戸時代から明治中頃までが多く、福岡、大分の大半は２０世紀になっての築造である。

石橋は、形やのみ痕、石の積み方などいずれも手作り感があり、石工達の知恵と汗が滲む。これから風景街道でも重要な地域資源である。

中島川（長崎市）に架かる眼鏡橋㊵-１は、沖縄を除けばわが国最古で、興福寺の黙子如定禅師の指導による（１６３４年）。しかし、１９８２年の大水害で一部が崩壊、翌年復元された。熊本県美里町の緑川の霊台橋(国重文)は種山石工・卯助によるもので１８４７年完成。大分県の轟橋（２連アーチ、１９３４年）は出會橋（単一アーチ、１９２５年）に匹敵する大スパン。鹿児島市の西田橋は、玉江、新上、高麗、武之橋と合わせた５橋の一つで、石工棟梁は種山の岩永三五郎の手で甲突川に架設（１８４０年頃）された。つまり、１９９３年の水害で新上、武之橋が流失、残る３橋が石橋記念公園に移設復元されている。

㊵-3 西田橋（鹿児島市石橋記念公園）
（橋長 49.6m、４径間）Q-❻

㊵-2 霊台橋（熊本県下益城郡美里町、緑川）
（橋長 37.5m、径間 27.5m）

㊵-1 眼鏡橋（長崎市、中島川）
（橋長 22m、２径間）　Q-❸

1　日出る温暖の太平洋沿岸を行く東九州

陸域に限ると九州における国道の最長は１０号線である。北九州市小倉北区から鹿児島市まで。総延長（重用延長を含む）は５５０㎞に及ぶ。うち宮崎市までならば３００㎞強で、２ページのロマンチック街道に相当する。特に混雑せず、また休憩しなければ７時間ほどのドライブである。

本区間は古代道路の西海道東路に対応し、江戸時代の中津街道、日向街道、飫肥街道に沿って福岡県、大分県、宮崎県の東九州沿岸域を通過する。このため、中津、宇佐、杵築、日出、佐伯、延岡、日向、高鍋、宮崎、日南などに歴史遺産を多く見ることができる。

他の国県道などで一部を補完してだが、国道１０号線を大なり小なりメインルートにする風景街道は４ルートがある。北から、❿「**豊の国**」、⓬「**別府湾岸**」、❷「**日豊海岸**」および❶「**日南海岸**」。したがって、これら各ルートへのアクセスは、太平洋沿岸の国道１０号線が基本で、これとクロスしながら山裾や海岸沿いに東九州自動車道が整備され、その利用も可能である。一方、国道１０号線とほぼ並行し海岸沿いをＪＲ九州日豊本線が走り、その主要駅はアクセス拠点として用いることができる。

海路については、神武天皇が美々津（日向市）から船に乗り東遷した伝説があるように、古代から東九州と関西地方との間が海路で結ばれていた。参勤交代では、島津、豊後の大名が細島（日向市）から大阪に渡り、上陸し東海道を江戸へと歩いた。豊後鶴崎（大分市）は肥後藩の飛び地で、肥後街道の起終点である。熊本藩主はそこから船で大阪に向かった。このように歴史から見ても、海を介する東九州沿岸域と関西とのつながりが強く、現在も北九州、別府、大分、宮崎、志布志港発着のフェ

リーがある。また、空港は北九州、大分、宮崎の３空港が活用できる。

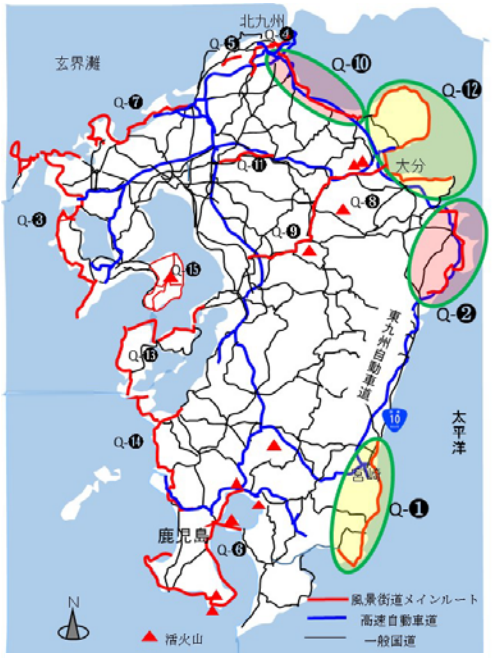
一方、九州内そのものに目をむけると、九州山地を挟み東九州と西九州に分かれ、その中で、西九州に比し、東九州は必ずしも経済発展、都市展開が進んでいるとはいえない。確かに北九州、大分臨海、延岡・日向の各工業地帯や宮崎テクノポリスといった工業地域が存在する。しかし、全体でみれば九州山地に沿った中山間地や沿岸地域に自然がよく残り、平野部では農業や畜産業が盛んで、我が国における食料基地をなす。海に目を向けると、大分県姫島の車えび、日出の城下かれい、佐賀の関のアジ・サバ、日豊海岸や宮崎のイセエビや岩ガキ、日南のマグロ、カツオと、その地ならの漁業が活発である。

気候は、おおむね北から南へ温帯から亜熱帯へと変化。また、台風のルートであるものの、太平洋に面することから冬でも暖かい。規模を問わなければ、背後地を含め、国東（くにさき）・別府、臼杵・佐伯、宮崎、日南などに温泉やリゾート地が多く、いずれのルートも、癒しのドライブが可能である。

Q-❶　日南海岸きらめきライン（日南海岸）―神話、鬼の洗濯板、亜熱帯―

宮崎市から北郷、日南、南郷を経て串間市に至る太平洋に面した地域が風景街道「日南海岸」で、主な資源は次の３点である。一つは、何といっても日南海岸に展開する**南国太陽の下での大自然**である。暖かく青い海の中で、手つかずの自然が残る青島や堀切峠に魅せられ、日南海岸の鬼の洗濯板と呼ばれる砂層、粘土層が重なり波状に押し寄せる異様な光景⑥に驚かされる。それを南下すれば、一転して鵜戸神宮以南の険しい断崖があり、そこに亜熱帯植物が群生⑫している。あるいは、百匹目の猿現象（サルの芋あらい）で名を馳せた幸島（こうじま）、江戸時代以来の準野生馬（御崎馬）を放牧した都井岬がある。

二つ目は**神話伝説**だ。１３００年前に書かれた我が国最古の歴史書・古事記（７１２年）や日本書紀（７２０年）に、天地創成と高天原の神々の出現、そして地上への天孫降臨、初代から３３代天皇に至る大和政権成立期のことが述べられている。むろんこれらの多くは伝承で、真偽は分からない。またこうした神話を伝える箇所は全国に跨る。その中で、本風景街道は、三貴神といわれる神々の誕生か



東九州沿岸域の風景街道４ルート

おばちゃんバイキングQ-❷（佐伯市蒲江）

新婚夫婦、シャンシャ馬で鵜戸さん参りQ-❶（日南市）

薦神社の神門（国重文）Q-⓬（中津市）

Q-❶　日南きらめきライン

青島（宮崎市）

日南海岸（日南市）

鵜戸神宮（日南市）

飫肥城（日南市）

て天照大神などの三貴神が生まれたとされる。そして、天照大神の孫のニニギノミコトが県境の高千穂の峰に降り立ち（天孫降臨）、コノサクヤビメとの間に海幸彦、ホスセリノミコト、山幸彦の三神が生まれ、天と地の話が混じりつつ、青島や鵜戸を舞台にした海幸彦・山幸彦物語へとつながる。さらに、山幸彦と海神の娘との間に、鵜戸でウガヤフキアヘズノミコトが生まれ、そのミコトの４番目の子がワカミケヌノミコトで後の神武天皇である。鵜戸神宮はウガヤフキアヘズノミコトが祀られ、ワカミケヌノミコトは駒宮神社の地で成長。そして、東に都を求めて日向を出発し（東征）、奈良県の畝山の麓で初代の天皇に即位したとされている。

現実に戻れば、地域一帯は鎌倉時代からの日向国で、３つ目はそのことである。戦国時代の一時期、島津に負けて追われたものの、それ以外は明治になるまで伊東一族が飫肥藩を治めた。その面影は飫肥城址およびその城下町（日南市）にあり、また武家屋敷も残っている。山が多いことから、飫肥藩は林業を奨励し、１６８６年には堀川運河が整備され、そこから全国に杉材（飫肥杉）が出荷された。現在、運河の役割は終わり、河岸沿いに遊歩道が整備され、堀川橋（石橋、登録文化財）や赤レンガ館など、往時の繁栄を伝える建造物を残されている。

Q-❷　日豊海岸シーニック・バイウェイ（日豊海岸）―リアス式海岸、あまべ渡世大学、伊勢海老街道―

大分市の佐賀の関から延岡市までの沿岸域は、九州にあって最も典型的なリアス式海岸が見られ珍しい。特に蒲江（佐伯市）と北浦（延岡市）の区間は、文字通り津々浦々である。湾奥の砂浜（下阿蘇ビーチなど）と突端に突き出る岬が互に出入りし、それらで挟まれるように漁港、漁村がある。漁業や水産業を営む家々の軒先から筏が波静かな入り江に飛び出す光景は、天草・崎津のテラス式の足場「カケ」に匹敵する本格的水面利用であり、他所であまり見られない珍しい光景である。

実は、本地域は東九州を縦貫する国道１０号や３２８号から外れていた。このことから、最近まで交通不便な地であった。それが、東九州自動車道が漸くに開通し、アクセスが大いに改善された。本自動車道と国道３８８号、県道１２２号をメインルートに、海岸線をふちどるようにたどれば、さまざまな海岸風景が目に飛び込む。快適なドライブが楽しめ、海のレジャーが満喫でき、まさに海辺をたどるシーニック・バイウェイである。

静かな入り江に突き出た水産業用筏（佐伯市蒲江）

下阿蘇ビーチ（延岡市）

たかひら展望所からの眺望（佐伯市蒲江）

波当津海岸（佐伯市）

Q-❷　日豊海岸シーニック・バイウェイ

本風景街道の半島の全ては小山が突き出ている。このため、屋根上ならぬ尾根筋の高台や岬から両サイドにひろがる津々浦々の眺めが素晴らしく、随所に設けられた岬の展望所に寄り道するドライブをお勧めする。

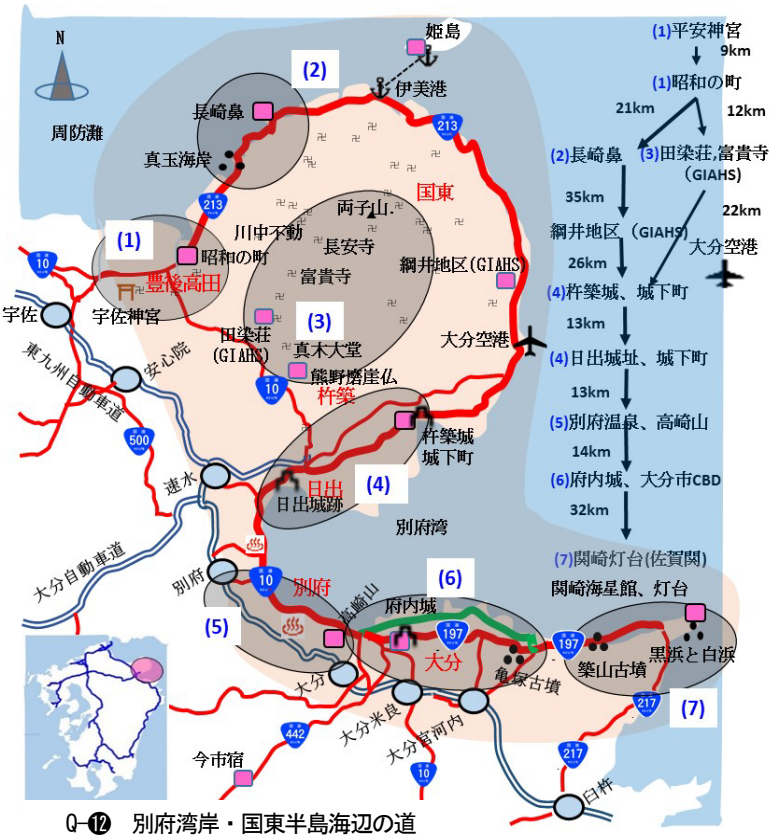
一方、旅を彩るものに豊富な海の幸（アワビ、緋扇貝、ウニ、ヒラメ、モイカ、岩ガキなど）がある。中でも伊勢海老は、解禁シーズンになると伊勢えび海道と称し、大々的な食の祭典が繰り広げられている。

いま一つ、本風景街道ならではのことがある。それは、蒲江地域の沿岸域をキャンパスに見たて、漁師を講師に、「あまべ渡世大学」と呼ぶ体験学習が開かれていることである。渡世（トセイ）とは漁師言葉で、「生き方、生業」を意味する。世渡りが上手の意味で「渡世にたけている」とも。研修所や海辺、海に浮かべた筏などを教室にして、「磯遊び体験」や「シーサイクル体験」、さらに「真珠の核入れ体験」、「ウニ割りや魚のさばき方教室」など、実に様々な内容の教室が開かれている。

Q-⓬　別府湾岸・国東半島海べの道（別府湾岸）－六郷満山、温泉、新産都

国東（くにさき）半島と別府湾の沿岸地域が「別府湾岸」風景街道のエリアである。国道２１３、１０、１９７、２１７号および大分市内の臨海産業道路がメインルートだが、大まかに大分、別府、国東半島の３ブロックに分けられ、各々で全く異なる風景を有している。

大分ブロックは大友宗麟と豊後府内城の城下町が主な景観資源である。大友宗麟（義鎮）は戦国大名として有名だが、豊後府内に大友氏館（国指定史跡。大分市顕徳町）を置き、海外貿易で富をなしながら、豊前、肥前、筑後など九州北部６か国の守護職となり、九州探題となった。その一方で、キリシタン大名（次頁写真）としても知られる。宣教師フランシスコ・ザビエルを招き、日本で初めての西洋式外科手術に関わり、診療所を作る、天正遣欧少年使節を送るなど、南蛮文化の花を咲かせた。



Q-⓬　別府湾岸・国東半島海辺の道

坂道の街（杵築市）

大分市の発展は、太平洋戦争後、沿岸部を埋め立て、新産業都市を建設したことが契機である。新産都の優等生として開発が進み、現代の礎が築かれた。臨海部を巡れば、製鉄所、化学工場などが見学でき、各工場に問い合わせるとよい。まちの南端は、関アジ・関サバで有名な佐賀の関漁港で、先端に天文台と展望の複合施設「関崎海星館」や灯台があり、３６０度の眺めの中に対岸の四国が望める。

別府ブロックは、８世紀後半の「豊後国風土記」に、鉄輪（かんなわ）・亀川温泉の記述があ

大分市街の中心にある府内城は、宗麟時代には荷揚げ場であったが、１５９７年、福原直高の入封で築城が始まり、当初は荷揚城と呼ばれた。しかし、関ヶ原の戦いで西軍方について改易となり、完成したのは１６０７年の竹中重利（府内藩初代藩主）の時代である。梯郭式平城だが、１７４３年の大火で天守閣が焼け、明治になり破棄され、１９４５年の大分大空襲で多くの建物が消失した。

り、古くからの温泉地であるが、特に大正から昭和初期にかけ油屋熊八が観光開発に力を入れた。お蔭で現在は、別府八湯の温泉巡りができ、温泉数（約２３００か所）、湧出量とも、九州はいうに及ばずわが国最大である。また見どころも多いが、泉源の噴出口を主にした地獄めぐりや、高崎山自然動物園のサル見物も集団や家族なす秩序を見ることをみることができ面白い。

そして、拳のようにつき出た国東半島だが、前2者とがらりと様子が異なる。多数の寺と宇佐神宮とが結びついた神仏集合の山岳宗教文化「六郷満山」が伝わる信仰の地である。半島中央の両子山（ふたごさん）を頂点に、お椀を伏せた地形に放射状の谷が発達。その中に多くの寺院や磨崖仏が点在し、山道を行く寺院巡りは修業であり、心身を鍛える聖地である。

富貴寺（国宝）（豊後高田市 ）

岩倉社のケベス祭り（国東市）

石仏の郷・国東半島を巡る

昭和の街（豊後高田市）

大分駅前広場の大友宗麟像

坊主地獄（別府市）

一方、国東半島の沿岸部を周回すれば、別府湾城下海岸でとれる美味なマコカレイの「城下（しろした）かれい」で有名な日出城址、江戸期の坂道の町・杵築城とその城下町を訪れることができる。あるいは、芸術家が創作活動に移り住む現代アートのまち・国東市が展開し、ひまわり咲く長崎鼻、昭和時代のレトロをモチーフにした昭和の町（豊後高田市）などとユニークな取り組みがあり、風景スポットである。

国東半島にはいま一つ自慢があり、それは世界農業遺産である。昔ながらの田園風景が広がる田染荘（たしぶのしょう）㉑（豊後高田市）や、溜池の連携で用水が各水田に順に供給される綱井（つない）地区（国東市国東町）がみどころであり、厳しい自然環境を乗り越えた人々の知恵と工夫があり、今に受け継がれている。

Q-⑩ 豊の国歴史ロマン街道（豊の国）―妙見宮、古代国、中津街道、宇佐神宮―

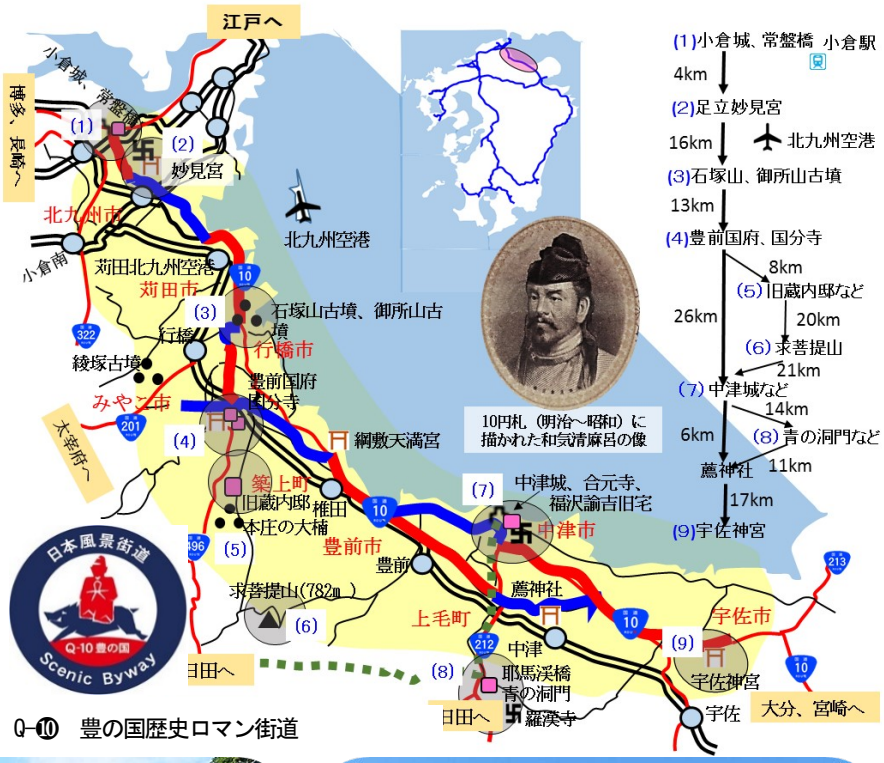
北九州市都心部の市役所横を紫川が流れ、その河口に常盤橋が架かる。普段は街なかを往来する橋として使われているが、それが中津街道の起点である。そこから、苅田、みやこ、行橋、築上、豊前、上毛（こうげ）、吉富の各市町を通過し、さらに県境を越えると、大分県の中津市、宇佐市に至る。「豊の国歴史ロマン街道」は、この旧中津街道ないし、それに並行する国道１０号に沿っている。

本地域は、全域が古代令制国の豊前国で、周防灘に面している。このことから、東九州はもとより、遠朝廷（とおのみかど）「太宰府」、郡代支配の拠点「日田代官所」への山道があり、他方で渡航地大里から中国路の下関（赤間関）へと繋がる交通の要衝であった。それらをもとにすれば古代に遡る長い歴史とその遺跡が随処に点在する。

古墳時代には、前方後円墳の石塚山古墳（苅田）や横穴式石室を持つ綾塚古墳（みやこ）がある。ともに国史跡だが、そのうち石塚古墳は、３、４世紀のものと推定され、底長１２０ｍと巨大で、神獣鏡や銅鏡が発掘された。

時代を下れば、みやこ市に豊前国の国衙跡がある。豊前国分寺（僧寺、尼寺）と物社八幡宮とともに、国府三点セットのいずれの跡も残り、貴重である。

足立山妙見宮（北九州市小倉北区）



Q-⑩　豊の国歴史ロマン街道

豊前市から宇佐神宮に参拝するための中津街道の区間は勅使街道とも呼ばれ、神宮入口にかかる呉橋に向かい直線なす門前町の姿にその面影を見ることができる。その先は全国4万社におよぶ八幡宮の総本山・宇佐神宮(宇佐市)であり、また中津市には宇佐神宮の祖宮といわれる薦（こも）神社がある。

宇佐神宮では、8世紀の皇位継承をめぐり、「道鏡が皇位を継げば天下は太平になる」の託宣があったとされるが、その後の紛糾から和気清麻呂を参宮させると、「必ず皇緒を立てよ」と逆の神託をえた神社である。そして北九州市に戻れば、道鏡事件に関わり、後に豊前国の国司を務めた和気清麻呂創始の足立山妙見宮(2)があり、その横に道教に足を傷つけられたものの、イノシシに助けられた清麻呂の像が建立されている。

荘園時代、豊前国は大内氏が守護職であった。しかし、戦国時代に入ると、大友、毛利、龍造寺が入り乱れて争った。あるいは、島津や豊臣秀吉に攻められ、九州の関ケ原といわれる中津にいた黒田官兵衛と周辺国人領主との戦いがあった。それらの遺跡・遺産が馬ヶ岳城址(行橋)(3)や赤壁寺とも呼ばれる合元寺、中津城（中津）(7)などである。

江戸時代に入ると、小倉藩は細川氏から小笠原氏に移り、その中で中津藩は独立したかと思うと、小倉藩の支城になるなどした。そして1717年、譜代大名奥平氏が入封。以降明治まで続き、その繁栄に努めた。また、中津出身者に、杉田玄白の蘭学事始めに記されるように解体新書の真の翻訳者といわれる前沢良沢（中津藩の藩医）がおり、慶応義塾創始者で一万円札に描かれた福沢諭吉がいる。

福沢諭吉旧宅（中津市）

中津城（中津市）

メタセコイアの並木道（築上町）

2　邪馬台国への道、玄界灘沿岸を進む九州北部

九州北部は、二章1節に述べるように、地質は比較的古く、沿岸域の背後に筑紫山脈が連なり、様々な川が流れ出ている。これらから、多くの沿岸部できれいな弧を描く白砂青松が発達。同時に、ところどころ玄界灘の荒波で削りだされた奇岩や断崖があり、沢山の小島や岩礁が見られる。

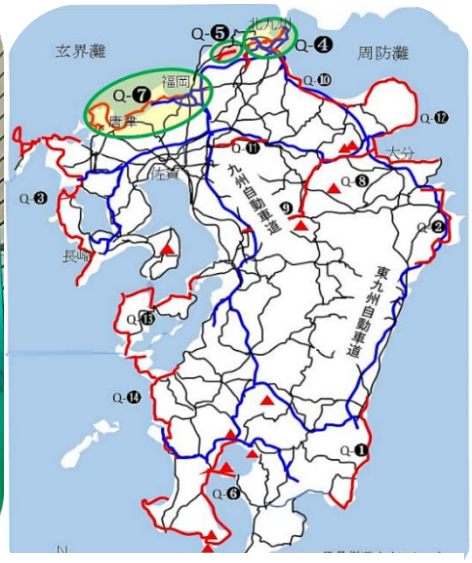
これに輪をかけたのが、九州北部が我が国の文明・文化の発達に大きな役割を果たしたことである。神話の世界に始まる信仰と、古代からの国際交流の遺跡や史跡の宝庫であり、その一方、玄海灘、対馬海峡を介し東アジアに向き合い、時に国際紛争に巻き込まれる不運にも遭遇した。

つまり、魏志倭人伝の邪馬台国への道、シルクロードのわが国へのゲートウェイ、海人族である宗像一族の航海があり、遣隋・遣唐使の派遣、朝鮮通信使の往来が九州北部を経由した。他方、白村江の戦いへの派兵、防人の配備、元寇・倭寇の戦いが繰り広げられ、朝鮮や満州への進出、日清・日露戦争への出兵もあった。先の第2次世界大戦では、ことごとく諸都市が爆撃を受け、悲惨極まりない戦災を被った。

地域内に目を向けると、早い段階から沿岸域に沿うように道路が発達、活発な相互交流が図られた。太宰府への古代官道、壱岐、対馬への海の道がある。豊臣秀吉は、朝鮮出兵のために名護屋城への太閤道を切り開いた。そして、江戸時代、長崎、唐津街道などの参勤交代の道の発達と、内陸への脇街道の発達がある。

このように、北部九州は、アジア大陸との国際交流、古代からの歴史を刻む街道、地形・地質が織りなす主要な景勝路があり、そこに3つの風景街道、❹「北九おもてなし」、❺「むなかた」、❼「玄界灘」が組み立てられている。

これらの風景街道は、国道3号、202号、204号をメインルートにして繋がる。したがって、個



玄界灘に面する風景街道３ルート

博多祇園山笠飾り山（櫛田神社, 福岡市）Q-❼

別に巡ることも、繋ぐことも自在である。そのことを踏まえ交通に関し補足すれば、本地域には、国内外に向けた福岡、北九州の２空港、北九州、博多の２つの国際拠点港湾があり、山陽、九州新幹線による小倉駅、博多駅をアクセス拠点に利用できる。九州自動車道、北九州・福岡の都市高速道、西九州自動車道が互いにつながり、在来鉄道の鹿児島本線、日豊本線がある。他に、北九州市のモノレール、筑豊電鉄、福岡市の地下鉄とＪＲ筑肥線、香椎線、西鉄大牟田線、貝塚線なども。車は当然として、バス路線を含む便利な公共交通網があり、どの地区も多様な手段でアクセスでき、都市型の風景街道である。

Q-❹　北九州おもてなしの〝ゆっくりかいどう〟（北九おもてなし）―長崎・唐津街道、世界遺産の官営八幡製鉄所、門司港レトロ

関門海峡に面する門司区の大里と遠賀川沿いの宿場町・木屋瀬宿（八幡西区）の間は北九州市域の門司往還および長崎街道沿線である。門司、小倉北、八幡東、八幡西を通過するが、この間を巡るテーマは「近世、近代の歴史遺産、産業遺産」となる。

九州最北の宿場町・大里を起点に海岸線に沿いながら国道１９３号を下ればＪＲ小倉駅。そして、その直ぐ先の紫川に常盤橋が架かる。最初は木橋（１６２４年）で、１８８９年に鉄橋となり、１９９５年に観光に配慮し、再び木の橋に作り替えられた。

この橋は、武士の街・西曲輪と町人の街・東曲輪を結ぶが、長崎街道（唐津街道と重複）、中津街道、秋月街道、門司往還といった４本または５本の街道が交わる。このため、九州北部諸大名の参勤交代の道として賑わい、シーボルトが江戸への道として通い、伊能忠敬が九州測量の出発点とした。

紫川を渡ると大型複合商業施設リバーウォークがあり、本風景街道の目玉の小倉城に至る。この城は、当初細川氏、後に小笠原氏の居城となった。天守閣の最上階は雨よけのため下層よりも張り出した珍しい構造で、唐造りと呼ばれる。城の周りは市庁舎（屋上展望室がある）などが取り囲み、古い城郭と現代の都市施設のコンビが独特の雰囲気を醸し出している。

小倉城から街中を抜け、国道３号線を西に進むと、洞海湾に沿うように巨大な工場が並んでいる。その一角に世界遺産の「官営八幡製鉄所旧本事務所」や日本の近代化遺産である東田第１高炉（１９０１年）がある。また、これらの背後にある皿倉山の展望所に登れば、前ページの写真に示すように、百万都市・北九州市の心臓部である小倉、八幡、戸畑、若松の工場群が一望できる。かつて虹色の煙を吐いた重工業地帯は、いまやクリーンな環境都市である。

洞海湾沿いの副都心・ＪＲ黒崎駅地区から国道２００号を進むと、すぐのところに昔の長崎街道である曲里の松並木道がある。現在も約６００ｍにわたり並木道が残り、さらに南下すれば水運が活発であった遠賀川のほとりとなり、昔日の面影がいまも残る木屋瀬宿に至る。

木屋瀬は筑前六宿の一つで、長崎街道と唐津街道が二手に分かれる分岐点であった。このことから、往来がはげしく大変栄えた。御茶屋（本陣）、町茶屋（脇本陣）の跡地にある「長崎街道木屋瀬宿記念館」を拠点に街歩きを楽しむことができる。郡家跡、村庄屋、宿庄屋（旅籠の統括）、船庄屋（川船の管理）の３庄屋跡、頼山陽、伊能忠敬が寄宿した旧高崎家などがある。路地は治安を考えての袋小路があり、宿場町の風情がよく保存されている。

なお、長崎街道木屋瀬宿記念館に、木屋瀬宿に関する資料に加え、ＵＮＥＳＣＯ世界記憶遺産に登録（２０１１年）された山本作兵衛が描く筑豊の炭鉱および遠賀川の川船の一部が展示されている。かつての石炭で賑わった様子が理解でき、大変貴重である。

一方、大里から、小倉とは反対の北に向かうと、九州鉄道の起点門司港駅に至り、その駅舎は国の重要文化財である。また、この一帯は明治・大正の建物（旧門司三井倶楽部（国重文）など）を集めたレトロ地区として整備されている。

近くには、九州と本州を結ぶ関門橋（吊り橋、橋長１０６８ｍ、１９７３）が架かり、

皿倉山から北九州市の工業地帯、響灘方面を望む

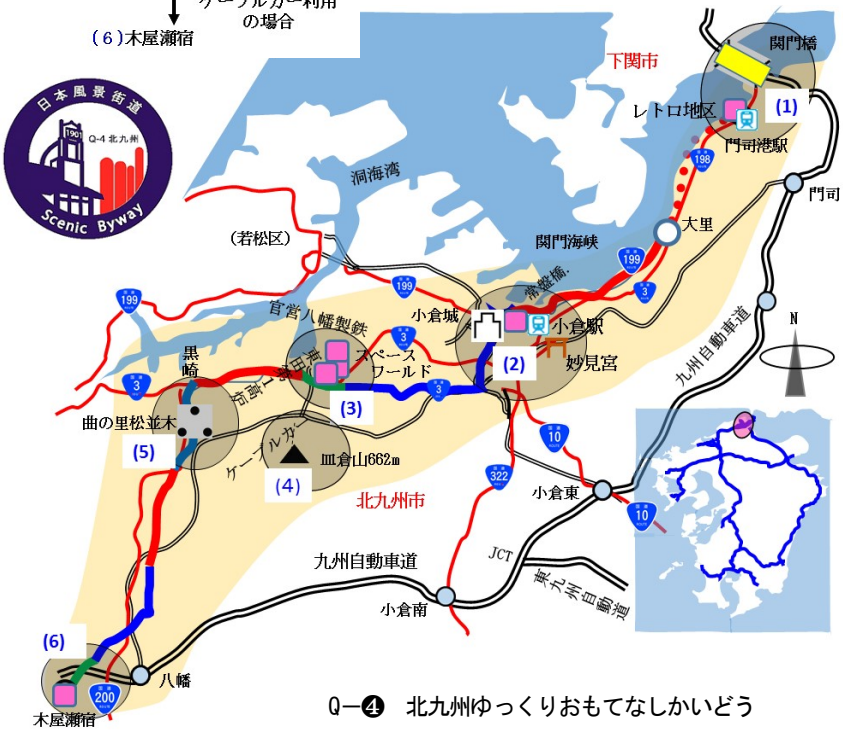
九州鉄道の起点・門司港駅。1891 年開設。（1914 年、国重要文化財。北九州市門司区）

5 街道の起点となる常盤橋（北九州市小倉北区）

関門海峡を跨ぐ関門橋

木屋瀬宿（北九州市八幡西区）

（1）関門橋、門司港レトロ地区
15km ↓ 8km（大里）7km
（2）小倉城、妙見宮地区
11km ↓
（3）世界遺産・八幡製鉄所地区
5km ↓ 8km（山麓駅2km）
（4）皿倉山（展望台）
9km（山麓駅4km）
（5）黒崎・曲り里松並木
13km ↓ （ ）内は皿倉山ケーブルカー利用の場合
（6）木屋瀬宿



Q―❹　北九州ゆっくりおもてなしかいどう

長崎街道の曲里の松並木（八幡東区、北九州市）Q―❹

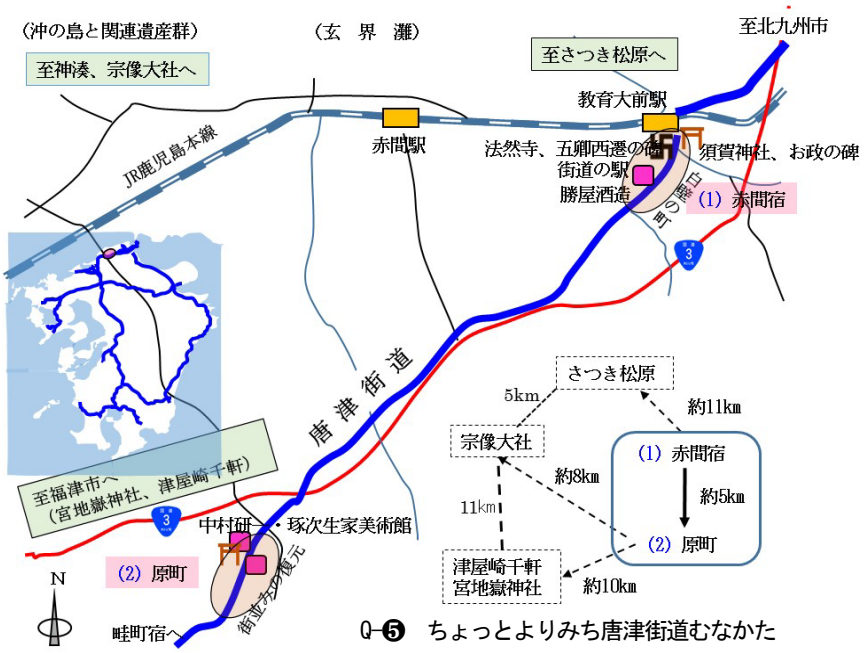
3ルートのトンネル（新幹線、在来鉄道、国道）とともに本州と九州を固く結びつけている。前述のように、江戸時代、交通の要衝は幾本もの街道が集積する常盤橋であった。これに対し、大里と下関間は交通の難所だったが、今では関門こそが、道路、鉄道、新幹線、航路と幾通りもの交通路が集結する要衝で、国土構造の要をなす。国道トンネルに敷設された歩道で、海底を渡り、そのことを実感するとよい。

Q―❺　ちょっとよりみち唐津街道むなかた（むなかた）―歴史の証人の赤間宿と原町、宗像大社―

唐津街道のうち、宗像市で、隣り合う赤間宿と原町の両区間が「むなかた」風景街道の範囲だが、その内容は、国道3号線の旧道の旧道に沿った古い街の再生がテーマである。しかしながら、赤間宿と原町は近接してはいるが、街の再生の背景や内容が異なり、それぞれに並べて見比べることもおもしろく、各々の工夫を知ることができる。

まずは赤間宿についてである。赤間は、歴史的にいえば、唐津街道の本区間を豊臣秀吉が朝鮮出兵に際し名護屋城へと往来し、また福岡藩や唐津藩などの参勤交代の道である。あるいは、尊皇攘夷派の三条実美ら五卿が幕府の手から逃れるために大宰府へと向かう途中で、勤王討幕の志士・早川勇の世話で赤間宿に逗留し、西郷隆盛や高杉晋作らと語り合ったところである。これらは、赤間宿が、木屋瀬と芦屋の両方面への分岐点に位置すること、木屋瀬宿を前にして遠賀川や犬鳴川がたちはだかり、それを渡る必要があったことなどによると考える。

ところが、１８９０年の鉄道鹿児島本線の開業でまちの機能が次第に現赤間駅地区へ移り、また



Q-❺　ちょっとよりみち唐津街道むなかた

白壁の町・赤間宿（宗像市）

赤間宿祭り（宗像市）

街並みの環境整備が進む原町（宗像市）

赤間宿の須賀神社とその前の辻井戸

第２次世界大戦後の経済成長期に、家屋の密集をさけての国道３号のバイパス整備や周辺の大規模な団地開発の進展から取り残された。しかし幸いにも、１９６６年、赤間宿に隣接する地区に福岡市から教育大学の転入があり、２００１年には車で１０分ほどはなれた位置に看護大学が開設された。これらから、ある意味では古い街並みを残しつつも運よく学生の街としての機能が加わり、古い街と若者の街がコラボしての街の再生が図られている。

学生および単身者賃貸マンションに囲まれる一方、創業２００年以上といわれる酒蔵「勝屋酒造」や古くからの神社、寺が残され、兜づくりの屋根をもつ家屋や、旅人や馬の飲み水のための辻井戸、白壁の建物などが風情ある町並みを生かす工夫である。２月には、勝屋酒造の蔵開きに合わせた「赤間宿まつり」（仮装行列など）が開かれ、在学中の思い出にと学生の活発な参加がある。

赤間宿から南西へ進むと、次の宿場町（畦町）への途次に原町がある。ここも大正から昭和にかけての建物が一部残るものの、平行する国道３号沿いの大規模商業施設の進出で旧道となり、まちの衰退が懸念された。このため、旧来の街道をどのように保全し、活力を維持するかが課題となり、その策にと田園型のまちづくりが進められた。すなわち、歴史的蓄積が必ずしも十分でなく、赤間宿のように新たな機能の導入が期待されない中、町をどう活性化させ、取り戻すか課題であった。そのため、歴史を生かすまちの環境整備が取り上げられ、漆喰と杉板張りによる白黒ツートンの建物の修景と町並みの復活があり、人のぬくもりがする街道の整備があった。

以上の内容は、現段階では確かに小規模で、まち歩きに類する。しかし、近くにビッグな地域資源がある。それが世界文化遺産の宗像・沖ノ島と関連遺産群（新原・奴山古墳）（宗像市および福津市）で、二章六節(1)に述べるとおりであり、両者の回遊が可能である。

Q-❼　玄海灘風景街道（玄界灘）―古代遺跡、遣唐使、唐津街道、玄界灘―

三章２節に述べたように、中国の歴史書「魏志倭人伝」に、玄界灘に面した末盧国、伊都国、奴国の記述がある。一言でいえば、これら３つの「倭」の古代クニの範囲が玄界灘風景街道エリアである。自然豊かな中で、古代から現代に至る歴史豊かな唐津・玄海、糸島、福岡地域が該当する。

本地域の特色の１つは、荒々しい玄界灘に面するとともに、古い地層からなることである。このため、海岸線に沿い多くの奇岩・奇勝が発達し、他方で弧を描く白砂青松の浜に遭遇し、大変風光明美な光景を楽しむことができる。

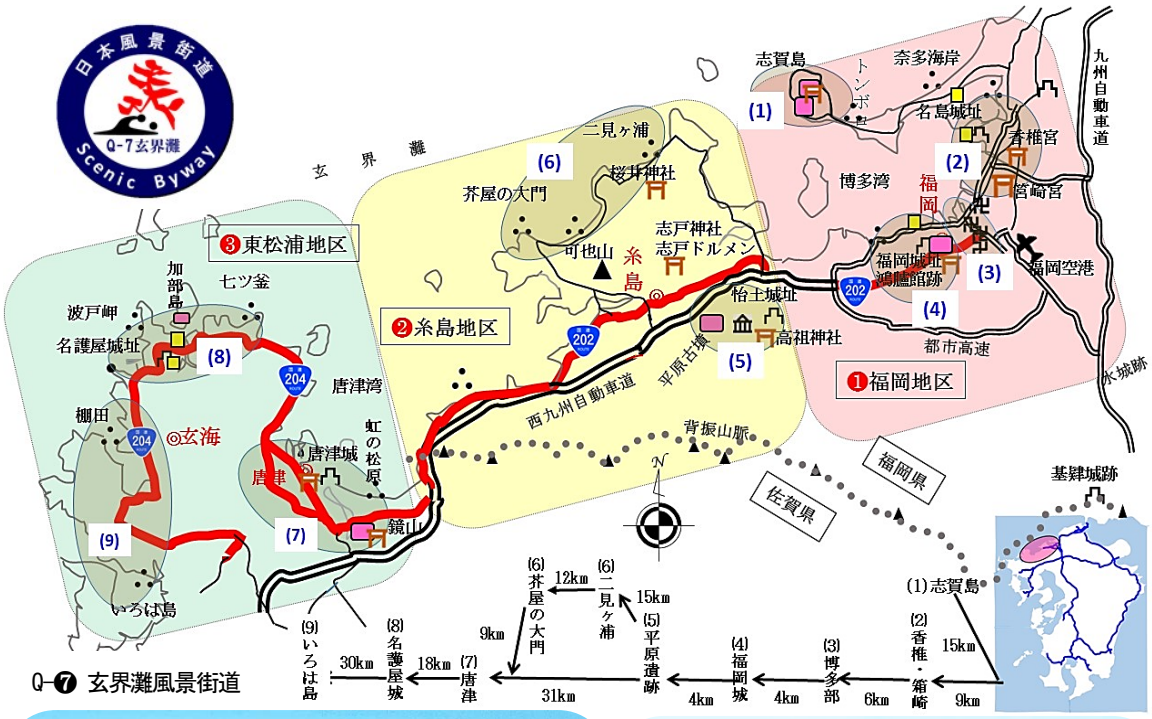
２つめは、古代からのアジア大陸へのゲートウェイであり、遣隋使、遣唐使が往来した海路に沿っていることである。そのお蔭で、工芸、芸術、宗教、学問、食など様々な文明・文化をいち早く受け入れ、発展させることができた。一方で、防衛にあたった防人の詩が残る万葉の世界がある。元寇に遭遇し至る所に防塁㉜が築かれ、秀吉の朝鮮出兵の前進基地になったことも。

３つめは、地域内にあって、唐津街道が貫通し、半島や内陸部への寄り道、脇道がよく発達していることである。暮らしや交易だけでなく、江戸時代における参勤交代の道、長崎警護の

道に利用され、宿場町があり、その遺跡や面影がいまだに残されている。

ビッグな資源を持つ玄界灘風景街道は、これらを主にした都市とその近郊の農村巡りが特徴だが、図のように、具体的には3地区に大別できる。

最初の福岡地区は、九州最大の都市・福岡市の範囲である。都心部は、天神から博多駅一帯の区域で、それだけでも街歩きを含め多彩な内容を持つ。その中で全国から見ても重要と評価できるスポットを挙



志賀島から玄界灘、西戸崎、博多湾方面を望む（福岡市）

鏡山から虹ノ松原、唐津城、唐津湾を望む（唐津市）

糸島半島の二見ヶ浦　（糸島市）

唐津城（唐津市）

前原宿の面影が残る糸島市前原の商店街（糸島市）

これは、呼子港から17分のところにあり、百済の武寧王の生誕が伝えられる島である。2001年に、

その一方で、海岸線を辿ると、見ごたえある景勝地、二見ヶ浦、芥屋の大門④（玄武岩の海蝕洞）があり、弧を描く砂浜は若者たちで賑わうサーフィンのメッカである。

その先が東松浦地区。地区に入るところで、標高264mの鏡山がある。それを車で登れば、江戸時代に植えられた虹の松原、譜代大名の唐津城、そして唐津湾に浮かぶ島々が一望できる。さらに国道204号を呼子へ向かえば、海蝕洞の七ツ釜、日本の里百選の加部島、朝鮮出兵の前進基地・名護屋城㉝（国特別史跡）、玄界灘に突き出た風光明媚な波戸岬がある。

写真㉝で、名護屋城の先に加唐島が映ることに気付くだろう。

わが国最初の本格的な禅寺・聖福寺（福岡市）

メインストリート・大博通り（福岡市）

れば、陸繋島で、金印㉘発見の地である志賀島、神功皇后、足利尊氏、豊臣秀吉などと共に、我が国の歴史の重要な転換の場面にしばしば登場する香椎宮、宮崎宮㉖を核にする香椎・箱崎地区、中世の商人町とわが国最初の本格的禅寺といわれる聖福寺や祇園山笠祭りに関わる承天寺、櫛田神社などの寺町と商人町の博多部、そしてビッグな遺跡の鴻臚館・福岡城の跡がさん然と並ぶ。

2つ目は福岡の西隣の糸島地区で、古代遺跡の宝庫である。怡土地区には、国内最大といわれる内行花文鏡（直径46・5㎝）などの出土から卑弥呼の墓ではと騒がれた伊都国女王の墓・平原遺跡㉙をはじめ、王墓が集まる曽根遺跡群を訪ねることができる。

平成天皇が誕生日を前にしたインタビューで4～5世紀の倭国と朝鮮半島の百済、新羅の交流に触れて紹介され注目をあびたが、寄り道すれば古代からの日韓の繋がりを深く知る手掛かりになるだろう。

さらに、名護屋城から伊万里方面に進めば、玄海町（原発4基のうち2基が活動再開）と、唐津市肥前町がある。一帯は丘陵斜面で、海に滑り落ちる思いの棚田風景に遭遇する。伊万里湾には「いろは島」とよぶ多数の小島が浮かぶ光景がみられ、大地の子らの水遊びにさえ見えてほほえましい。

3　サンセットの半島・離島をドライブする西九州

通常、西九州といえば、国道3号または九州新幹線沿いに福岡から熊本、鹿児島に至る地域のことである。ところが、そのさらに西に九州の南北を貫く最西端のルートがある。それが、大村湾、有明海、八代海、錦江湾を懐にして、平戸から長崎、天草、薩摩の半島・離島が南北に繋がる西海岸である。そこに❸「ながさき」、⓯「島原半島」、⓭「あまくさ」、⓮「薩摩」、❻「かごしま」といった5つの風景街道が展開し、走破すれば700㎞ほどで、2ページに述べたアメリカのブルーリッジパークウェイに匹敵する。

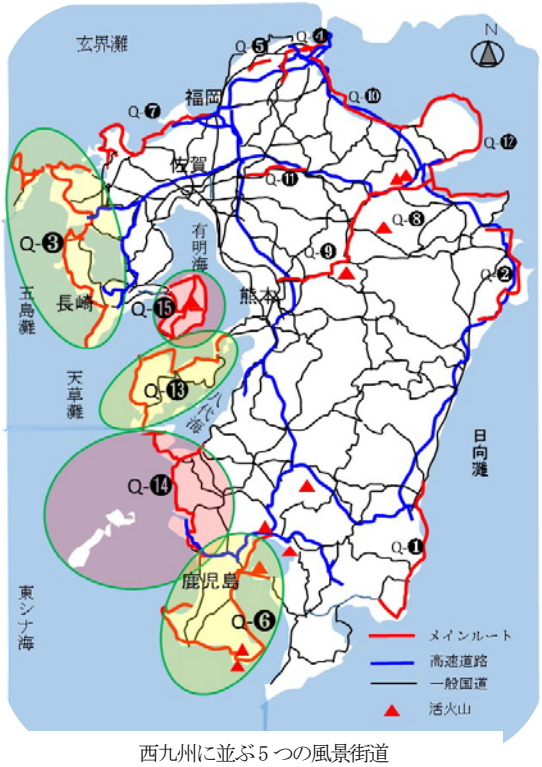
5つの風景街道で共通することの一つは、日本の最西端で夕日を眺めるサンセットラインである。東シナ海の彼方、「水天髣髴青一髪」（頼山陽）の海原に沈む夕日は、赤く大きな円、半円、そして水平線に沈み込み、夕闇が迫る。その間、自らが真っ赤に染まり、夕日に向かい、融けこむように祈る地域の人々を見るにつけ、美しいというだけでなく、自然の輪廻が感ぜられる。

二つ目は、九州西方沖に流れる対馬暖流の影響から、気候は温暖で、亜熱帯植物を各地に見ることができることである。温帯が主である日本の各地ではみなれないビロウやソテツ、アコウなどの珍しい植物の自生、群生を目の当たりにできる。色とりどりのハイビスカス、ブーゲンビリヤ、ジャカランダ、ポインセチア、ひまわりなども。

西坂の丘の日本二十六聖人（長崎市）Q-❸

上甑島-中甑島を結ぶ鹿の子大橋（薩摩川内市）Q-⓮

夕日に映える西方海岸人形岩（薩摩川内市）Q-⓮



西九州に並ぶ5つの風景街道

三つ目は宗教の伝来とその信仰である。西洋文明にしても、仏教やキリスト教にしても、東シナ海を介し西方から伝来した。このため、西九州はこれらの文明や宗教を一早く受け入れた。しかし、新たな宗教の伝来・導入は常に困難と苦労を伴った。戦国時代に伝えられたキリスト教は、当初こそキリシタン大名をはじめ多くの人々に受け入れられた。ところが、次第に時の権力者と対立。宣教師の国外追放、二十六聖人の磔、農民一揆と結びついた天草島原の乱、信者に対する踏絵や拷問と迫害を受け、世界に例を見ない「潜伏キリシタン」となった。

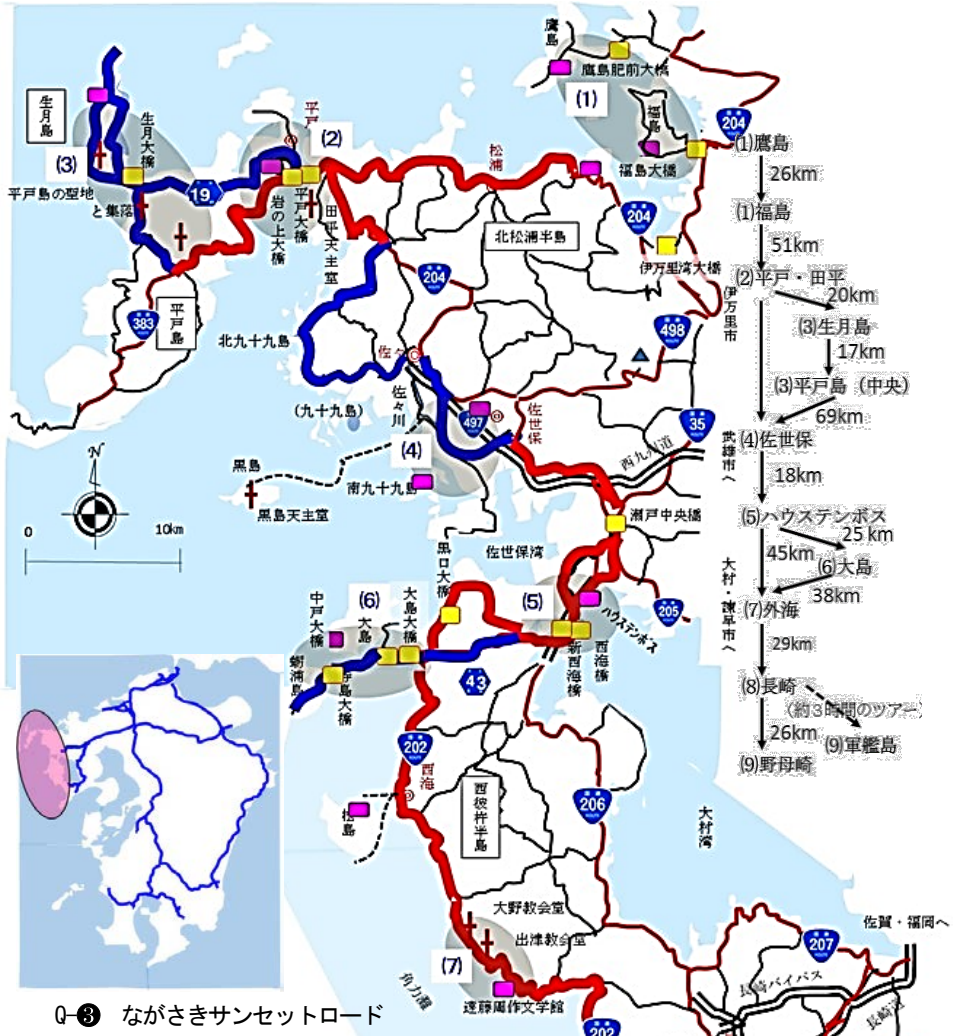
また、九州南部、特に薩摩では、仏教徒・一向宗への厳しい弾圧があった。これは新興宗派に対する警戒ともいわれているが、洞窟に隠れて密かに念仏を唱えるなどの苦難が強いられ、「隠れ念仏」とも呼ばれた。西九州の旅は真に殉教の道、巡礼の道を行くである。

そして、四つ目が長大橋群である。サンセットラインでつながる風景街道は、いずれも離島、半島を含む。このことから、いくつもの長大橋で海を渡るが、そのこと自体がまた風景ポイントで、見応えがある。海上で朝日に輝き、夕日に映える橋のシルエットは、厳しい自然の中の人の知恵と努力の結晶を映し出している。

西九州の旅は陸域を巡るだけではすまず、アクセスに注意が必要である。直接的には、長崎、天草、鹿児島空港があるが、多くは九州本土の空港や新幹線駅の利用が回遊の起点となる。また、島原・長崎と天草間、天草と長島間、および甑島、桜島へはフェリー、高速船による海路の利用となり、アクセス自体を旅情あふれる風景街道として楽しむことができる。

Q-❸ながさきサンセットロード（ながさき）―潜伏キリシタン関連遺産、夕日、長大橋―

本風景街道は南北に細長く、国道204、202、499号の並びがメインルートである。離島・半島を様々な形の長大橋がつなぎ、それ自体、および潜伏キリシタン関連遺産、日本一の多



Q-❸　ながさきサンセットロード

中世の松浦党（松浦市）

宝亀教会（平戸市）

島海に沈む夕日が基本テーマで、表情豊かな西海岸のドライブである。エリアは、松浦、平戸、西彼杵半島、長崎半島の４ブロックに大別できる。世界文化遺産など名だたる地域資源を有する観光地なだけに、ブロックごとに大きな魅力を持つが、細長い地形を踏まえ、北から順に各地を紹介すれば次のとおりである。

中世に活躍した松浦党の本拠地・松浦には、伊万里湾上に鷹島や福島（ともに松浦市）、さらに「いろは島」が浮かぶ。その中で、鷹島は元寇で島民が皆殺にされ、しばらくは人が住まなかったと伝えられるほどの辛酸をなめた。しかし現在、それを乗り越えてのモンゴル村があり、ゲルの宿泊施設がある。また、沈没した元寇船が眠るわが国唯一の海底遺跡（国史跡）がある。

平戸は、１５９４年にザビエルがキリスト教を伝えた地で、潜伏キリシタン、秘教と化したカクレキリシタンの里である。平戸城や生月島の塩俵の断崖などに寄り道し、ひっそりとだが色彩鮮やかな教会や秘教の地を巡れば、潜伏キリシタンたちの信仰の強さや苦労が分かる。

佐世保市は海軍のまち。自衛隊と米軍の艦船が出入りし、産業近代化を支えた佐世保重工の工場群がある。また、九十九島⑪は本地区の重要な風景ポイントである。どうしてこんなにも多くの島ができたのかと驚くほどで、２００余の小島が押し寄せる光景がある。さらに、同じ佐世保市だが、大村湾方向に向かうと、本物のオランダを主題にした九州最大のテーマパーク・ハウステンボスに至り、西彼杵半島に向かえば新旧の西海橋があり、その眼下は潮流が渦巻

軍艦島（世界遺産、長崎市）

大島大橋（西海市）

冬の長崎ランタンフェスティバル（長崎市）

いている。じっと見つめるといまにも吸い込まれる思いがするのは著者だけだろうか。

西海橋を渡り、造船の島大島に立ち寄りながら西彼杵半島の海岸沿いの小高い丘を南に進むと、遠藤周作が描いた潜伏キリシタン達の歴史小説「沈黙」の舞台・外海地区（長崎市）に至る。赤貧の中で奮闘したドロ神父の出津、大野の両教会がつとに有名だが、潜伏キリシタンも祈っただろう夕日に暖かく迎えられると、苦しみのすべてを彼方にして、すがすがしい。

斜面都市・長崎市の中心市街地は、日本、中国、西洋が混じる異国情緒の街である。同時に、原爆のまちである。二十六聖人が処刑された西坂の丘や大浦天主堂（潜伏キリシタン関連の世界遺産）と共に、「明治の産業革命遺産」登録の三菱長崎造船所のまちである。これらから、爆心地一帯の平和公園②、出島、石橋㊵-1、おくんち祭り（秋季大祭）で有名な諏訪神社、寺町、グラバー園㉓などと、和華蘭ほどの多彩な見どころといえば凝りすぎた表現だろうか。最南端の長崎半島区域がまた世界文化遺産であり、海底炭鉱跡の池島や軍艦島、高島がある。

Q－⑮ 島原半島うみやま街道（しまばら）-世界ジオパークの雲仙火山、天草島原の乱（世界遺産）

島原半島は長崎県南部の橘湾に面する。中央に千ｍを越える三岳五峰の雲仙火山が、その裾に南北にのびる溶岩台地がある。自治体でいえば、雲仙、島原、南島原の３市で、火山に慄きつつも、それ以上の恵みを得て約１３万人が暮らしている。「島原半島うみやま街道」はその半島全域が対象で、雲仙火山と農民が蜂起した天草・島原の乱が基本であり、メインルートは国道５７、２５１、３８９号で、総延長約１８０kmに及ぶ。

地図に示すように、島原半島へのアクセスは多彩である。長崎空港、福岡空港や博多港、熊本空港から高速道路で諫早ＩＣへ。そこから国道５７号に沿って東に約４０km進むと愛野①に至る。鉄道ならば、ＪＲ諫早駅経由でバスまたは島原鉄道を利用し愛野から島原市へ。有明海の航路を利用する場合は、福岡県大牟田市の三池港～島原外港③、熊本県長洲港～多比良港②、熊本県熊本港～島原外港③があり、天草市・鬼池港～南島原市・口之津港④間にもフェリーがある。

さて、本風景街道の景観資源は、世界ジオパーク、世界文化遺産とビッグだが、前者は、島原半島の成り立ち、雲仙火山の活動とその恵みである。

太古の昔（約４３０万年前）、半島一帯は海で小さな島があったに過ぎない。その後、海底火山の噴火が幾度となく繰り返され、半島状態へと成長した。その軌跡をたどるように、２５０万年前の噴火による国崎半島（雲仙市南串山町）の安山岩、１５０万年前の女島（南島原市加津佐町）の玄武岩マグマの水蒸気爆発の堆積物、１５０万年前噴出の安山岩土石流堆積物の両子岩（南島原市加津佐町）などをみることができる。

そして、５０万年前、高岩山が噴火、雲仙火山の活動が始まった。南島原市南有馬の龍石海岸はそうした際にできた地層が読み取れ、貴重である。

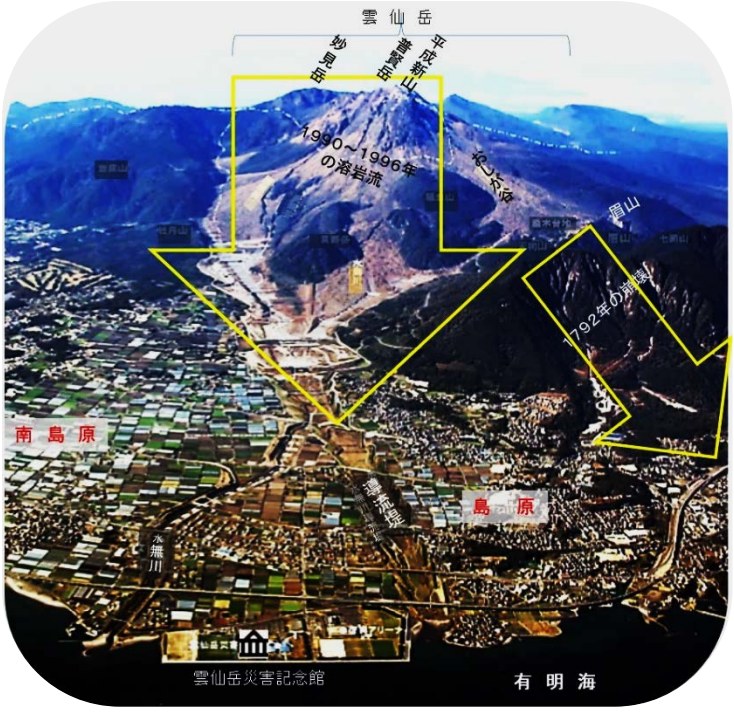
一方、地図で、島原半島の中央で、北よりの千々石（ちぢわ）断層と南側の金浜、深江、布津断層に挟まれるひょうたん型の区域が雲仙火山地帯をなす地溝である。国道を走行しながら展望所に立ち寄れば、北側断層の南面で約４５０ｍ、南側の北面で約５０ｍの断層による落差が俯瞰でき、今も年に１～１．５㎜ずつの沈下と、それを火山が補う地形の形成が続いている。

雲仙の火山活動の特筆は普賢岳の噴火災害である。１７９２年の噴火に伴う地震で眉山が崩壊したが、崩壊土砂が麓の街を襲い、有明海に流出、津波を起こし、対岸の熊本、

Q-⑮ 島原半島うみやま街道

島原城（島原市）

原城址（南島原市南亜有馬町）



眉山山体崩壊と平成噴火による溶岩流（島原市、南島原市）

150万年目に噴火の火山岩石が波の浸食でできた両子岩（南島原市）

小浜温泉の高温の源泉　（雲仙市）

天草を含め15000人に及ぶ甚大な死者を出した。そして、再び1990～96年の普賢岳噴火でも火砕流の発生とその土石流で市街地を潰し、40名を超える犠牲が出た（二章4節（2）項）。

火山の恵みである温泉は大変豊かである。橘湾の地下にマグマ溜まりがあり、その熱が雲仙火山に伝わり、半島全体が温泉地をなしている。主なものは小浜、雲仙、島原温泉だが、各々で泉質が異なる。小浜は高温で、最高温度105度の熱水が吹き出すことで知られている。雲仙は30の噴水と熱い蒸気が吹き出す地獄で、最高98度の硫黄泉は傷に効くといわれ、島原は約40度の炭酸ガスを含む温泉で、肌に良いと評判である。

島原半島のもう一つの資源は、天草諸島の人々と一緒になった農民達の反乱で、その遺跡は世界文化遺産である。過酷な税、飢饉、クリスチャンに対する弾圧に耐えられず、当時16歳であった天草四郎を指導者にわが国最大の反乱が起きた（1637、38年）。島原半島では、有馬村の農民による代官殺害が引き金で、その後深江村で戦い、そして島原城を攻撃。天草も農民たちが本渡城、富岡城に押し寄せた。しかし、どれも占め落とせず、農民たちは放棄されていた原城に集結し立てこもった。幕府軍13万人の武士に対し、一揆勢は女、子供を含め総数37000人。軍事力に勝る幕府軍であったが、攻撃するも失敗。そこで兵糧攻めにしながらの攻撃で、城中の人々すべてを殺害または死に追いやるという他に例がない惨事で終った。

その後、禁教令は強化され、200年余にわたりキリシタン達は抑圧された。このため、密かに隠れての信仰となったことは、二章の6節や三章の2節に述べたとおりである。

以上に加えての重要な歴史探訪を追記すれば、半島北端の雲仙市国見町に神代（こうじろ）と呼ぶ地区がある。南北朝、鎌倉時代に神代氏の居城があったことに由来し、江戸時代には佐賀藩の飛び地で鍋島氏の配下となり、鍋島邸や武家屋敷がつくられ、今も残る。一方、戦国時代の島原の大半は有馬氏が治め、その居城が日野江城で、支城に原城が構築された。しかし、江戸時代に有馬氏は延岡藩に転封され、板倉重政が引き継ぐが、手狭なことから禄高4万石に見合わない大規模な島原城が築かれた。その板倉氏は島原の乱の失策で改易となり、以後譜代大名が入れ替わり、明治時代を迎えて廃城になり、戦後に復元されている。さらに、半島の南端には口之津港がある。16世紀に平戸港と共にいち早く開港され、南蛮船貿易の拠点、大分三池炭鉱輸送の中継港として賑わった近代化遺産である。

Q-⑬　あまくさ風景街道（あまくさ）－ジオパーク、天草の乱、潜伏キリシタン－

天草はすべてが島だが、1966年に天草五橋が建設された。これで宇土半島、大矢野島、天草上島が繋がり、その後のさらなる架橋でこれらとその周辺の島々が数珠つなぎになった。いまや御所浦島、湯島などの一部を除くと、天草の有人島のほとんどが橋で繋がる。その中で、大矢野島、天草松島、天草上島、天草下島、通詞島、下須島、それらに御所浦島・牧島を加えた一帯が「あまくさ風景街道」の地域である。

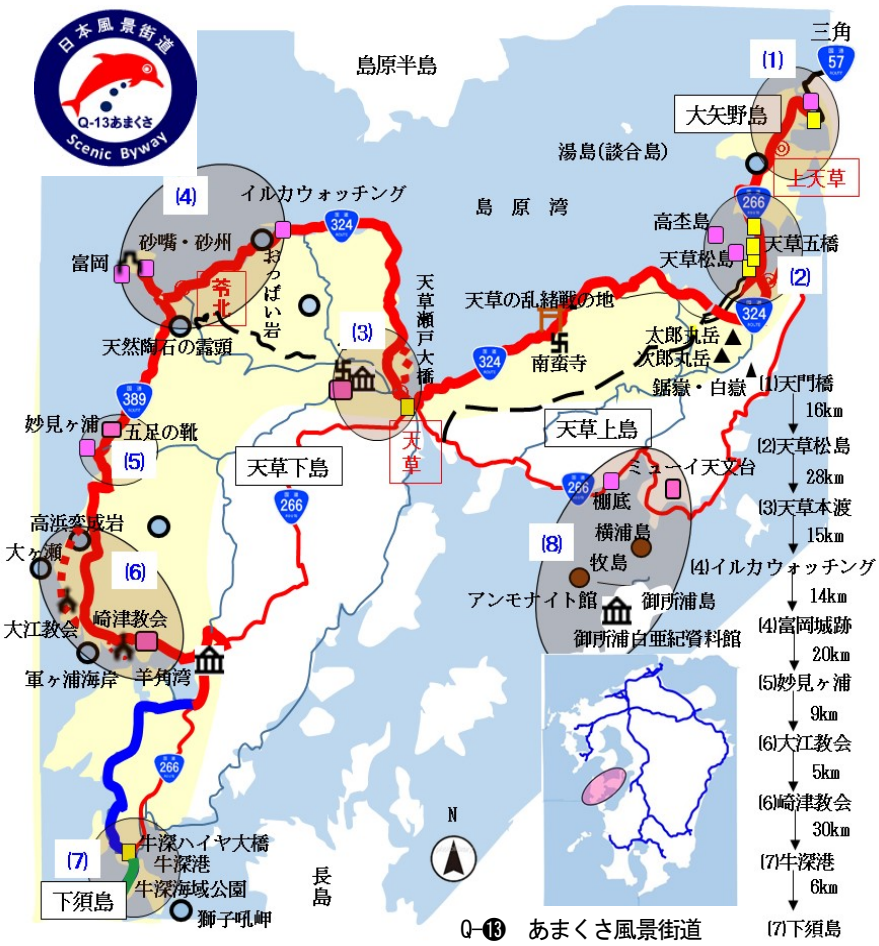
宇土半島の先端に「明治日本の産業革命遺産」に登録された三角西港㉓がある。そこを出発して国道266号を下り、天草松島で国道324号へと進み、そして天草瀬戸大橋をわたると、本渡を経て、トンボロの島・富岡へ至る。さらに、国道389号を南下し、一部県道、市道を通り牛深か

天草松島と天草５橋の４，５号橋（大矢野島～天草上島）

イルカウォッチング

夕日に染まる妙見ヶ浦（天草下島）

大江教会（天草市）



Q-⑬　あまくさ風景街道

ら下須島の先端に至るが、このルートが本風景街道のメインであり、主に天草の西海岸を通過している（地図参照）。

本風景街道の重要ポイントには２つがある。その一つは、天草島原の一揆と南蛮文化である。若干１６歳のキリシタン少年・天草四朗時貞㊱が率いた農民達と江戸幕府の鎮圧隊の武士達との戦いがあった。Q-⑮と重なるが、天草の立場で述べれば、天草上島を緒戦の地に、天草下島の本渡城、富岡城を経て、島原半島に渡り原城に立てこもった。しかし最後は、内通者一人を除いて３万７千人の農民たちがことごとく討ち死または自殺するという世界で例を見ない悲惨な戦いとなった。幕府軍の武士団１３万の４分１ほどだが、大半を素人が占め、兵糧攻めで崖下の海藻をたべて飢えをしのぎながらもよくぞ持ちこたえたといってよい。その後、戦いに加わらなかったキリシタンたちは天草南部などに潜伏し密かに信仰を続けたが、明治時代に信仰の自由を得て復活した。彼らのことを潜伏キリシタンといい、そこに派遣された神父の助けのもとに、大江、崎津教会㉔（世界文化遺産）が建てられた。

いま一つは、従来ジオパークとされてきた諸内容である。恐竜やアンモナイトの化石の島・御所浦島等、島原湾口の野生イルカのウォッチング、天草西海岸のサンセット、奇岩・奇勝の天草下島の南部沿岸、わが国初の牛深海底公園などとジオサイトに恵まれ、見どころが多い。また、わが国で必要な陶石の８割が天草でまかなわれており、天草なくして我が国の陶磁器はないといってもよい。

以上をもとに、ルートに沿い主要な風景スポットを示すと図のとおりである。三角から下須島まで海岸線を行く約１５０kmのドライブである。

天草１号橋（天門橋）～天草松島の国道２６６号区間は、八代海と有明海がつながる景勝地である。天草五橋が架かり、島々を橋で縫い合わせる光景が広がる。続いて、天草上島の島原湾よりにユーモラスな愛称の「タコ街道」（国道３２４号）を進むと乱緒戦の地があり、本渡大橋を渡れば天草市の中心市街地に至る。天草島原の乱の激戦地である本渡城跡には天草キリシタン館があり、それに隣接して殉教戦千人塚や、激戦の地となった珍しい多柱式石橋の祇園橋（国重文）が架かる山口川がある。

その先の通詞島付近では、本風景街道の一大ショウともいえる湾口に自然に住み着いたイルカウォッチングを楽しむことができる。そして、さらに進めば陸繋島があり、富岡城跡に至る。ここでの戦いの後に、天草四朗率いる農民たちは坂瀬川（苓北町）の河口から島原にわたった。

天草市の南部は戦国時代に天草最大の地頭であった天草氏の本拠地である。中世には河内浦城、高浜城、大江城などと一門の城が築かれ、そのいくつかは城跡公園として今も痕跡が残る。また、西海岸は、景勝地や夕陽を望む箇所が実に多く、大江、崎津など南蛮文化の花を咲かせた里である。

牛深港に至ると、何はさておいても目に飛び込むのが、素晴らしい曲線を描いて牛深湾を跨ぐ牛深ハイヤ大橋㊳である。それを渡った先に下司島があり、我が国初の海域公園がある。また、牛深では毎年４月には強烈な南国のリズムにのった牛深ハイヤ祭りが行われている。

以上は、橋から橋とつながる天草地区だが、それにつながらないのが御所浦島で、１億万年も前の地層から恐竜やアンモナイトの化石などが発見されている。島へは水俣、三角、本渡、棚底、大道の各港からの定期航路があるが、特に棚底港からの便数が多く、港近くの集落に防風石壁を持つ家屋が並び珍しい。徒歩１時間ほどの寄り道として好都合である。

Q-⑭　薩摩よりみち風景街道（薩摩）　-出水平野のツル、武家屋敷、８千万年前の甑島-

鹿児島県の薩摩地域のうち、北部の出水市から日置市東市来地区に至る北薩摩が「薩摩よりみち」で

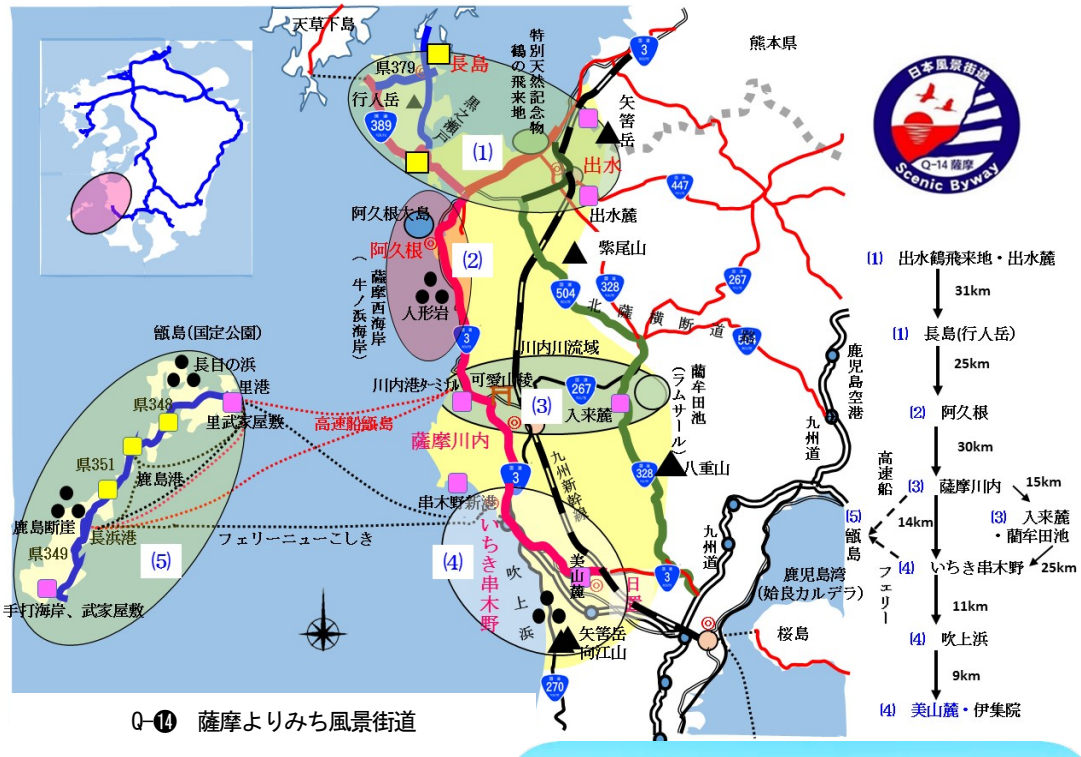
あり、国道3号、389号と甑島縦断の県道348、349、351号がメインルートである。

北薩摩地域は、島津家初代の忠久（元は惟宗忠久で源頼朝の御家人）が鎌倉時代に大隅国、薩摩国、さらに日向国の守護職を任ぜられたとき、最初に拠点を築いた地である。このことから歴史ある資源内容が多く残るが、その配置からすれば、出水・長島地区、阿久根・薩摩西海岸、薩摩川内地区、いちき串木野・日置地区、および甑島の5地区に大別できる。共通する重要な風景スポットは大自然であり、鎌倉・江戸時代から続いた地域システム・外城制度とその武家屋敷が並ぶ「麓」の集落である。

北から南へ向かえば、まずは大自然の一つに特別記念物「出水平野のツル」が挙げられる。冬になると1万羽以上が越冬に飛来し、餌をついばみ、群れを成して飛び回る姿は壮観この上ない。

二つ目は、阿久根市から薩摩川内市にかけての薩摩西海岸の景観ドライブである。かつての薩摩街道におおむね沿い、徳川家最後の第13代将軍徳川家定に嫁いだ篤姫が見たであろう光景が広がる。中国大陸へ一直線の荒海で、奇岩景勝、そしてシラス土壌が産み出した砂浜の目もくらむ光景がある。

三つ目は、川内川支流・樋脇川上流のラムサール条約登録湿地・藺牟田池（いむたいけ）である。いくつもの小さな溶岩ドームで取り囲まれ、そのとどめに飯盛山が立ちはだかってできた湖⑱がある。名


天草下島
熊本県
長島
県379
行人岳
(1)
特別天然記念物
鶴の飛来地
矢筈岳
出水
出水麓
447
阿久根大島
阿久根
(2)
人形岩
(薩摩西海岸（牛ノ浜海岸）)
磯釣り
磯釣り
磯釣り

の青少年教育制度（先輩が後輩を指導し、同輩が助け合うもので、郷中教育と称した）を作りあげた。これらは明治の始めまで続いたことから、中世の城跡、麓における江戸時代の御仮屋跡やその門、武家屋敷を随所に残して、いまも多くの人々が暮らしている。

麓の武家屋敷は武家色が強いものから農家に近いものまでさまざまである。それらの中で、本風景街道地域において特色あるものに、薩摩藩の北端で規模が大きい出水市の麓町や野田麓、中世から近世初期の趣が残る薩摩川内市の入来麓、朝鮮陶工を源流とする日置市の美山麓、トロピカルな雰囲気を持つ上甑・里および下甑・手打の武家屋敷が挙げられる。

以上の他の寄り道として、出水市で島津家発祥と関わりがある寺社、長島町のフラワーロード、快水浴場１００選の阿久根市の阿久根大島、鹿児島県最古で、西郷隆盛と縁が深い川内高城（たき）温泉がある。あるいは、薩摩川内の可愛山陵㉕、東郷町の文弥節人形浄瑠璃、いちき串木野市の薩摩藩英国留学生記念館（幕末に薩摩藩の留学生１５人を送り出し、その関連資料を展示）、日置市の島津義久公を祭る徳重神社などがあり、じっくり見て回るとよい。

Q-❻ かごしま風景街道（かごしま）―活動続く桜島、激動の明治、秘境の薩南―

「かごしま風景街道」は、桜島および薩摩半島の南一体で、その主軸は鹿児島湾だが、２万年も３万年も前に遡れば、人吉、加久藤盆地から阿多、さらに鬼界島付近までは一大地溝であった。それが、阿多カルデラや姶良カルデラなどの火山活動で、幾度もの大噴火があり、鹿児島湾（錦江湾）が形成され、桜島、開聞岳の雄姿が出現、池田湖などが形成された。こうした本風景街道全体を見渡せば、４地区に分けられ、メインルートは国道２２４、２２５、２２６号である。

まず第１は、ジオパーク桜島の周回である。もとは島だが、大正３年（１９１４年）の噴火で大隅半島と陸続きになった。通常は鹿児島港からフェリーで渡り、車やバスでもとの島をたどるように一周できる。溶岩なぎさ遊歩道、黒神埋没鳥居などが見どころ。その上で、湯之平展望所（標高３７３ｍ）に登れば、今にも崩れんばかりの北岳（御岳）、南岳などの荒々しい山々を見上げつつ、溶岩原、錦江湾、対岸の鹿児島市などが眺望でき圧巻である。

第２は、鹿児島市街地とその周辺で、島津斉彬、篤姫、西郷隆盛、大久保利通が本地区の風景街道巡りのキーとなる人物である。いずれも江戸末期から明治にかけて、幕末の江戸幕府を支え、明治維新を成し遂げ、明治の近代化を推進した人達だ。

鹿児島中央駅から北上すれば、駅前広場の彫刻「若き薩摩の群像」がまず目に飛び込む。江戸末期に島津斉彬の発案で海外に羽ばたき活躍した若人たちの像である。その中にアメリカでブドウ栽培に成功しワイン王といわれた長澤鼎がいる。レーガン米大統領が訪日の際に国会演説で紹介した人物である。

次いで、都心近くに至ると西南戦争の弾痕跡が残る鶴丸城（鹿児島城）跡があり、島津家から徳川家に嫁ぎ、幕末の幕府を支えた天璋院篤姫が育った今和泉島津家屋敷跡がある。あるいは、甲突川のかつての石橋（江戸末期）を復元・保存する石橋記念公園㊵-1があり、九州の石橋文化を伝えている。

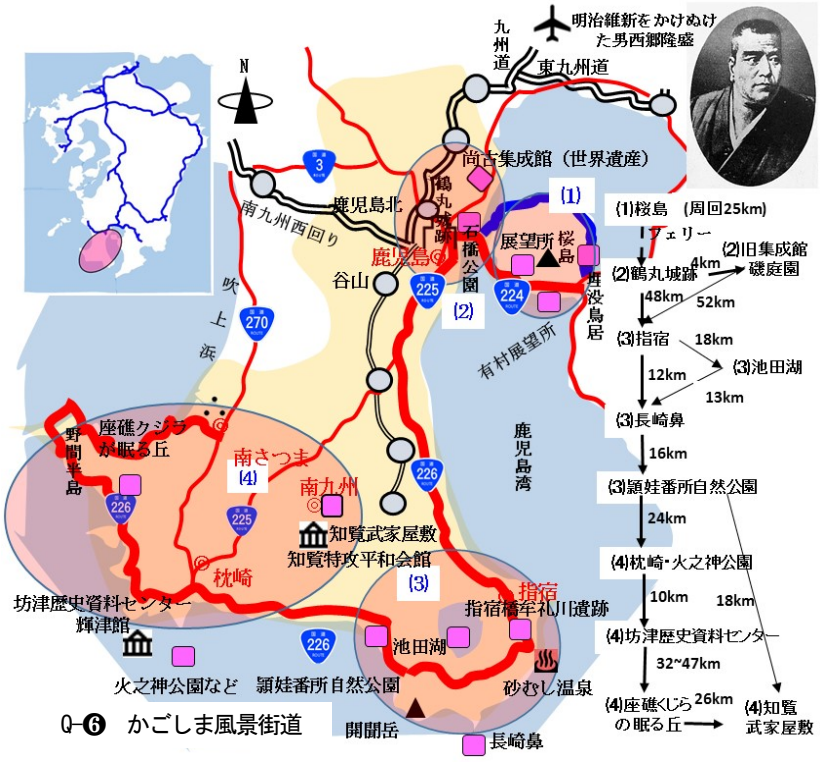
そして見落としてならないのが世界遺産の尚古集成館とそれに隣り合う島津家の別邸仙巖園（別名・磯庭園）だが、尚古集成館は江戸末期に島津斉彬が建てた機械工場（現在は博物館）である。

３つ目が、錦江湾を眺めつつ国道２２５、２２６号を下った薩摩半島の東南の指宿地区である。指宿の砂むし温泉で汗を流し、すっきりしたところで、縄文時代の遺跡から奈良時代の建物まで重層する点で貴重な指宿橋牟礼遺跡や、開聞岳のふもとの枚聞（ひらきき）神社、カルデラ湖の池田湖、ランドマークなす開聞岳、薩摩半島最南端の岬・長崎鼻と巡るがよい。

尚古集成館（世界遺産）（鹿児島市）

知覧の武家屋敷（南九州市）

開聞岳（指宿市 ）



Q-❻ かごしま風景街道

鹿児島の市街地と鹿児島湾、桜島（鹿児島市）

島津藩の別邸の鈴門

4つ目は、開聞岳を過ぎ、起伏、奇岩が多い薩摩半島最南端の海岸沿いの薩摩半島南西の地区である。鰹節の生産が活発な枕崎、遣唐使船、遣明船の寄港地であった坊津の一帯がある。倭寇や薩摩藩の密貿易の拠点であったが、唐の高僧で、わが国の律宗の開祖となった鑑真が上陸したことでも知られている。そして、さらに西へとたどれば野間半島（陸繋島）。そこから砂の祭典で有名な南さつま市の吹上浜を経て、山間のまち・知覧（南九州市）に回り込めば、相星の隠れ念仏洞（三章2節のⅠ）、薩摩を代表する知覧武家屋敷がある。また太平洋戦争で神風と名をはせた特攻隊の資料が展示される特攻平和会館も忘れてはならない。

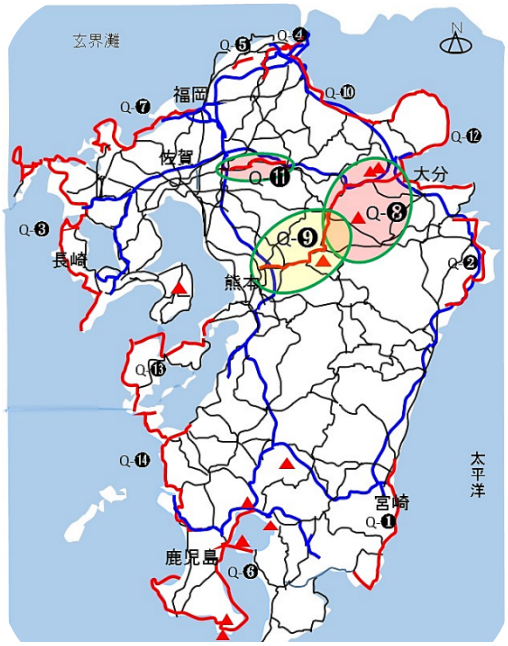
4　山々を越え、ツーリズムを楽しむ九州横断

豊予海峡側から有明海側を結ぶ九州の中央横断は山また山で、阿蘇や九重、鶴見岳などの火山群が立ちはだかる。それにもかかわらず、早い時代から九州中央部における縦横断の道が整えられてきた。その理由にいくつかのことが思い浮かぶ。まずは、山とはいえ、一部を除けばさほど高く急峻な山はなく（二章の2節）、盆地や高原が広がっていることがあげられる。また、火山の噴火は恐ろしいが、その反面で温泉、地熱など、他で手に入らない自然資源があり、ヒューマンスケールを超える山すその高原に湿地や池が存在する。これらから、本地域がたとえ山あいでも、その魅力に多くの人々が惹きつけられ、随所に集落が発達した。

地域の道で主要なものを具体的に拾い出せば、特に3路線があげられる。一つは、江戸時代の初めに、熊本藩の加藤清正が肥後国熊本～豊後国鶴崎間で切り拓いた横断の道・豊後街道である。参勤交代に際し、熊本城の札ノ辻から、阿蘇を経て大分市の鶴崎に至り、そこから海路を行くものである。二つ目は、江戸幕府が天領日田に「西国筋郡代」を置き、九州諸藩の動静監視を行ったことに伴い整備された道路網である。日田を起点に、日田往還などが九州各地に向けて整備された。

いま一つ忘れてならないものは、戦後の車社会の到来で、いち早く有料道路「やまなみハイウェイ」が整備されたことである（1964年）。標高は湯布院盆地で450m、最も高い牧ノ戸峠で1340mだが、この道の開通で九重・阿蘇地域に多くの観光客が押し寄せている。週末や休日ともなれば、高原のツーリング、車によるドライビングを楽しみ、グリーンツーリズムや山登りをする人達が多く集まる。

要するに、九州中央部は、連なって聳える火山のふもとに広がる高地であるが（表7）、自然資源に恵まれている。その中で、九州の東西を結びつけ、縦横に張り巡らした道路網の発達があり、それらが今日の同地域における国道、県道である。これをもとに、❽「やまなみ」、❾「阿蘇くまもと路」、⓫「みどりの里」の風景街道が組み立てられている。車窓から広がる雄大な景色を見ながら、村やまちの歴史をたどり、心身をいやし、山苞の恩恵にあずかれば、各々の風景街道を巡るもよし、体験するもよしである。



九州横断の3風景街道

Q-❽九州横断の道やまなみハイウェイ（やまなみ）―別府湯布院、久住高原、岡城―

「九州横断の道やまなみハイウェイ」は、九重（くじゅう）連山、由布岳を背に、九州の尾根なす高原を行く風景街道である。メインルートは図に示すとおりで、基本は大分、熊本の県道11号である。その一部区間（由布市水分峠～阿蘇市一の宮間）を「やまなみハイウェイ」と呼び、九重の山々を眺望しながらの高原のドライブウェイとして人気が高い。

風景街道エリアの主要な箇所は、別府、湯布院、九重（ここのえ）、九重（くじゅう）、竹田の4地区である。これらすべてに共通する資源は、わが国随一の温泉地帯であり、図にプロットできないほどの温泉がある。いうまでもなくそれらは火山の恵みによるが、一方で鶴見岳、由布岳の周りには別府、由布院、塚原、湯平など、他方で九重連山の周りには長者原、筋湯、川底、宝泉、七里田、長湯、筌ノ口、赤川などの温泉群がある。

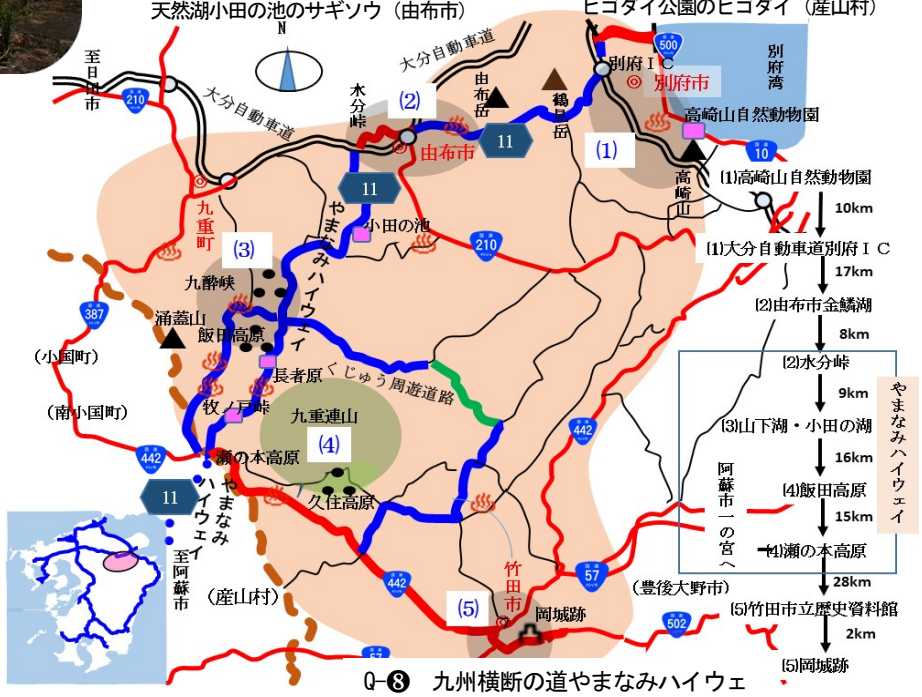
ところで、別府地区は、鶴見岳の噴火や地震で土砂災害が多発。それが別府湾に流れ出してできた扇

九重連山の眺望し巡るやまなみハイウェイ　Q-❽

美しい曲線なす白水堰堤水利施設(竹田市)

天然湖小田の池のサギソウ（由布市）

ヒゴダイ公園のヒゴダイ（産山村）



Q-❽　九州横断の道やまなみハイウェ

状地である。

温泉の活用は奈良時代に遡り、江戸時代には明礬が盛んに採掘された。別府駅前広場に手を広げた油屋熊八の像がある。現在の別府観光は、その熊八の功績によることが大きい。また、湯布院に田園型保養地を築いたのも熊八である。

別府巡りは、市街地周辺に展開する八湯めぐりと地獄めぐりが主であり、これに近代化産業遺産認定の竹瓦温泉とその周辺のまち歩きがある。一方、湯布院は、由布岳の麓の金鱗湖を周遊し、そこから湯の坪通りや小川をめぐれば、熊八が目指した田園豊かな別府の奥座敷が満喫できる。

九重地区は、いうまでもなく九州本土最高峰の山々からなる九重連山一帯の高原である。湯布院側からならば水分峠で、阿蘇の大観峰からならば瀬の本高原を経てやまなみハイウェイに入ることができ、また九重連山を周回する道が整備されている。九重の山々を眺めつつ、高原の風を受け、飯田高原、タデ原湿原⑰（ラムサール）、瀬の本高原、久住高原をドライブすることを薦めたい。途中の小田の池は数少ない天然の池であり、飯田高原、牧ノ戸や長者原なども壮大な眺めを楽しむことができる。

ＪＲ豊後中村駅から飯田高原に登る途中に九酔峡、九重（ここのえ）「夢」大吊橋（日本一の歩道専用橋、長さ３９０ｍ）がある。その渓谷は秋の紅葉狩りが有名で、曲りくねる道路「十三曲がり」からの眺めは黄、赤と大変きれいである。

久住高原から竹田に回り込めば、滝廉太郎の「荒城の月」で有名な岡城址㉟がある。麓は江戸の風情が残る静かな城下町で、滝廉太郎記念館（松川茶屋内）、観音寺十六羅漢（国重文）などがあり、竹田湧水群や日本一美しい白水堰堤がある。反対に、竹田市直入町の長湯温泉へ足を延ばすと、これまた炭酸の濃度が高い茶褐色の湯に遭遇する。同質の温泉ということもあってドイツのバートクロツィンゲン市と姉妹都市である。

由布岳の麓の金鱗湖（由布市）

別府駅前の油屋熊八の像

別府地獄巡りの山地獄

Q-❾九州横断の道阿蘇くまもと路（くまもと路）―熊本城、阿蘇山、豊後街道―

「くまもと路」は、前出の「Q-❽やまなみハイウェイ」と繋がり、両者をまたいで周遊する人が多いが、「くまもと路」に限れば国道５７号とやまなみハイウェイ（県道１１号）がメインルートである。大まかには、熊本県下の小国・南小国・産山（うぶやま）地域、噴煙挙げる阿蘇五岳・カルデラ・外輪山の阿蘇山、および熊本城とその周辺の３区域と、それらをつなぐ沿道エリアで構成される。その中で、前２者は阿蘇国立公園に含まれ、大自然や火山と共生する人々の暮らしを巡ることとなる。３つ目の熊

本市とその周辺は、いまなお清正公（せいしょうこう）様と親しまれる熊本藩初代藩主・加藤清正の手による豊後街道と熊本城を訪ねる旅である。

さて、小国・南小国だが、本地区ではやまなみハイウェイの瀬の本で、国道４４２号（日田往還）、２１２号を通り日田に抜ける途中に森林セラピーロードがある。その中で小国は、北里柴三郎（破傷風研究で有名な日本細菌学の父といわれる医学者）の出身地であり、その生家および貴賓館が保存されている。また、杖立温泉と下筌・松原ダムがある。ダムは、建設に際し、山林主による蜂の巣城を築いての反対闘争がよく知られ、着工以来１５年の年月を要し竣工した。南小国町は、人気の黒川温泉をはじめ、多くの温泉が山々の中で静かに湯煙をあげている。

やまなみハイウェイに戻って南下し、あるいは、大観峰から西に向かい産山村役場方向に寄り道すれば、ヒゴダイ大橋があり、豊後街道の「境の松阪の石畳」、「弁天坂の石畳」などに遭遇し、側溝もある優れた豊後街道を歩くことができる。

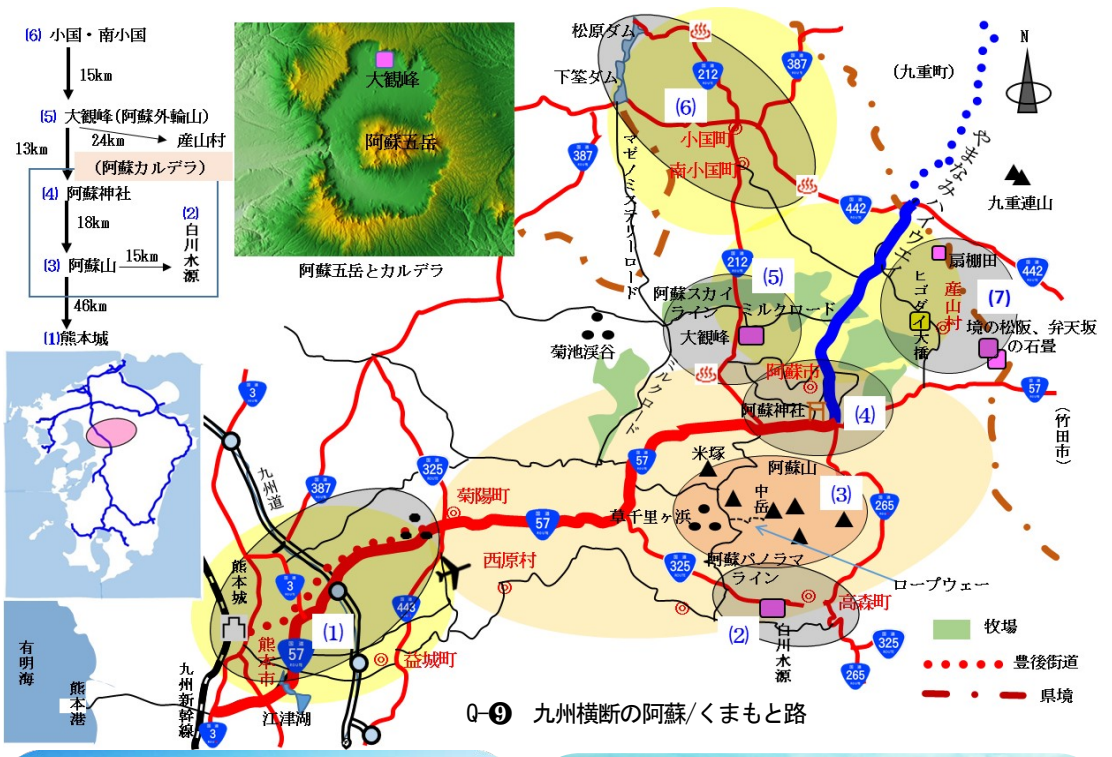
あるいは、瀬の本からやまなみハイウェイを進み、南小国から国道２１２号に南下すると、阿蘇外輪山にそっていくつもの牧場に出会い、それらを縫うのがミルクロードである。そして、その中途に大観峰（だいかんぼう）があり、そこから世界有数の規模を誇るカルデラおよび噴煙上げる阿蘇火山が眺望できる。

その後、世界ジオパークの認定地・阿蘇を行けば、それこそ本風景街道の本舞台である。火振り神事で有名な阿蘇神社（肥後国一の宮、阿蘇市）、米俵を積んだ姿の米塚（杵島岳の孫火山）、草千里（古い火口跡草原）、火口を抱く中岳などを巡るスペクタクルな光景の中のドライブが楽しめる。阿蘇を挟んで大観峰と反対の南阿蘇へ進めば、透明度が高く、清らかで神秘な白川水源に至り、近くを南阿蘇鉄道のトロッコ列車が走っている。

阿蘇から、熊本城へは、国道５７号の旧道・豊後街道を行く。阿蘇市二重（ふたえ）峠～大津の清正公道、大津～熊本の大津街道があり、石畳、杉並木が残り、当時の面影がしのべる。あるいは、菊池郡菊陽町の杉並木は、旧国道５７号（現在の県道３３７号）と鉄道豊肥本線に挟まれ、その幅員は３０～４０ｍに及ぶ。

そして、熊本市内に入ると、熊本城（国史跡）㊲に至る。熊本城は日本三大名城の一つで、清正流石組みの石垣の上に天守閣などが仁王立ちするように建つ様子はまさに鉄壁の守りである。城下町（新町・古町）は歴史の宝庫であり、あるいは水前寺成趣園（水前寺公園ともいう）や緑川水系加瀬川が膨張してできた江津湖、熊本市最古の健軍神社などとみどころが多い。

加えて、宮本武蔵が「五輪書」を執筆したといわれる金峰山の岩戸・霊巌洞（西区）や墓がある武蔵塚公園（北区）があり、夏目漱石が歩いた金峰山や草枕の峠の茶屋（西区）などがある。



Q-❾ 九州横断の阿蘇/くまもと路

阿蘇大観峰（阿蘇市）

阿蘇草千里（阿蘇市）

的石御茶屋跡（阿蘇市）

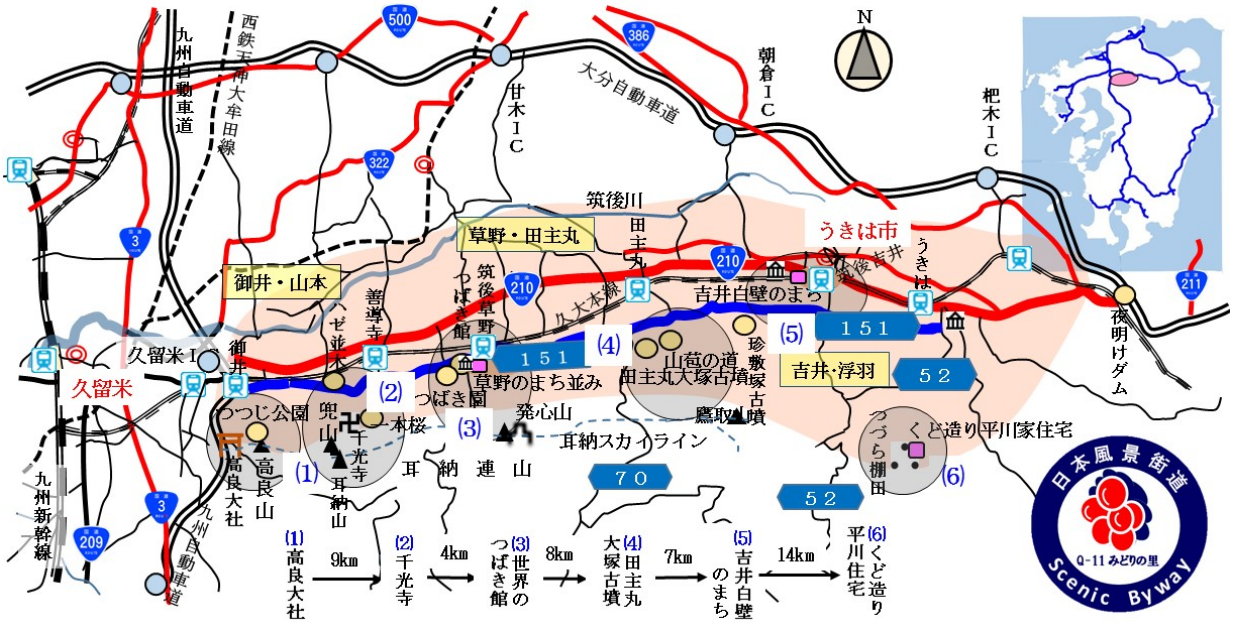
阿蘇神社御田祭（阿蘇市）

Q-⑪ みどりの里・耳納風景街道（みどりの里）－耳納連山、ツツジ・椿木園、山茛の道－

改めて地図を広げると、筑後平野の南端に沿うように耳納連山の高良（こうら）山、兜山、発心（ほっしん）山、鷹取山などが東西に線状に並ぶことに気付くだろう。これは、10本ほどの断層群からなる水縄（みのう）断層に沿うが、日本書紀に記載されている筑後地震（679年）によるものである。

本風景街道はこの北側斜面の麓で耳納連山と筑後川に挟まれたエリアに展開している。九州自動車道の久留米ICを降りた直ぐの久留米市御井・山本町から草野・田主丸、うきは市の吉井・浮羽と繋がる。中でも国道210号と耳納連山の尾根筋（耳納スカイライン）の間が主たるエリアである。国道の北側の筑後川沿いは豊かな穀倉地帯が広がり、逆の山裾には国道210号が、その少し上を県道151号が東西に並行し、これらがメインルートである。

エリア内を西から東へとたどると、あじさい寺（千光寺）、森林つつじ園、紅葉寺（永勝寺）、桜の名所、世界のつばき館、彼岸花の畦道と百花繚乱である。ハゼ並木、銀杏並木、野生のツバキや紅葉と、彩鮮やかである。また、果樹栽培が盛んで、特にブドウ（巨峰）、ナシ、柿が有名である。要するに、本地域は様々にみどりをなし、樹々なす山裾であり、その中で四季折々の花園、野趣味あふれる田舎の並木道、手入れが行き届いた造園を存分に楽しむことができる。



Q-⑪ みどりの里・耳納風景街道

くど造り（右２棟）の旧平川家住宅（うきは市）

吉井白壁通り（うきは市吉井町）

珍敷塚古墳の彩色壁画（６世紀後半、国史跡、うきは市）

極彩色の専念寺（久留米市草野町）

他方、あまり知られていないが、耳納山の麓に古代豪族の巨大な前方後円墳や装飾古墳があり、由緒ある豪華な須佐能袁神社や華麗な専念寺が見られる。これらは、かつて古代筑後国の在国司として草野一族が支配したこと、その後、豊臣秀吉に滅ぼされはしたものの、江戸時代には精蝋業などで財を成したことに由来する。

日田と久留米を結ぶ日田往還（県道151号）に沿って、地域繁栄の象徴としてのきらびやかな寺社が目を引き、草野の大正モダンな建物、吉井の白壁通りが今も保存されている。これらをたどるとき、古墳時代から現代に至る長い時を超えて文明の花が咲く歴史街道巡りでもある。

本風景街道にいま一つの自慢がある。それは夏目漱石と火野葦平が描く文学の世界である。かつて熊本の第五高等学校に勤めた夏目漱石は、久留米在住の親友をしばしば訪ねた。その際、耳納連山を歩き、多くの俳句を残した。一方、「田主丸」はカッパ伝説が多く、そこに乗り込んだのが火野葦平。戦後、北九州（若松）から通い、100を超えるカッパ小説をものにした。

最後は、うきは市のゾーンであり、つづら棚田⑲および旧平川家住宅がある。この地方ではかまどのことを「くど」と呼ぶ。旧平川家住宅はそれに似た構造であることから、「くどづくり」と称している。かつて筑後川流域でよく見た形式であるが、今は平川家住宅のみが完全な形で残されており、大変貴重な古民家（国の重要文化財）である。

断層に沿う耳納スカイライン（久留米市、うきは市）

かっぱのまち「田主丸」（久留米市）

咲き乱れるつつじ（久留米市世界つつじセンター）

九州風景街道のガイドブック一覧

List of Guidebook of Scenic Byway Kyushu

http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/fukeikaido/guidebook.html

（上記のホームページからコピーできます。（無料））

全体編　○Japanese Edition:　九州の風景街道　　その１　総論

○English Edition：　Scenic Byway Kyushu　Part 1 Overview

その２　ルート別ガイド	Part2　Leaflet by Route	
日南海岸きらめきライン	Q-❶	Nichinan Sparkling Coast
日豊海岸シーニック・バイウェイ	Q-❷	Nippo Seashore Road
ながさきサンセットロード	Q-❸	Nagasaki Sunset Highway
北九州おもてなし“ゆっくりかいどう”	Q-❹	Kitakyushu Hospitality Roads
ちょっとよりみち唐津街道むなかた	Q-❺	Munakata Historic Byway
かごしま風景街道	Q-❻	Kagoshima Scenic Byways
玄界灘風景街道	Q-❼	Genkai Coastal Highway
九州横断の道やまなみハイウェイ	Q-❽	Yamanami Highland Parkway
九州横断の道阿蘇くまもと路	Q-❾	Aso/Kumamoto Scenic Roads
豊の国歴史ロマン街道	Q-❿	Toyonokuni History Roads
みどりの里・耳納風景街道	Q-⓫	Green Village in Minou Mountains
別府湾岸・国東半島海べの道	Q-⓬	Scenic Area of Beppu Bay and Kunisaki Pen.
あまくさ風景街道	Q-⓭	Amakusa Islands Drive
薩摩よりみち風景街道	Q-⓮	North Satsuma Scenic Tour
島原半島うみやま街道	Q-⓯	Umi-Yama Scenic Byway in Shimabara Pen.

九州の風景街道（その１）

令和２年７月　第２版

編著　ルートガイド編纂委員会

樗木武、　堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、桝谷秀秋.

九州の風景街道(文責)　樗木武

発行　九州風景街道推進会議

©（無断転載を禁ず）

九州地方整備局 道路管理課内